

Passo a Passo



平成22年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

教 職 課 程
司書教諭課程
司 書 課 程
学 芸 員 課 程

Vol. 13

専修大学21世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、
地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力
専修大学が創り育てる“知”

専修大学は、2009年、創立130年を迎えました。

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目加田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法学を教授するため大学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「社会に対する報恩奉仕」を、現代的に捉え直し、「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」を21世紀のビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。



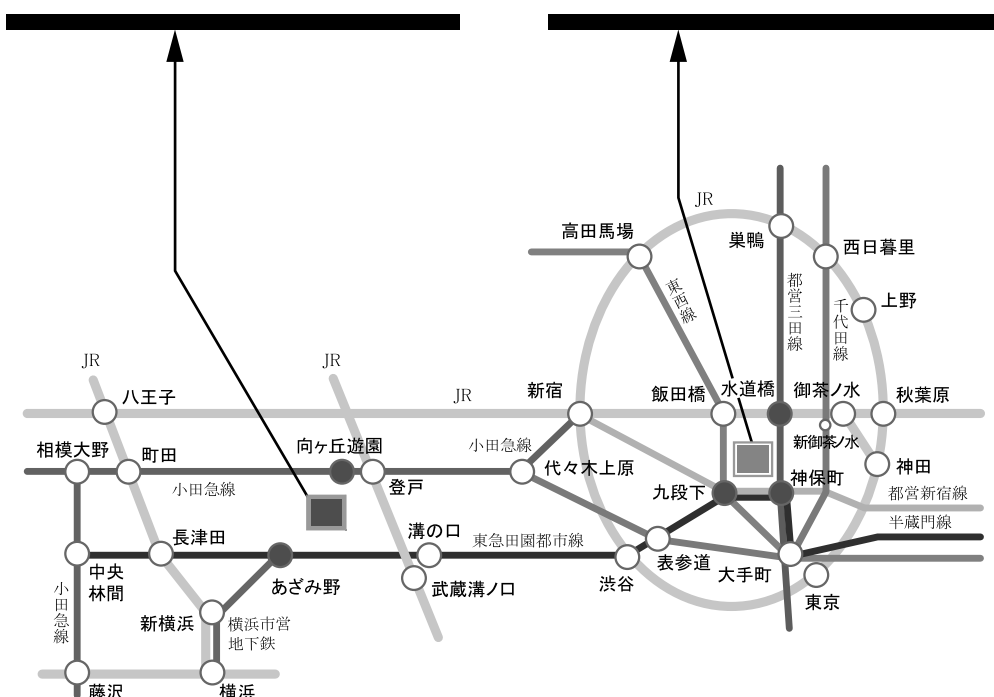
生田キャンパス

- 小田急線
向ヶ丘遊園駅（新宿から急行で約20分）
北口よりバス約10分または南口より徒歩14分
- 東急田園都市線・横浜市営地下鉄
あざみ野駅よりバス約35分
直通バス（学生専用）約20分



神田キャンパス

- JR水道橋駅西口より徒歩7分
- 地下鉄東西線・半蔵門線・都営新宿線
九段下駅「5」出口より徒歩3分
- 地下鉄半蔵門線・都営新宿線・三田線
神保町駅「A2」出口より徒歩3分



ファミレスと牛丼屋で考えたこと

教職課程協議会委員長 経営学部 教授 内田 欽三

夏休み中、今年も数多くの博物館を訪れた。ほとんどは、学芸員資格を取得しようとしている学生が館務実習を行っている館である。その目的は、館長をはじめとして、担当者への挨拶と実習指導を行うことが主眼であり、その館の特徴を視察することにも含まれている。鉄道やバスを利用して、駅やバス停からは炎天下をエッチラ、オッチラと汗だくになって歩かねばならないことが多く、かなりの苦行である。もっとも、生来の博物館好きだから、そんなものは何でもない。ただし、困るのが食事である。夏休み期間はウィーク・デーであっても、昼時ともなれば、ちょっとしたファミリー・レストランでも常に満員であり、二、三十分以上、待たされることも稀ではないのだ。座席を占領しているのは圧倒的に小さな子供連れの母親たちが、もしくは家族連れである。むろん、早い者順だから、こちらに文句のつけようはないのだが、汗だくになり、訪問先では冷汗をかき、身も心もクタクタになって、そのうえ空腹の身としては、何とも恨めしい状況である。

のっけから愚痴をこぼしてしまったが、そんなファミリー・レストランの座席に長々と居座って、とうに食事が終わったにもかかわらず、延々と笑いながら話し込んでいる人々を眺めているうちに、ふと、8月6日の読売新聞の見出しを思い出したのだった。曰く、「大卒2割 就職せず」と。その記事によれば、今春、大学を卒業した大学生のうち、就職も進学もしない「進路未定者」が、5人に1人に相当する約10万6千人に上るのだという。しかも、そのうちの6割超は文系で、いわゆる「私立文系男子」の苦戦が続いているのだ。さらに、「留年組」も「進路未定者」とほぼ同数の約10万人を超えるらしい。

現在、日本が置かれている苦しい経済状況については、各種のマスコミによって多くの情報が提供されている。格差社会という言葉は、もはや耳にタコができてしまった。また、

買い物でも、食事でも、ついつい、より安い品の方へ手を伸ばしている自分を顧みれば、不況を知らぬ間に察知して、生活防衛のための本能が働いていることを痛感するのである。しかし、それでいながら、我々の周囲を見回してみると、どうだろう。不況だ、ワーキング・プアーだ、リストラだ、といくらマスコミが騒いでも、依然として高速道路は大渋滞だし、お盆の時期ともなれば新幹線は乗車率百パーセントを越し、成田空港は海外旅行ラッシュの観を呈するなど、多くの日本人が依然としてレジャーに狂奔しているではないか。そして、目の前の、ファミリー・レストランを占領した子供連れの若い母親軍団である。

実に厳しい現実を抱えながらも、他方で、そんな苦境に頼かむりしたまま、一時の楽しさに浮かれることをやめない日本人。いつの間にか、私たちはそんな人種になっているのではないか。そして、もしかしたら、大学もまた、「進路未定者」や「留年組」のたむろする、ファミリー・レストランみたいなものになってはいないだろうか。そんな不安が脳裏をよぎったのである。

私は順番待ちを諦めて、スゴスゴと牛丼屋へ足を向けたのだった。こちらは、若い女性に受けないせいか、比較的早く席に着けるからである。しかも、そこでは、仕事に疲れたオジサンたちが、早くて、安くて、美味しい牛丼を掻き込むと、間をおかず立ち上がるのだ。彼らはニコリとせずに、再び厳しい仕事との戦いに立ち向かっていく。その雄々しい後ろ姿はまるで、俺たちがいるかぎり、まだまだ日本も大丈夫だぜ、そう語っているように思えたのである。

学生諸君、立ち上がって、現実には立ち向かうのではないか。



Passo a Passo

表題はイタリア語で「パッソ・ア・パッソ」と読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

目次

アーキビスト（Archivist）という職業	
商学部 教授 中野 育男	6
専修大学の教職課程の魅力ー学生をつなぐ学びのネットワーク	
法学部 准教授 森田 司郎	10

教職課程

卒業生から	14
教員採用試験体験記	18
教育実習を終えて	23
介護等の体験を終えて	30
先輩教師から「未来の教育者」に対するメッセージ	
商学部 兼任講師（専修大学松戸高等学校 教諭） 泉 貴久	31
教科研修生体験レポート	33
学校教育ボランティア体験レポート	34
専修大学附属高等学校から「教師への道を進もうとしているみなさんへ」	
専修大学附属高等学校 教諭 太齋 潔	35

司書・司書教諭課程

専修大学司書・司書教諭課程55年の歩み	
文学部 准教授 野口 武悟・文学部 教授 荻原 幸子	38
図書館実習を終えて	47
卒業生から	48

学芸員課程

博物館のある風景	
文学部 講師 高島 裕之	50
博物館実習を終えて	52

データ編（平成22年度）

資格課程履修者数	56
教員免許状取得状況一覧	57
教育実習先一覧	58
図書館実習・博物館実習先一覧	62
主な就職先一覧（教職、司書・司書教諭、学芸員）	63
資格課程年間行事表	67
教職公開講座開催結果	68
司書課程（進路）懇談会開催結果	69
資格課程教員紹介	70
編集後記	

■ 4つの資格課程

教職課程…中・高の教員免許状取得

「教職課程」は、大学卒業後、国公立・私立学校の教育職員(教員)になろうとする者に要求される教育職員免許状を取得させるためのものであり、教員を養成することを目的としています。加えて、平成10年より「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(介護等の体験法)が施行され、中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者には、介護等体験が義務付けられています。

公立学校の教員になるためには、教育職員免許状を取得(取得見込)した上で都道府県及び政令指定都市教育委員会の実施する「教員採用候補者選考試験」に合格しなければなりません。

＜本学で取得可能な免許状＞

学部	学科	種類・教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
	国際経済学科	社会	地理歴史、公民、商業
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民
	政治学科	社会	地理歴史、公民
経営学部	経営学科	社会	公民、商業、情報
商学部	マーケティング学科	社会	地理歴史、公民、商業、情報
	会計学科		商業
文学部	日本語学科	国語	国語
	日本文学文化学科	国語	国語、書道
	英語英米文学科	英語	英語
	哲学科	社会	地理歴史、公民
	歴史学科	社会	地理歴史、公民
	環境地理学科	社会	地理歴史、公民
	人文・ジャーナリズム学科	社会	地理歴史、公民
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	数学	数学、情報
人間科学部	心理学科	社会	公民
	社会学科	社会	地理歴史、公民

※「教員免許更新制講習」(免許状更新講習)

平成21年4月の新免許法の施行に伴い、免許状には最長10年間の有効期間が設けられ、免許状を失効させないためには、10年毎に免許状更新講習を受講して、免許状の更新を行うことが義務付けられました。講習を受講しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は、免許状が失効することになります。受講資格は、現職教員の他、教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。本学では、免許状更新講習を8月の夏期休暇中に実施しています。

司書教諭課程…学校図書館の専門職

「司書教諭」とは、小・中・高等学校等の教育に不可欠な学校図書館の専門的な仕事に携わる教員のことです。司書教諭は教育の現場で他の教職員と協力しながら、学校図書館の資料提供はもとより、児童・生徒に対して図書館利用や読書に関する指導をしたり、教員に対して図書館を活用した授業展開ができるように支援するといった役割を担っています。

司書教諭の資格は教育職員免許状を持たなければ有効にはなりませんので、司書教諭の資格取得を希望する者は教職課程と司書教諭課程の両方を履修する必要があります。

2003年度からは12学級以上の規模の学校には必ず司書教諭を配置することになりました。そのため、教育の現場では司書教諭の有資格者へのニーズが高まっています。

司書課程…公共・大学図書館等の専門職

「司書」とは、公共図書館、大学図書館、研究機関や企業の図書室・資料室などで、資料(図書、CD-ROM等)を収集し、利用者に対して適切に提供する専門職のことです。

司書の資格を取得するには、司書課程を履修する必要があります。

司書課程では、図書館の歴史や仕組み、資料の選び方や整理の仕方、急速に普及している電子メディア(インターネットなど)の活用法、出版流通の仕組み、子どもや障害のある人に対する図書館サービスのあり方など、図書館に関連する幅広い知識・技術を学びます。

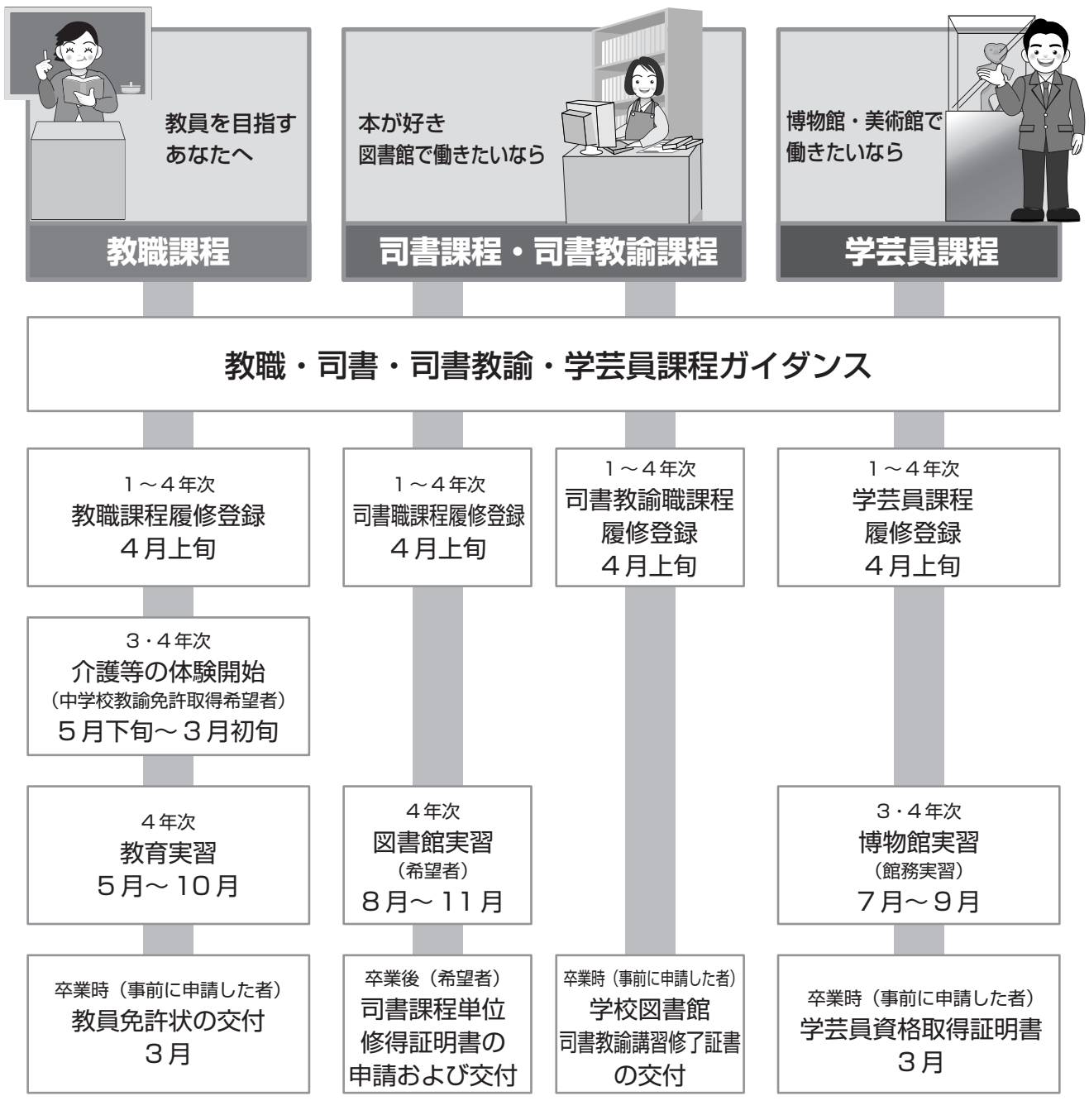
生涯学習社会・情報社会といわれる今日、司書の果たすべき役割は非常に大きく、熱意と素養のある人材が求められています。

学芸員課程…博物館の専門職

「学芸員」とは、博物館において、資料の収集、展示、保管、調査研究、その他これに関連する社会教育的活動などの専門的な仕事に携わる職員です。ここにいう博物館とは、美術館、歴史資料館、民俗資料館、民芸館、文学館、動・植物園、水族館などあらゆる分野の公・私立の施設を指しています。こうした博物館に勤務するためには、学芸員の資格を有することが必要です。学芸員の資格を取得するには博物館法第5条に、学芸員は「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得した者」と規定されています。

学芸員の仕事は人気が高いうえ、募集もわずかなので、実際に学芸員の職につくのは相当な難関といわれています。ひとくちに博物館と言っても、歴史資料や考古資料、美術品など、扱う資料によって種類はさまざまです。学芸員を目指すなら専門知識を高めておくことも大切です。

好きなこと、チャレンジしたいことが、 キャンパスで楽しく身につくなんて！！



司書・司書課程サポート

学芸員課程サポート

学校図書館見学会 7月開催

司書教諭課程受講学生対象に
学校図書館見学会を実施してい
ます。

司書課程就職(進路)相談会 12月開催

図書館職関係者をゲストに迎え、
大学院進学や公共図書館関連の就
職について懇談をしています。

文化財セミナーを開催

平成20年10月に専
修大学130周年記念文
化財セミナー「発想転換」
開催しました。

玉川大学との連携による小学校教員養成特別プログラム

本学では、これまで小学校教諭の免許状取得の道はありませんでした。ニーズの高まりに応えるため、玉川大学と連携し、2007年度より小学校教員養成特別プログラムをスタートさせました。本学に在学したまま玉川大学通信教育部の科目等履修生となり、免許状取得に必要な科目を受講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状の取得をめざすものです。ただし、免許状取得には本学の卒業要件単位と、中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するための教職課程の単位を充足した上、さらにこのプログラムの諸科目の単位を修得しなければなりません。ゆえに、プログラム参加学生は、多大な努力が求められることを十分に認識し参加してください。

※このプログラムは小学校教諭二種免許状の取得を保証するものではありません。

※商学部会計学科は除きます。

教職公開講座 10月上旬開催

教職公開講座は、教職をめざす学生を対象にした入門講座です。年に1度、10月初旬の土曜日に開催します。教員に採用された本学の卒業生を講師として招き学校の様子や教員採用試験の対策について話していただきます。また採用試験官の経験者を招き試験の傾向や求められる教師像などについて話していただきます。受講することで採用試験の準備がしやすくなるだけでなく、教員になるための学生生活の送り方も理解することができます。

多摩区・3大学連携事業学校教育ボランティア

多摩区・3大学連携事業として、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加しています。学生が川崎市多摩区内の小中学校に週1、2回程度ボランティアとして出向き、学校をサポートするものです。活動内容は、教科指導中の個別指導の補助、部活指導の補助、サポート学級の補助などです。学校や児童生徒の理解、授業力の向上など教員としての資質の向上に役立ちます。今や教員志望者にはボランティア経験が不可欠で、その貴重な体験の場となります。

教科研修生制度

本学と連携協定を結んでいる高等学校で、教員の指導の下、教育活動に関する様々な研修を行うのが教科研修生制度です。現在、川崎市を中心に7校と連携し、国語、英語、社会、情報、数学、そして学校の特色に応じて設定される学校設定科目などで研修が行われています。教育実習前に学校現場を体感し、教科等の指導を体験できる貴重な制度です。原則として3・4年生、大学院生、本学出身の科目等履修生が対象となります。

教員採用試験対策講座(エクステンションセンター主催講座) ガイダンス:4月、5月開講

教員採用試験の勉強を始めても、どのように対策を進めればよいか戸惑うことが少なくありません。本学では、本気で教員をめざす者を対象に、低廉な受講料で教員採用試験対策講座を開講しています。対象者は、本学学生と大学院生、本学の科目等履修生および卒業生です。毎週土曜日に開講されます。受験指導予備校と提携し、1年間を通じた計画的な指導が徹底して行われるため、合格の可能性を高めることができます。

※上記のプログラムや講座は、希望する学生のみを対象とするもので、教職課程を受講するすべての学生が対象となるものではありません。

「アーキビスト(Archivist)という職業」

商学部 教授 中野 育男

はじめに

2009年9月から1年間、在外研究の機会を与えられ、主にアメリカ国立公文書館で、米統治下において軍政から民政へ移行する時期の沖縄に関する史料調査を行なった。史料の現物を直接手に取って見ることができ、半世紀の時空を超えて当時の沖縄のリアルに触れることができ、感動する。同公文書館は本館がワシントンの中心部にあり周囲にはナショナル・ギャラリーやスミソニアン博物館群がある。ニコラス・ケージ主演の映画「ナショナルトレジャー」の舞台になったこともあり、ご存知の方も多だろう。しかし20世紀以降の史料は隣州メリーランドのカレッジパークにあって広大な敷地をもつ別館に所蔵されている。この別館はNARA IIと呼ばれメリーランド大学のゴルフコースに隣接し豊かな自然に包まれている。本館からはシャトルバスが運行され便利である。リサーチ者のためには至れり尽くせりの配慮がなされており困ることはない。しかし米国全体に言えることだがセキュリティが厳格であり忍耐強さも求められる。公文書館に所蔵されているドキュメントは当然のことながら行政文書であり、特殊な検索方法が必要であり習熟するまでに時間が要る。また出庫して貰った資料に当方の意図した情報が必ずしも記されているという訳でもない。そのため間が悪いと半月程度の滞在では何の収穫も得られないまま帰国ということもあり、長期に滞在して資料と取り組む必要がある。

また、公文書館の専門職員であって、所蔵資料の管理検索のスペシャリストであるアーキビストとのコンサルテーションが資料調査にあたっては不可欠である。

1. 身近な公文書館

日本では、一般に公文書館の存在はあまり知られていない。東京の竹橋には国立公文書館があり、また各県にも県公文書館があるが、古文書の保存・閲覧のための施設と思われ普段訪れる人も少ない。しかし、アメリカでは公文書館はもっと身近な存在であり、その意義もよく知られている。アメリカの国立公文書館は、連日多くの人が訪れ、ワシントン観光の名所になっている。また2010年5月には南北戦争とリンカーンをテーマにした所蔵文書の特別展が開催され、連日入場が1時間待ちとなる程の盛況であった。

南北戦争はアメリカが分裂の瀬戸際に立たされた合衆国史上最大の事件である。アメリカ人にとって二度の世界大戦より事態ははるかに深刻であった。アメリカの国土が戦場となり、100万人ものアメリカ人が戦死、戦病死するという当時としては未曾有の激闘であり、世界最初の総力戦と言われていた。家が焼かれ、鉄道が破壊され、特に南部は壊滅的な打撃を受けた。戦争の傷跡から南部が立ち直るには、その後一世紀近い年月を要した。闘いの記憶は親から子へ、さらに孫へと伝えられ、今も語り継がれている。北軍の司令官シャーマンとグラントの二人の将

軍は、二度と南部が北部に逆らう気持ちを起こすことのないように、南部の都市と農村地帯を徹底的に破壊しながら兵を進め、南軍を追いつめていった。この戦略はそれから80年後、航空機による絨毯爆撃としての極東の島国に対しても踏襲された。この南北戦争の特別展ではアメリカ国立公文書館は、既存の資料をデジタル化し、大型ディスプレイを使って多重的に提示する最新の手法(Digital archives)を公開し、人々の関心を集めた。

2. 権利擁護と公文書館

アメリカの国立公文書館は正式には国立公文書館・記録管理庁(National Archives and Records Administration)と言いNARAと略称されている。公文書館は文書の保存・閲覧だけでなく、行政機関における文書の作成から保管・廃棄に至るまでを総合的に管理する機能を備えている。公文書の管理という機能を通じて行政の説明責任(Accountability)を担保している。公文書館はアメリカの社会がどれだけ民主的であるかを計る一つのバロメーターであり、今後も民主的な社会でいられるかどうかの鍵を握っており、公文書館の盛衰は民主主義のそれと同義であると言われている。

アメリカでは研究者だけでなく、一般の人々も公文書館にある資料を利用する。第2次世界大戦中の日系人に対する強制収容という差別政策を批判し、名誉の回復と損害の補償、そして謝罪を求めた日

系アメリカ人たちの地道な活動も、強制収容に関する事実を明らかにするための公文書の調査から始まっている。その他、様々な目的で公文書館が一般の人々にも普通に利用されている。

エミー賞（1977年）を受賞したテレビドラマ『ルーツ』は全米で大ヒットし、日本でも放映された。原作者アレックス・ヘイリーは一家の家系を13代前のクンタ・キンテまで遡り、先祖が父祖の地である西アフリカのガンビアから奴隷として連れて来られたアフリカ系アメリカ人の家族の苦難に満ちた歴史を丹念に描いている。

チェサピーク湾に面するアナポリスは美しいオールタウンであるが、その海軍兵学校に隣接するシティドッグにはアレックス・ヘイリーが子供たちに自分たちの歴史について語っているモニュメントがある。18世紀のアナポリス港は奴隷船が多数入港し、奴隷貿易の一つの中心であった。奴隷船

が入港すると新聞に奴隷販売の宣伝広告が載り、買い手を募った。クンタ・キンテの販売に関する資料も公文書館に残されていた。

このテレビ・ドラマの放映以来、アフリカ系アメリカ人の間で自らの「ルーツ」すなわち民族的出自に関する意識が高まり大きな関心が呼び起こされた。自らのルーツを辿るために今も多くの人々が公文書館を訪ね、資料を調べている。

3. 公文書館の独立性

第2次世界大戦において、日米ともに戦争遂行に関する膨大な文書を作成している。しかし、今日残されている記録の多寡には大きな違いがある。アメリカでは戦前から軍部を含めた連邦政府の記録管理体制が整っており、戦時下にあっても公文書の処遇はきちんと決まっていた。国家としての体験を記録することの重要性が認識されており、専門家や研究者から成る歴史部隊まで編成され、組織的

に戦闘現場での記録が行なわれた。これらの膨大な数の記録は国立公文書館に収められ、誰でも自由に閲覧できるようになっている。一方で、日本側の記録の多くは戦闘の最中に失われてしまった。なかには玉砕や終戦の際に組織的に焼却、廃棄されたものも少なくないという。第二次世界大戦の戦史研究の多くの部分をアメリカ側の資料に依存しているのが現実である。

1970年代初頭に起きた「ウォーターゲート事件」では、公文書館の独立性が問われた。当時のニクソン大統領は事件への直接的な関与で辞任に追い込まれたが、証拠隠滅のためにホワイトハウス執務室でとった録音テープや文書の廃棄を画策し、その相談を連邦政府の記録管理担当官に持ちかけ秘密裏に合意を交わしていた。この廃棄について担当官は部下の国立公文書館長と協議せずにことを進めた。事態が明らかになった後、永久保存文書の保管、管理にあたる公文書館が従属的な機関であることの是非が議論され、公文書館が独立の機関として再出発する契機となった。公文書館は外部からの圧力に屈せず、あくまでも専門的な見地から業務を遂行することが重要であるとされている。

4. アーキビストの役割

アメリカ国立公文書館に所蔵されている史料は、公文書すなわち行政資料であり、様々な資料群や形態から構成されており、図書館の蔵書とは違って、索引や目録が完備され、データベースが構築され、スムーズに必要な資料が閲覧



国立公文書館別館
(メリーランド州カレッジパーク)

できるという訳ではない。アメリカ国立公文書館では、収蔵資料のデータベース化を進めているが、それで検索できる資料の割合は少なく、多くは、紙ベースの資料目録に頼らざるを得ない状況にある。この目録自体も、完全なものではなく、閲覧申請をして実際に中身を見るまでは、何が出てくるか判らないということも、少なくない。また、資料の分類方法も、行政機関によって異なることが多く、したがって検索方法もそれぞれ違うことになり、資料の収集には熟練が求められる。

アメリカ国立公文書館に収蔵されている複雑な資料構造のなかで、目的とする資料を収集するためには、行政機関の組織構造や機能、さらには文書の管理方法に関する知識に精通した専門家の支援が必要となる。公文書館では、このような専門家をアーキビスト（Archivist）と呼んでいる。アーキビストは、公文書館に常駐し、

コンサルテーションを通じて、資料へのアプローチの方法を案内してくれる。アーキビストとのコンサルテーションが資料調査の成否を左右する面も大きい。

5. 資料構造と検索

アメリカ国立公文書館では所蔵資料は、文書を作成または収受した組織ごとに、管理されており、その配列も当該組織の管理者が構築した手法が、そのまま維持されている。同館の資料は、その文書を作成した組織、機関別に番号が割り当てられており、これをRG（Record Group:記録群）番号と呼んでいる。そして、個々の記録群（RG）は階層構造をなしており、その下にSeriesと呼ばれる資料群がくる。このSeriesは、特定の機能や目的ごとに管理された資料の一群を指しており、その大きさによって、これをさらにSub-seriesに分けることもある。このSeriesに付された番号のことをEntry

numberと呼び、RG番号とともに、史料の閲覧申請の際に必要な情報となる。公文書はこのように階層化され、もともと管理されていた配列を維持しながらBoxに収められている。この配列を崩すことは決して許されない。

アメリカ国立公文書館において、もっとも基本的な資料検索のツールが、Finding Aidである。これは、RGごとの各SeriesのBoxまたはFileの一覧にあたるものである。このFinding Aidによって、閲覧を希望するBoxを特定し、MRL（Master Location Register）を使用してその保管箇所を調べ、それを申請書に記入して、閲覧申請を行なう。MRLにはRG及びSeriesの公文書館内での所在位置が記されており、これにより資料群の全体像が概観できる。

アメリカの連邦政府は行政サービスの電子化を進めており、その一環として電子公文書館（Electronic Archives）の構想もクリントン大統領の在職時に始められた。公文書を紙媒体によらず電子媒体のまま数百年保存し、いつでも遠隔地からのアクセスを可能にするものである。このような技術には多くの解決困難な課題があり、実現不可能と見られていたが、この方針を決定し、莫大な予算を投入して産官学が一体となって開発に取り組んでいる。

6. 日本でも閲覧できる公文書館資料

アメリカは、すでに戦前の1934年に、国立公文書館を開設しており、アメリカによる沖縄統治の関係についても膨大な資料が



国立公文書館本館
(ワシントンDC)

収蔵されている。このアメリカ国立公文書館の所蔵する沖縄統治関係史料は日本国内においても、その一部を閲覧することができる。東京の国立国会図書館と沖縄県公文書館は、アメリカ国立公文書館で収集、複製された史料を閲覧できる施設である。国立国会図書館の憲政資料室は、1978年から日本占領期を中心とした史料の収集を続けており、1999年から5年間は、沖縄県公文書館と共同プロジェクトを実施し、琉球列島米国民政府（USCAR）の史料をマイクロフィルムに収めてアメリカ国立公文書館から持ち帰っている。沖縄県公文書館も、1997年から10年間に渡って、沖縄戦と沖縄統治に関する史料の収集を行なっている。1980年代まで、アメリカの沖縄統治に関する史料の公開は、一部しかなされていなかったが、1990年代に入ると、これらの公開が促進された。1997年に沖縄県公文書館が設置され、同館によるアメリカ国立公文書館での史料調査・収集事業が始まり、その成果が随時、公開されてきた。沖縄県公文書館では、このようにして収集された史料が整理・保管されており、同館にある沖縄側の史料と合わせて参照することができる。アメリカ国立公文書館を訪ねる前に国内での十分な調査が必要なのは言うまでもない。

7. 公文書館の四季

ワシントンは超大国の首都だが、夏は高温多湿に加えて日差しも強烈で日中の外出はかなり大変だ。内陸にあり、最高気温も連日

35度を超える。建物や乗り物は冷房が効き過ぎておりこれもまたきつい。冬は寒冷と豪雪に見舞われ、春は寒暖の差が激しく一日の中に冬と夏が同居しているようだ。この国はなぜもっと気候のよい場所を首都にしなかったのか不思議だ。一年のうちでは比較的秋が快適だったように思う。

2010年の冬、ワシントンは百年ぶりという豪雪に見舞われ、連邦政府の機能が4日程ストップし、国立公文書館での調査も1週間近く停滞した。しかし、サマータイムに移る頃から日足も伸びてアフターファイブを楽しめるようになる。最寄りのカレッジパーク駅から古都ボルチモアの港町カムデン駅まで列車で30分ほどで行ける。インナーハーバーの散策やカムデン球場でのオリオールズ戦を観るのもよい気晴らしになる。

在外研究も終盤の2010年6月になると、世界中の大学が夏休み入ることもあり、多くのリサーチャーで公文書館は混み合う。一方で、バカンスのため公文書館のスタッフは減っており、これまでのようなペースで、ドキュメントを調べることが難しくなる。しかし、その分、個々の資料を吟味する時間があり、直接テーマに関わらない箇所にも興味深い記述を見つけることができ、研究に深みを与えてくれるのではないかと期待している。

2010年の夏は、日本も異常な猛暑だったが、アメリカも負けてはいない。連日の猛暑で、USA TODAYという新聞の天気欄にある地図は、気温分布を色分けしているが、毎日全米が真っ赤になっ

ていた。それでも、ワシントンでは、たまに夕立があり暴風雨が1時間ほど吹き荒れると、そのあとは気温が十数度も下がり、爽やかな気候になって、ゆっくり散策を楽しむことができた。この国では夕立も半端でなく、木々の枝が折れたり、幹が二つに割れて車のボンネットに倒れ掛かっている光景も見られた。

むすび

アメリカで沖縄のことを考えていると、米国の沖縄統治は、公文書館のドキュメントだけで本当に理解出来るのだろうか、という疑問を感じるようになってきた。アメリカという国家の理念や歴史が具体的な統治行為にどのように貫かれていたのか、これを把握しておかないと、表面的な記述に終始してしまう恐れがある。アメリカに滞在しながら、あまりこの国を知ろうとしなかったことが気にかかってきた。

この国で、いろいろな人種の多くのとても親切なアメリカ人、気さくなアメリカ人に出会えたことは大変に良かった。この国は共和政体のローマを模倣しているようなところがあるが、この国の行く末には興味深いものがある。この機会に合衆国のことを考えてみようと思っている。

なおアメリカ国立公文書館別館に隣接するメリーランド大学には、アーキビストを養成する大学院の専門コースが設置されている。

専修大学の教職課程の魅力

—学生をつなぐ学びのネットワーク—

法学部 准教授 森田 司郎

私は、本年（平成22年）4月より専修大学に勤務している。現在、教職科目である教育原理、教育課程論、道德教育論、そして教育実習などを担当している。日々の授業や学生との交流を通して、教職を目指す学生の熱意を肌で感じ、多くのエネルギーを分けてもらっている。私は、前職において教育学部における教員養成に携わってきた。その当時の経験などもふまえ、専修大学の教職課程の魅力について述べていきたいと思う。



【画像1】 ドイツ、幼稚園の訪問

◇教育学部ではないことの利点

専修大学は、教育学部をもたない。本学の教職課程は、教員免許状取得の開放制の原理にもとづいている。学生は、経済、法、経営などのそれぞれ専門分野を学ぶ学部にも所属しつつ、そのうえでさらに教員免許状を取得しようとしている。開放制の原理にもとづく本学での教員養成がもつ魅力は、「教育」以外の専門性を有する教員が育つことである。

私の前任校では、教育学部における教員養成を中心に行っている。そこでは、学生たちは大学入学直後から教員を目指し、教育に関する専門的な科目を履修している。4年間のカリキュラム全体を通して、教員になるためのトレーニングを積むようになっている。教員



【画像2】 イギリス、小学校の訪問

を目指す学生のために構成された学校行事も多くある（画像1、2）。明確な目的意識をもち、教員になるための努力を続ける学生たちの姿には、強い感銘を受ける。このような専門的な教員養成のメリットとしては、学生が、学びたい内

容を効率よく焦点化して習得することができる。それが卒業後の進路に直結するという点が挙げられるだろう。しかしその反面、早い段階から教育という世界に深く入り込むことで、教育の世界を相対化する機会に乏しいというデメリ

ットもある。

専修大学の学生は、教育以外に社会科学、人文科学の専門性を備えていること。このことは、時に狭く閉ざされる危険もある教育の世界を相対化して眺めることができることにつながる。さらに、教育の世界の内実を客観的に捉え、新しく柔軟な発想を生み出す土壌となる。これは、今後の教育の在り方を考えていくためには不可欠な要素となっていくであろう。この点こそが、教育学部ではない学部で教職を目指す学生の強みとなるのではない。実際、私自身も、授業の中で学生が示す様々なものの見方に驚き、多くを学ばせてもらっている。

◇教育実習の事前・事後指導

次に、本学の教職課程の魅力として挙げることができるのが、教職科目「教育実習Ⅰ～Ⅲ」における充実した事前・事後指導である。この授業は、学生による模擬授業を中心としている。学生同士のフィードバックや指導教員からのアドバイスを受けて、授業実践の力量を培っている。さらに、すでに教育実習を経験した上級生が参加し、自らの経験を交えた具体的なアドバイスを送っている。学生たちは、教材選定、指導案作成、そして模擬授業を行い、フィード



【画像3】 「教育実習Ⅰ」での模擬授業の風景

バックを受けるというプロセスを通して、実習に向けた準備を行っている。この教育実習の各授業は、半期にわたって開設されている。ここに、本学の教職課程が、教育実習に向けた準備教育を十分に、体系的に行おうとする姿勢があらわれている（画像3）。教育実習を控えた学生にとっては、実習を終えた先輩学生からのアドバイスは具体的でリアリティーに富んだもののようだ。実習の準備、教材の選定、実習中の時間の使い方、さらにはハプニングへの対処方法などについて熱心に聞き入っている姿が見られている。先輩学生たちも、後輩にアドバイスを送る中で自分たちの実習を振り返り、自身の実習内容を客観的に反省する機会となっている。

◇学部や学年を超えたネットワーク

さらに、日々の授業やゼミナールなどで培われてきた学生同士のつながりは、学部や学年を超えた幅広いものとなっている。私がこの点を強く実感したのは、さきに開催された教職公開講座（2010年10月2日（土）生田キャンパス）である。

専修大学を卒業して教育現場で教鞭をとる先輩たちが、教職の仕事内容ややりがい、悩みなどを体験にもとづいて熱心に話してくれた。各教室に設定された講演会場には、多くの学生が詰めかけた。参加学生は計100名以上にのぼった。講演とその後に用意されたディスカッションでは、非常に積極的なやり取りが交わされ、学生たちの真剣さが伝わってきた。多くの会場で、予定時間を過ぎた後も、



【画像4】 講演後のディスカッションでは場面指導のロールプレイングも行われた

先輩にアドバイスをもらおうと教室に残る学生の熱心な姿が目立った（画像4）。

講演の後に全体で行われた情報交換会の会場でも、具体的なアドバイスを得ようとして先輩に話を聞きに行く学生の姿が目立った。学生たちの熱心さと、それに応える先輩たちの姿からは、学部や学年さらには年代を超えた専修大学の強いネットワークの存在が感じられた。情報交換会も盛況に行われ、設定された1時間半では足りないと思わせるほどだった。

◇専修大学教職課程の魅力

「教員の資質」とは何か？という問いかけが盛んになされている。教科指導力、生徒指導力や学級経営力など、その内容は多岐にわたっている。ただし、その中でも特

にキーとなる能力は何かと問われた場合、それは人と人とのネットワークを築く能力ではないかと考えている。教員とは、それぞれが一定の専門教科をもち、各授業や生徒指導、学級経営などを個々の責任で行わねばならない場合が多い。それぞれの局面において、教員は自らの信念や能力を頼りに実践をしていかねばならない。基本的に、教員は孤独な職業という側面を多くもっている。教員として様々な課題に立ち向かわねばならない時に、他者からのアドバイスが必要になる状況は少なくない。そうした時のために、必要なアドバイスを求めることができる能力が必要となる。その逆に、他者に対して適切なアドバイスを与える力も必要となろう。教科指導力、生徒指導力や学級経営力などが詰

まった、個々の教員がもつ引き出しの中身を共有し、互いに分け与えていく環境が重要である。こうした環境に身を置くための基礎には、教員同士、時には教員以外の者たちとのネットワークを築く能力がある。

専修大学で教職を取得する学生の中には、人と人とのネットワークを築く能力に長けた者が多いと感じている。これは、教職課程のカリキュラムが直接的に意図しているものではないかも知れない。各授業、教育実習やゼミナール、そして教職公開講座など、それぞれの要素が総合的に作用して、結果的に学生が身につけている能力かも知れない。しかし、少なくともいえることは、教職を目指す学生たちが学びのネットワークを築き、そこから多くを学んでいるという点は、専修大学の教職課程の大きな魅力だということである。

ここまで、専修大学の教職課程の魅力について思いつくままに述べてきた。私自身、本学での経験はまだ浅く、これからもさらなる魅力を発見することだろう。本学の教職課程に携わる中で、こうした魅力を引き出す、さらには新たな魅力を作り出す力となれるよう励んでいきたいと思っている。

教 職 課 程



卒業生から（小学校）

鳥取県米子市立住吉小学校 谷口 和輝（平成20年度文学部人文学科哲学人間学専攻卒業）

1. はじめに

私は、鳥取県内の小学校に勤務して2年目になります。昨年度は、社会人1年目、小学校に講師として勤務し、4年生を担当しました。そして、昨年度の採用試験で合格し、今年度は、教諭として4年生を担当しています。今は初任者研修を受けながら忙しい日々を送っています。今回教員を目指す学生の皆さんが、「先生って良い仕事だな」と思っていたら嬉しいです。

2. 「大切な出会い」

昨年度勤務した学校での離任式のことです。私は受け持った子どもたちに、「君たちが先生にとって初めて担任した子どもだよ」と伝え、大好きだった子どもたちとお別れをしました。子どもたちは、次々に泣き、いつもやんちゃで手をやいた男の子も、大泣きしながら「先生が担任でよかった」と言ってくれたことを覚えています。なかなか心をつかめなかったおとなしい子も、涙を見せ、あとで手紙をくれました。クラス全員が泣いてくれたことをとても嬉しく、別れるのがつらかったです。

そして、今年6月の終わり頃のことです。今年度は、職場が実家から遠いため一人暮らしをしており、新しい職場で慣れないことも多く、精神的にとても疲れていました。このまま仕事を頑張っていけるかなあ…と、少し弱音を言ってしまいそうな時期でした。ちょうどその日は学校で子どもに関するトラブルがあり、くたくたで家に帰りました。すぐにでも布団に入りたいと思っていた矢先、ポストにかわいらしい封筒の手紙が届いていました。差出人を見てみると、昨年度受け持った子の名前でした。中を見てみると、「別れたあとすごくさびしかったです」「先生に会いたいです」など、本当に心温まる、そして元気をもらう手紙でした。その子を中心に、昨年度担任した子どもたちからのメッセージが入っていました。その時私は、今までの子どもたちにも支えられているのだなと思い、疲れを忘れて返事を書きました。

3. 「共に活動、共に経験」

今の勤務校になり、子どもと過ごす時間や、子どもと一緒に活動する時間を増やしました。それは、私の理想の先生からのアドバイスがきっかけです。

今の学校では、毎朝「さわやかランニング」といって、子どもたちがグラウンドを走る活動

を全校で取り組んでいます。私は4月の最初、自分が走れそうな日は走り、忙しい日は走らずにいました。その時、その先生は、「お前が毎日率先して走ってみろ。そしたら子どもは絶対一生懸命走る。そしたら子どもはついてくる。子どもは遊びや運動を通して先生を信頼するんだぞ」と言ってくださいました。その日以来、私は毎日欠かさず、校庭を走り、自分のクラスの子どものを見つけ、朝の会でほめるようにしました。そうすることで、もちろんクラスの走る子どもが増えましたし、子どもたちとの距離も縮まっていった気がします。

また、小学校の教員は様々な能力が求められます。苦手だったダンスも、運動会で模範として踊りました。当日まで、挫折しそうなこともありましたが、しかし、他のベテランの先生に教えて支えていただきながら、「きっとこの経験が財産になる」と思い頑張りました。今は音楽会に向けて初めての指揮にチャレンジしているところです。

あらゆる能力が求められる学校の先生は、学生までのうちに多くのことを経験しておく、きっとプラスになることが多いはずですが、ただ、それ以上に、教壇に立ってから、子どもと共に活動することで、子どもたちと信頼関係を作っていけるはずですが。

4. おわりに

あまり上手な言葉で伝えることができませんが、私は教員という仕事は本当にやりがいのある仕事だと思っています。毎日違う表情を見せる子どもたちは、飽きさせることがありません。さらに、子どもたちから学ぶこともたくさんあり、私を教員として成長させてくれます。さらに、多くの子どもやその保護者、同僚の先生など、出会いに満ち溢れています。

毎朝子どもが元気に「おはようございます」と言えば、「よし今日もがんばろう！」と思えます。子どもの笑顔が、私のエネルギーの源です。



卒業生から（社会）

公立中学校特別支援学級担当 宮浦 直子（平成12年度経済学部経済学科卒業）

はじめに

会社員、日本語教師を経て、いわばサード・キャリアとなる教職のスタートラインに立った1997年の専修大学（夜間部）入学当時の私は28歳。「就職氷河期」という言葉が流行した当時、教職もまた「超買い手市場」であり、「30+α歳新卒」の新米教師に果たして職はあるのか、などと、ただじっと考え込んでいたら教員としての今はなかったと思います。本稿では、約5年間にわたる私学の高校での講師経験と、今年度新規採用となった公立学校での活動を通して、自分が学んできたことをご報告させていただき、これから教職を目指す方々の一助となれればと思います。

担任と部活動顧問（私学高等学校での実践）

専修大学を卒業し、大学院で2年間学んだ後、教員補助員を経て、35歳にして念願の高校の教壇に立つことができました。埼玉県の新卒の高校を2校、いずれも常勤講師として勤務した5年間の間に、担任と部活顧問を経験しました。

最初の高校で1年間、担任を持ったことで学んだことは、生徒にとって「信頼できる大人」であり続けることの大切さです。地域社会の弱体化により、生徒たちが多様な大人たちと出会う機会のごく限られ、「斜めの関係」を築くことが困難な時代です。彼らにとっての「大人」モデルは、保護者や教師が担わざるを得ない場合が多い。教師はこのことを強く自覚する必要があると思います。生徒指導上の問題を抱える子どもの多くは、大人に対する不信感が強い。彼らに対し「言葉を尽くす」とこと、「関わり続ける」とことの実践を試みた1年でした。自分の言葉で思いを伝え、生徒との関係を決してあきらめない、という態度で接し続けてはじめて得られる「信頼」であるということを学んだ1年だったと思います。

また、2校目では3年間、弓道部の顧問をしました。最も大切に扱ってきたのは、月並みですが、努力の大切さです。社会においては「努力は必ず報われる」訳ではなく、むしろ「努力しなければ報われない」のがより正解に近い。本気で上手になりたい、強くなりたいなら、それなりの質と量の努力が必要になります。一方で、「負ける」という結果が出ることによって努力が意味を失うものでもなく、

努力は人の心を変えます。耐え抜いて、頑張り続けた先に、自身の成長を喜びとする新たな自分が発見できます。このことを生徒には伝え続け、苦楽を共にした3年間でした。当初は全くの弱小チームでしたが、徐々に勝ち進むようになり、任期最後の年には地元埼玉開催のインターハイに出場を果たすまでに成長を見ることができました。

特別支援学級（公立中学校での実践）

高校講師を経て、42歳となる今年度より、新規採用として東京都の中学校で特別支援学級の1学年担任をしています。「中学校」も「特別支援教育」も、すべてが「初めて」の初年度です。クラスに社会科の科目はなく、代わりにレベル別にグループ分けした国語、数学、英語を全て担任が受け持ちます。その他の授業も担任と介添えの方が付いて行われるため、いわゆる授業時間に「空き」は殆どありません。ぎっしりの授業時間に追われ、生徒が帰った後は部活指導、帰宅後は翌日の授業準備で一日が終わる、というのが今の実感でしょうか。とはいえ、休みを中心に研修を入れたり、夏休みには特別支援教育免許二級の取得を目指して認定講習を受講したり、自ら前向きに行動を起こすことで、障がいのことだけでなく、生徒や、支える保護者の方々への理解も深まってきたように思います。

おわりに（教師になるという夢）

「あきらめる理由」というのはいくらでもあるのだな、というのを実感します。在学中の4年間、昼間は企業で働きましたが、業績不振による整理解雇に遭ったり、試験期間と仕事の納期が重なったり、卒業後はなかなか専任になれず、40歳を過ぎて採用試験を受け続ける日々。こうなると、年齢、気力、体力、全部が理由になります。しかし、自分の選択（夢）である限り、自分の意思で捨ててしまうのはあくまで本人の「自由」。教職を目指すなかで一番学んだことは、この「自由」の怖さだと思っています。一方で、自分がこれに押しつぶされずにこられたのは、大学時代に得られた、本当にさまざまなバックグラウンドを持つ夜間部の友人たち、そして先生方の支えがあったからであると強く感じています。



卒業生から（英語）

座間市立相模中学校 教諭 岩瀬 明日香（平成20年度文学研究科英語英米文学専攻修士課程修了）

1. はじめに

「3度目の正直」という言葉の意味を全身で感じたのは、合格の文字を目にした時。涙が止まりませんでした。やっとスタートラインに立てたと思ったのも束の間、現在は教員生活2年目を送っています。

2. 「英語の先生って楽しい？」

採用1年目の初夏。とある生徒から投げかけられ、心の中に深く刻み込まれている言葉です。そう質問された瞬間、どきっ……と胸を突かれたような感覚をおぼえました。「もちろん楽しいよ。」と慌てて空返事をした後、その生徒に質問をした理由を聞いてみました。すると、授業中に私の表情が強張っていたため、思わず質問してみたくなったという事でした。

ハッとさせられました。私は授業で行うべきことばかりに追われてしまい、自分自身が英語を楽しむことを忘れてしまっていたのです。それでは生徒たちが英語を楽しめるはずがありません。それからは、生徒たちが「英語って楽しいな」と思える授業を目指すためにも、まずは自分自身が心から英語を好きになり、英語を楽しんでいる気持ちを前面に出すことを心掛けるようにしています。生徒からの問いかけは、私にとって大きな気づきを生む好機となりました。生徒たちは時に先生の顔を見せます。生徒たちから学ぶことの多さを常日頃感じています。

3. これまで と これから

採用初年度。スポンジに変身して、とにかく色々なことを吸収するぞという気持ちで新生活をスタートさせました。初めは担任を持たず、2クラスの副担任として1学年に所属していました。学年主任と常に行動を共にし仕事を学び、時間の許す限り生徒にべったり貼りついていました。そこには、予想を超える目新しさと目まぐるしさが待っていました。朝から晩まで「ほっ」と息をつく余裕もなく、想定外のことが次々と起こり、計画していた物事がどんどん変わっていく毎日。判断力と決断力が要求されます。

教員は授業だけが仕事ではありません。部活動や会議、事務処理など多岐に渡ります。加えて、初任者研修や出張で校外に出ることも多くあります。そして何より教材研究は欠かせません。そんな日常に慣れるには多くの時間が必要でした。初年度を無事に終えられたのは、周りの先生方の支えと生徒がいてくれたおかげだと思っています。

冒険のような教員生活も2年目を迎え、初め

て担任を持たせて頂く運びとなりました。試行錯誤の毎日ですが、クラスの子どもたちには本当に助けられてばかりです。彼らも私が初担任であることはよくわかっているのですが、さりげなく助けの手を差し伸べてくれたり、こっそりアドバイスをしてくれたりします。子どもたちは明るく元気で人懐っこく、毎日違う表情を見せてくれます。そんな子どもたちに対して、時には一人の大人として壁となり越えるべき存在である。時には生徒となり、同じ目線でいられる存在である。これらの二面性を持ちながら、彼らとの1分1秒の関わりを大事にしたいという思いで生活しています。

4. メッセージ

大学で過ごした時間が私を育ててくれたといっても過言ではありません。採用試験受験にあたっては、ゼミの先生をはじめ多くの方々大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。これから採用試験を迎えられる方は、ぜひ周りを巻き込んでみてください。一緒に勉強をしたり、教育に関する意見交換をするのも良いでしょう。

数々の努力をしたにも関わらず、残念ながら採用試験が不本意な結果に終わってしまうこともあるかと思います。しかし、それも大切な経験のひとつだと考えてみてください。今は落胆してしまっても、時間が経って子どもを目の前にしたときに、語れる経験のひとつとなっていることを願っています。

私は今、人生の中で最も充実した時間を、思い入れのある中学校という場で生徒たちと一緒に過ごすことができ、日々幸せを感じています。現在の目標は「誰もが居心地のいいクラスを創ること」と「生徒の可能性を十分に引き出せる教員になること」です。今後も周りの先生方からお力添えを頂きながら、初心を忘れず多くのことを学び、前向きさをさらに超えた「前のめり」精神で生徒たちと共に成長していきたいと思っています。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



卒業生から（国語）

川村学園中学校 教諭 大泉 麻琴（平成21年文学研究科日本語日本文学専攻修士課程修了）

教員を目指されている皆さんへ

私は教員1年目の駆け出しです。そのため、教員になる前の準備が必要だと感じたこと、気付かされたことなどを紹介させていただきたいと思います。

1. 職業の特異性

専任となって痛感したことは、初日から一人前として扱われるという特異性です。どんなに未熟であろうと、生徒や保護者にはプロの教員の対応を求められます。また周囲も一人前の社会人として扱います。一般企業では、入社前後に初期研修を受けられますが、教員はそのようなものがないと考えてよいかもしれません。私も研修はありませんでした。そのため教員としてばかりではなく社会人としても不明な点が多く、大変でした。例えばご家庭や内線の電話対応、議事録の取り方や資料の整理の仕方など、出来なければ生徒に関わるミスにつながります。私も何度もミスをし、書籍を用いて企業の初期研修を勉強したところ、仕事の仕方が大きく変わりました。

教員にビジネスマナーなどは不要だと思われるかもしれませんが、もちろん重要なのは授業や生徒指導です。しかし新任は社会人1年生でもあり、仕事の基礎を知らなければ慌てるばかりで、きちんとした生徒対応や指導はできません。そのため社会人としての教養、教職教養以外の事柄も自学しておく必要があると思いました。

2. 生徒と向きあうこと

前年まで非常勤講師を務めていたのですが、担当した生徒からの手紙に「すぐ近くにいて見守ってくれている」、「先生の授業を受けることができてよかった」と書かれていました。全力で生徒と向き合い、受容しようという指導が生徒たちに届いていたのだと知りました。専任となっても変わらない姿勢でいようと考えていましたが、環境や立場の違い、周囲の厳しい指導の中で、同じようにせねばならないと思うようになっていました。その頃は生徒とも全く上手くいきませんでした。しかし職場に慣れ、自分らしさを取り戻し始めた頃、生徒たちが大変懐いてくれるようになりました。そして着任直後の私は苦手だったことを明かしてくれました。これは心からの指導でなければ、生徒の心に届かないという証拠だと思います。また生徒は教員の背中を見てい

るのだと改めて感じました。

指導方針や方法は、誰かの真似をしても生徒には届きません。周囲に学びながらも、常に自分というものをしっかり持っていなければならないのだと思います。また、私たちは教員である前に一人の人間です。その人となりは全て生徒には伝わります。教員は自身の「背中で教育をしている」ということを肝に銘じなければならないと思います。そのため教育目標をまず自身に突き付け、努力し、人間性を磨く人間でなければならないと痛感しました。

今後皆さんが教員になられた時、自身の指導に自信を持ってください。指導に不安は付き物ですが、それは生徒を信じる気持ちでもあると思います。皆さんの芯から出た言葉なら、必ずや生徒はその心で受け止めてくれるはずだからです。そして生徒の前に立つ“人”として、自分自身を一層磨いてみてください。磨きすぎということは決してありません。学生である今はそれに最適な時間だと思います。広い視野を持ち、多くの人々と触れ合い、一人の教員、一人の大人としても、さらにステップアップを図ってみてください。

3. 最後に

厳しいことばかり書いてしまいました。ただ、それだけ重責を担う職業であると痛感したのだとご理解いただけると嬉しいです。こんな新米の言葉に耳を傾けていただき、ありがとうございました。

最後に一私自身、教員に向いていないのではないかと思う時があります。皆さんにもそんな時が訪れるかもしれません。私はいつも「生徒の傍にいる時が、自分が一番輝いている瞬間だ。生徒の傍が、自分が自分らしく居られる場所だ」ということを思い出します。そしてそう思わせてくれる生徒にいつも深い感謝の気持ちで向き合っています。

職業は向き・不向きで考えるものではありません。特に教員は、生徒が「先生」にさせてくれるものです。もし向いていないと思うのだとしたら、それは皆さんを慕う生徒の気持ちを信じていないのと同じことだと思います。教員は大変ですが、本当に素敵な職業です。皆さんにとっても輝ける場所が教壇であり、皆さんの最高の笑顔が生徒と共にある、そんな時が訪れることを心から応援しています。

教員採用試験体験記

平成21年度文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻卒業 中嶋 雄大

はじめに

大学入学時から教員になりたいという夢を持っていた私ですが、それはあくまでも漠然としたものでした。日本文学に興味があり、かつ学校が大好きな私は国語の教員として働きたいと考えていたのです。その漠然とした夢を、教員になるという決意に変えてくれたのは教職課程で出会った多くの友人でした。友人達と共に大学の講義で学び、学校教育について語り合っているうちに教員の難しさを理解し始めました。しかし困難さを理解するようになると同時に、ぜひ教員になってみたいという決意が固まってきたのです。漠然としたものを、よく知るということが私にとって非常に大きかったようです。では、その決意から私が実際に教員採用試験に合格するまでの体験を簡単に記していきます。

初めての採用試験

群馬県出身の私は卒業後に群馬県に帰ることを決めていたので、採用試験は群馬県一本に絞って受験しました。そして平成21年7月末、大学4年の夏に初めての採用試験を受験したわけです。この時、何よりも私を苦しめたのは友人でした。と同時に何よりも私を支えてくれたのも友人でした。というのも一般企業に就職していくサークルの友人や教職課程の中でも一般企業も視野にいれている友人は、早ければ4月から続々と内定をゲットしていくのです。自分の信じた道とはいえ、周囲が内定をもらっていく状況でかなりの焦りを感じました。しかし教員を目指す友人や教育系の大学院を目指す友人が私の支えになりました。共に戦うという感覚はとても心強いものなのです。話が前後しますが、教員になるという決意を大学3年になるころには固めていた私ですが、大学3年時はまだまだ遊べるという意志薄弱な一面を前面に出してしまい、本気で採用試験対策を始めたのは周囲が内定をゲットし始める4年の4月でした。今になって考えると一般企業に進む友人が私の尻に火をつけてくれたのです。私にとっては、

様々なジャンルのたくさんの友人がいるということが大きな支えになりました。初めての採用試験は動き出すのが遅かったこともあり一次試験で落選しました。

二度目の採用試験

卒業後は群馬県の高崎市という私の故郷で、高崎市教育委員会の行政嘱託として小学生に自転車の交通ルールを教える仕事につきました。この仕事の存在も地元で教員を目指している友人から情報を得たもので、人との繋がりは素晴らしいと改めて感じました。昨年の失敗があったので、仕事を始めるという忙しい中でしたが実家近くの市立大学の図書館で毎日2時間勉強しました。また土日を利用して群馬県の教員を目指している人の集まりにも足を運びました。いつもアンテナを張って情報を収集することも採用試験に向けて大切なことの一つです。教員試験対策というと自分との戦いなので、自分一人の世界に閉じこもりがちになりますが、自分の心をオープンにして様々な場所に足を踏み入れて多くの友人を作る勇気も大切です。なぜならばなんとか一次試験を通過した後には面接と集団討論の対策をしなくてはなりません、それは決して一人では出来ないからです。

二度目の採用試験ということもあって一次の対策では満足行くまで過去問を繰り返し反復することができました。では二次試験の対策はというと、これは職場が教育委員会ということもあり上司の方々をお願いをして面接の練習をさせていただきました。情熱を持って動けば協力してくれる方々はたくさんいます。集団討論の練習としては、先に述べた群馬県の教員を目指している人の集まりで知り合った人たちと3回ほど討論会をしました。その中には二次試験経験者の方もたくさんいらっしゃる、とてもいい時間をすごすことができました。

このようにさまざまな人との関わりによって二次試験も合格し平成23年の4月から群馬県の教員として働けることになったのです。

教員採用試験体験記

文学部英語英米文学科4年 櫻井 辰也

この度、平成22年度神奈川県教員採用試験に幸運にも合格し、長年の夢だった中学校の英語教員の道に進むことになりました。ここでは合格に至る道程を振り返りながら、自分の体験をもとにした試験の「乗り切り方」を後輩のみなさんにお伝えします。

まず始めに採用試験の概要に触れておきます。試験内容は、もちろん自治体により異なりますが、1次試験では、専門科目である英語はもとより、一般教養、教職教養、教育時事も含めた時事問題が出題されます。2次試験では面接、模擬授業と小論文があります。まず、日・英両言語による面接では、教育に対する関心、情熱、使命感など、その人の人間性がチェックされます。模擬授業では実際の授業運営力が試されます。小論文では、自分の意見を明確に論述することが求められます。

以上のような広範囲にわたる分野をこなしていくためには、当然、早い段階から意識して準備をはじめする必要があります。遅くとも試験の約1年前には、計画をしっかり立て、時間をかけて入念に準備を行うことを心掛けなければなりません。

私が準備の過程で一番意識したことは、「時間を無駄にしない」というあたり前ことでした。試験までの限られた時間の中で、参考書や問題集を何度も繰り返して開き（それこそボロボロになるまで）、知識を入れ、定着させていきました。ただし、一朝一夕でなせるものではなく、机に向かって勉強するという方法だけでは当然、時間が足りないのは明らかでした。そこで、日常生活の中であらゆる場所を自分の「勉強空間」としてとらえるようにしました。それは、電車内であったり、生田の丘だったりしました。通学途中、それまで娯楽のために聞いていた音楽を、英語リスニングの教材に切り替え、授業間の移動時間にも英語や試験の参考書を読むなどして、自分の勉強空間を拡大していきました。

そうして1次試験を突破した私が、2次試験に向けておこなった次の乗り切り方が、教員志望の仲間による「学び合い」でした。教育学で言う「共学」を実践したのです。2次の面接や模擬授業では、自分の意見や指示などを、要点をまとめてわかりやすく伝えることが大切です。いきなり上手に話そうとしても、事前の練習（リハーサル）がないとどうしようもないことがわかっていましたので、理想的な話し方や授業の運び方を体にしみこませる

ために、仲間と模擬面接と授業を実践し、見せ合い、出し合って、お互いの面接力、授業運営力を改善していくという作業を何度も繰り返しました。そうした努力の結果、実際の試験には自信を持って試験に臨むことができ、今日の結果につながったと感じています。

こうした体験を今一度、振り返りますと、最終的に大切なことは、「絶対に教員になる」という想いを持ち続けることだと言えます。準備を進めていく中で、自分自身、成長が見られず、自分のやり方は本当に身になっているのだろうかと不安になったことも多々ありました。また試験まで時間は少ないというプレッシャーにも押し潰されそうになったこともありました。それでもこれらの困難を乗り越えて、諦めることなく最後まで続けることができたのは、自分の「絶対に教員になる」という思いを持ち続けられたからだと感じています。

そして同時に、合格は周りの方々の協力あってこそその結果だったとも実感しています。最後まで私を様々な面で支えてくれた家族、日々刺激を与え、自分の学びを深めて下さったゼミナールの田邊祐司教授をはじめとする諸先生方、そして同じ目標を持って共に学んだ仲間やゼミ生に対して、この場をお借りして感謝申し上げます。

今の私はまだ教員としての第一歩を踏み出したに過ぎません。今与えられている環境に感謝し、1日1日の学びを大切にすると共に、「生徒を第一に」という思いを持ち続け、この道を着実に歩んでいきます。



教員採用試験体験記

相模原市立大野北中学校（臨時的任用職員）社会科 高井 桃子（平成17年度経済学部国際経済学科卒業）

教員生活3年目をむかえ、今年ようやく教員採用試験に合格しました。現在は、日々の業務に追われつつ、来年度から始まる初任研修や学級経営のことで頭がいっぱいです。

さて、本稿では「採用体験記」を中心に前半では学部時代の経験、後半に教員採用試験までの体験を簡単に書き記し、少しでも今後の採用試験への手助けになればと思っています。

本大学では、蔭山雅博教授のゼミで教育学、特にアメリカ教育学者J. デューイの『学校と社会』等の原著からプラグマティズムについて討議しました。ゼミでのこうしたディスカッションを通し、教育に対する志が高まりました。また、学部では国際経済学部でさまざまな国際関係の情勢を目の当たりにし、「世界の現状を日本の子どもたちに伝えたい。」という思いから教師を目指し、大学院進学を決意しました。

大学卒業後、横浜国立大学院教育学人間科社会系教育専攻へ入学し修士号を取得しました。大学院に入学してからより実践的で学校現場の事例から授業案を構想しました。また、海外体験を通し世界の幅広い教育現場を経験し子どもたちに対し「伝えたい。」という思いが高まりました。

学生時代は、勉強だけでなく多くの海外旅行、アルバイト、中学校の部活動指導などさまざまな経験をすることができました。

卒業後は、臨時的任用職員として相模原市立大沢中学校にて特別支援学級の担任として勤務することになりました。

特別支援学級とは、さまざまな障害を抱えた子どもたちが公立学校にて同じ空間で学ぶ学級のことです。私は、着任するなり「特別支援」の意味を肌で感じ、焦りと戸惑いで何をしたらよいのかわからず仕舞いでした。同僚の先生方から「笑顔で、元気よく、子どもたちの視線に立って。」というアドバイスのもと、子どもと向き合い奮闘する毎日でした。あっという間に過ぎ去った1年目は、採用試験勉強や学部、院での理論を実践する間もなく終わりました。

2年目は、現在勤務する大野北中学校で特別支援学級担任および、社会科を担当することになりました。担任と教科の両立、さらに初めての柔道部顧問と、臨時的任用職員とはいえ正規職員と同等の立場であるため、学校でのさまざまな業務に追われる日々でした。2年目は、1年間の見通しを持ちながら、少ない時間で採用試験勉強も行いました。私は、もともと高校教師を目指していたので、神奈川県立高校の公民を受験しました。案の定、不合格という結果で落ち込むこともありましたが、そんな時、子どもたちの笑顔は、私の原動力となりました。

3年目となり、引き続き同じ学校での勤務は、子どもの成長を感じることができる楽しさを覚えました。昨年とは違う子どもの表情は、私を感動させ、やる気を起こさせました。今年は、社会科でなく国語科（教科外特別免許）も担当しています。慣れない国語の授業研究は、日々何十時間にも及びます。しかし、こ

うした他教科の視点は今年の採用試験で生かす要素でもありました。

今年の採用試験では、「どうしても合格したい。」と心から思い、採用関係書類を何度も見直しました。1次試験では、筆記及び面接試験でした。面接試験では、3人の面接官の前で現在の分掌や担当などを尋ねられました。その中でも、「社会科と国語科で、子どもたちに求める力の違いはありますが、また同じところはありますか。」という質問がありました。私は、2年間の経験をもとに「自己を表現する題材が違いでもあり、求める力の共通するところもあります。」と答えました。また「教員の不祥事」については、自分の考えを求められました。こうした質問は、『面接対策本』の正解を答えるよりも自分の意見を自分の言葉で伝えようとするのが大事であると思います。

2次試験までは、約3週間の準備期間があります。2次試験までは、ちょうど学校現場は夏期休業となるので、部活をしながら準備を進めました。指導案は、いろいろな単元から4枚書き上げ、うち自信のある1枚を提出し当日の模擬授業に備えました。教材は、視覚提示を心がけ写真や地図など空間認知の苦手な生徒にもわかるように工夫しました。教室の中には、さまざまな苦手な部分を抱えた子どもたちが1割ほどいます。また、視覚提示をすることは、子どもの関心を引きつけ、授業に取り組ませるためには、欠かせない方法です。学校現場では、デジタル教材の活用は、当たり前ですが、採用試験会場では、禁止されています。教材教具の工夫だけでなく、子どもに接する時の視点や話し方など模擬授業を2回ほど行い、試験までに修正しました。

試験では、模擬授業、集団討議、面接がありました。全てにおいて自分の中で、「失敗してしまった。」と後悔しました。合格通知を見た時は、言葉にできないほど嬉しかったです。

今振り返ってみると、学生時代の経験と特別支援学級で学んだことが全てであると確信しています。自分の信念を持つことです。それを信じるためには、勉強し実践していく勇氣が必要です。私は、教育の力を信じて一人ひとりの子どもと向き合っていこうと思います。

これから受験する皆さんは、自分に自信を持てるような経験をぜひしてから教員採用試験を受験してみてください。きっと、道は開けます。



教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 山田 恭弘

私は、平成22年度神奈川県・相模原市公立学校教員採用候補者選考試験を受験し、合格しました。受験した校種は高校、教科は情報です。この体験記を執筆している現在は、名簿登載者説明会も終了し、勤務校が決まるのを待っているところです。

私は、大学に入学する前から教師を目指していました。しかし、「教員採用試験」というものを意識し始めたのは、3年生になってからです。3年生のはじめに、採用試験の内容を知ろうと思い、模擬試験を受けたのですが、点数が悪く、不安と焦りを感じたのを今でも憶えています。

教員採用試験の受験から採用までの流れは、志願者説明会・受験申込・一次試験・二次試験・名簿登載者説明会・採用となっています。自治体によって違いがあるので、教師を目指している人は、早めに確認したほうが良いと思います。ここからは、私の体験をお話します。

まず、一次試験のときの話です。試験内容は、筆記試験（教職教養・一般教養・専門教科）と小論文でした。筆記試験については、3つの試験があり、出題される範囲が広いので、“たくさん勉強しなくてはいけない”といつも焦っていました。勉強方法は、過去の試験問題を中心に、少しずつ勉強していきました。普段は大学の課題もあるので、あまり採用試験の勉強に時間をかけられなかったのですが、長期休暇のときや採用試験対策講座を有効に使って勉強しました。小論文については、“これを書けば合格する”といった書き方をよく目にしたのですが、私はそういうのが嫌いなので、読みやすい文章づくりだけを参考にして、あとは自分の言葉で書くようにしていました。

次に、二次試験のときの話です。試験内容は、模擬授業と個人面接、集団討論でした。二次試験のときは、“今までで一番良い模擬授業をしたい”という思いが空回りしてしまい、

模擬授業の指導案が書けなくなってしまいました。結局、指導案が完成したのは試験前日でした。そのため、個人面接の練習をほとんど行えず、予想される質問に対する回答を考えただけでした。それでも、ありのままの自分で受けようと思っていたので、個人面接に対しての不安はなく、模擬授業も堂々を行うことができました。集団討論で気をつけたことは、あまり考えすぎず、“他の方の意見を聴き、自分の意見も言う”ということだけでした。一次試験の合格発表から二次試験までは、二週間ぐらいでしたが、多くの方からお力添えを頂きました。今でも感謝しております。

最後に、私が教員採用試験までに行ってきたことについてです。私はこれまでに、高大連携の教科研修生や専大付属での授業見学、教員採用試験対策講座、研究会や新聞等からの情報収集などを行ってきました。また、普段の生活から“教師になったつもり”という視点で物事を考えながら過ごしていました。そのように考えるだけで、色々なものの見え方が違ってきます。

私は、実際に教員採用試験を受験してみて、大学の勉強だけで合格するのは難しい、と感じました。しかし、大学での勉強が土台となり、どんなことも考え次第で“教師になったときの特色”になると私は思っています。

先日、名簿登載者説明会で「チームワーク」「フットワーク」「アンテナを高く」の3つを大切にしてほしい、というお話がありました。これは、協調性があって、行動力があって、好奇心や向上心のある人材が求められている、ということでもあると思います。教師を目指そうとしたとき、たくさんの不安と直面します。そのようなときでも、視野を広くして、自分に自信を持って行動してみてください。私も日々精進していきたいと思っています。

教員採用試験体験記

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 車谷 佑希

私は、教員採用試験に今年、合格することができました。現役で合格できた背景には、いろいろな方々の助けがありました。また、自分が「教師になりたい」という気持ちをひたすら持ち続けたからこそだと思っています。これから、合格までの話を少しですが、紹介したいと思います。

●3年生まで

とにかく一生懸命に大学の授業を受けました。学部の授業と教職課程の授業で忙しい毎日でしたが何とかついていこうと努力しました。3年生からは土曜日にも大学に通い、エクステンションセンターの教員採用試験対策講座を受け、教養を高めながら意識も教員採用試験に向けていきました。また、大学の教職課程でも教科教育論や教育実習Ⅰの授業で模擬授業などもはじまり、どうしたら教師としてステップアップできるかということを考えて行動するようになりました。

●試験前後（4年生）

4年生に入り、いよいよ本番も近づいたところで、大学より、埼玉県中学校数学の大学推薦特別選考のお話をいただきました。もともと私は高校の「情報」を目指していたのですが、いろいろ考えた結果、良いチャンスだと思い、志望させていただくことにしました。大学推薦ということで1次試験が免除になるということで、試験対策も2次試験に向けてのものにシフトしていきました。

そして試験直前には、大学の教育実習担当の望月先生の計らいで模擬授業の練習や面接対策をして頂いたり、一緒に教育実習を行った仲間の紹介で他大学の学生と試験対策をしたりと、いろいろな方からアドバイスをもらいました。このような機会がなければ合格は難しかったと思います。

当日は今までやったことをすべて信じて、「これだけやったんだから…」という気持ちで臨みました。また、試験後は達成感で一杯でした。失敗したところはいくつかありましたが、それよりも試験を目指して頑張った大学4年間の思い出し、合格を祈って待っていました。

●試験対策

私が実際に試験を受けてみて感じたことは、

試験勉強は大事ですが、とにかく受験する自治体の”情報”を集めることが試験対策の第1歩だと思います。試験についての情報をほとんど公開していない自治体もあるので注意が必要です（私の場合は全く情報が集められず、試験2週間前に「道徳」の模擬授業があることを知人からの情報で知ったり、試験当日に試験要項に無かった試験項目が発表されたりと対応が大変でした）。

教員採用試験の試験項目は多岐にわたります（例：埼玉県中学校）。

- 1次試験：専門科目と教職教養・一般教養の択一式試験、集団面接、適正検査
- 2次試験：指導案作成、模擬授業、論文、個人面接、集団討論

したがって、根気勝負になってきます。どこまで意識を強く持って勉強や試験の準備ができるかにかかってくるかと思います。しかし、他の試験でも同じだとは思いますが、勉強した分だけ結果に表れてくるので是非頑張ってください。面接や論文についても数をこなせば自分でも勝手がわかってくると思います。模擬授業は教育実習で教壇に立った分だけでは全然足りません。試験前に、これでもかというくらい練習して、自分の授業スタイルを作っていくてください。

最後に、事前にいくら準備したからといって、本番で実力が出せなければ意味がありません。教員採用試験は1、2日間でたくさんの試験をこなさなければなりません。試験勉強と同時に集中力を持続させられるようなトレーニングも少ししてみるといいかもしれません。

●最後に…お世話になった先生・仲間

前にも書きましたが、いろいろな方々の助けがあり、合格することができました。教職課程でお世話になった先生方、ともに切磋琢磨した仲間、また、学外でお世話になった方々がいないと今年合格することはできなかったと思います。この場を借りてお礼をさせていただきます。ありがとうございました。

これから教員採用試験を受験される皆さんも「教師になりたい」という気持ちを持って頑張ってください。

教育実習を終えて（国語）

千葉県香取市立山田中学校 文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻4年 並木 真由美

私は、6月14日から3週間、母校の香取市立山田中学校で実習をさせていただきました。実習前日まで、極度の緊張と不安で、3週間乗り切れるのか本当に自信がありませんでした。しかし、実際に実習してみると、1日1日がとても早く、あっという間に最終日を迎えてしまったように感じます。3週間という短い期間でしたが、とても濃密で貴重な体験をさせていただきました。

・授業について ―クラスのカラーを掴め！―

私は、3年1組と3年3組を担当させていただきました。実際に教壇に立つにあたって、指導案や板書計画を用意する事は当たり前ですが、授業の参観をし、前もってそれぞれのクラスの雰囲気や授業の進め方を心掛けました。授業の参観によって、1組は活発な子が多く、3組はそれぞれ授業内容を理解はしているようだが授業中の発言が少なく静か、というクラスの特徴が分かりました。ある程度クラスの雰囲気を掴んでおく事で、反応が無かった時はこのように発問しよう、困った時はいつも発表しているあの生徒を指名しよう、といった授業準備のヒントになりました。

実際の授業では、担当の先生から、「少しくらい授業から逸れても構わない。何より生徒とたくさんコミュニケーションを取り、楽しみながら授業を進めて行こう。」というアドバイスを頂いたので、授業中、生徒との会話を多くする事、導入では授業と若干ずれてしまうかもしれないが、本時の内容に多少関係のあるエピソードを取り入れる事を心掛けながら授業を進めるようにしました。そこで私は、教材に出てくる街の絵や登場人物らが被る仮面を段ボールで作成し、実際に生徒にそれを付けさせ、登場人物を演じてもらったり、物語の続きを書く作業で優秀だった人に賞状を渡したりと、生徒が楽しみながら授業を受けられるように、工夫しながら授業展開をしていきました。これにより、指導案通りに授業が進まない事が多々ありましたが、授業中の生徒との会話の大切さを学び、実際に自分も授業で取り入れられた事は、大きな収穫であったように思います。

・コミュニケーション ―教室から離れるな！―

担任の先生方は全員、給食・清掃はもちろんですが、休み時間も職員室に戻る事なく教室にいて、生徒と共に過ごしていました。これは、生徒とコミュニケーションを良く取り、生徒の様子を常に見ていられる環境を作り、生徒から目を離さないようにする為です。実習中、「生徒は先生に話を聞いてもらいたいん

だよ。」という事を先生から教えて頂きました。常に担任が教室にいる事で、生徒の話を聞いてあげられ状態が出来ます。生徒と教師は共にいればいただけ、信頼関係は深まっていくという事を学びました。ですから、次の時間の授業の準備が間に合っていない時以外、休み時間は生徒と常に同じ空間にいる事を心掛け、放課後も生徒が全員教室から出るまで、教室から出ないようにして、生徒と過ごす時間を大切にしました。これにより、生徒も心を開いてくれるようになり、どんどん話しかけてくれるようになりました。

・実習を終えて ―ありがとう！―

実は実習前の私は、教師になりたいという夢を小学生の時から抱いていましたが、発表の際極度に緊張してしまい、うまく人前で話せない自らの欠点に気づき、これでは教師には向いていないと決めつけ、教師を諦め違う職に就こうと考えていたのです。しかし、実習を終え、素直でかわいい生徒たちや生徒想いの明るくエネルギッシュな先生たちと関わる事で、教師の仕事に改めて憧れを抱き、教職に就きたいという気持ちがとても強くなりました。実際に体験してそのように思えたのですから、この想いに間違いはないと思います。3週間という短い期間でしたが、この実習でとても多くのものを得られました。この実習は私の人生を変えた、忘れる事の出来ない大切な経験となりました。

実習を終え、忙しいのに質問に真摯に答えて下さり、素晴らしいアドバイスを下さった先生方、いつも元気に話しかけてくれた生徒達には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

実習で関わった生徒や先生方に良い報告が出来るよう、決して諦めず、夢である教師を目指して努力していこうと思います。

・最後に ―全力投球！―

これから実習に臨むみなさんへ。実習生は、教師でも生徒でもありません。そこがラッキーなところで、実習生だからこそ出来る事がたくさんあるのです。それを自分なりに見つけ、全力投球して下さい。

今は不安でいっぱいだと思います。（私ははっきり言って不安と緊張で逃げ出したかったです。）でも3週間後のあなたはきっと、実習を終え実習校を去る事がとても名残惜しくなっていると思います。実習は忙しく大変ですが、それ以上に感動、達成感、充実感といったたくさんの事が味わえます。教育実習がみなさんにとって実りあものとなるよう、心から応援しています。



教育実習を終えて（英語）

新潟県立加茂高等学校 文学部英語英米文学科4年 林 祐希

私は、5月24日から6月11日までの3週間の教育実習を新潟県立加茂高等学校にて行ないました。加茂高等学校は私の母校ではありませんでしたが、私の高校時代の英語の先生が赴任していたので、その先生に指導教諭をお願いして教育実習をさせていただきました。今回は私の教育実習での経験をもとに、クラスの雰囲気、教科指導で学んだこと・苦労したこと、これから教育実習へ向かう皆さんへ、という3点について以下に述べたいと思います。

まずクラスの雰囲気に関して記します。私の配属となったクラスは指導教諭の先生が担任をしている2年1組でした。始めは私の緊張がうつったせいか、生徒に対しては全体的に大人しい印象を受けました。しかし、クラスの生徒と清掃を一緒にしたり、放課後に生徒と会話をしたりしているうちに、元気で活発な生徒の多い明るいクラスだとわかりました。また、教育実習中に体育祭があったのですが、そこで生徒とたくさん話をすることでクラスの雰囲気になじむことができました。

続いて教科指導で学んだこと・苦労したことについて述べます。私の指導教諭の先生は「習うより慣れろ」という考えを持っていらしたため、2日間授業見学をして私は3日目から教壇に立つことになりました。準備はしっかりとしたつもりでしたが、実際に初めて生徒の前でやってみると、大失敗でした。指示が不明確だったため、生徒も戸惑い、授業自体も私の一方通行的な流れになってしまいました。また指導案を見ながら授業を行ってしまったせいで、下を向いてばかりで生徒の様子もよく把握できずに終わってしまいました。授業が終わった後、5月末にもかかわらず首の周りが汗まみれだったことを覚えています。それからは指導の流れ、板書計画などは事前に頭に叩きこんで授業中は生徒の顔や反応を見ることを意識して授業を行いました。日が経つにつれ、クラス全体を見渡しながら落ち着いて授業ができるようにはなりましたが、生徒の反応を見ながら授業を展開することができず、それが私の今後の課題となりました。また他のクラスや1年生のクラスでも授業を行ったので、各クラスの進度に合わせて指導案を随時訂正するこ

とに苦労しました。

授業以外の時間は他の英語科の先生の授業見学を積極的に行いました。英語教育を勉強してから改めて現役の先生の授業を拝見すると、やはりプロだと痛感しました。指示の明確さ、発問のタイミングやその内容、板書の見やすさ、自作プリントのわかりやすさ、など多くの点で学ぶことばかりでした。しかし、それ以上に私が学んだことは「授業は生徒ありき」ということです。どの先生も生徒の実態をきちんと把握し、生徒の実力に合わせて何を、どのように教えていくかについて明確な方針を持っていらっしゃいました。だからこそ、どの先生方の授業もいきいきとしているように感じました。このことは現場にいないれば気づかなかったことなので、私にとって大きな収穫でした。

最後に、これから教育実習へ向かう皆さんへのメッセージを送りたいと思います。私は事前に先輩や大学の先生から「授業は思い通りにはいかない」ということを聞いていました。実際私も上手くはいかなかったので、皆さんもその意識を持って、しかし今の自分にできる最大限の準備をして教育実習に臨んでほしいと思います。一生懸命に取り組んでいれば生徒はそれにこたえてくれます。また私は休み時間に、学ぶことに対する生徒の本音も先生方の本音も聞くことができました。これは、経験が豊富な教師でも、生徒でもない立場だったからこそできたことだと思います。皆さんも教育実習生としてできる貴重な経験を2週間あるいは3週間の間にしてもらえたらと思います。そして何より、頑張ることも大切ですが、教育実習を楽しんでください。



教育実習を終えて（社会）

埼玉県久喜市立久喜中学校 文学部人文学科社会学専攻4年 宗守 徹

実習の概要

私は母校である埼玉県久喜市立久喜中学校で3週間、教育実習をさせていただきました。最初の1週間ほどは、授業見学を通じて授業のやり方を学びました。社会科以外の教科の見学も行いました。実習4日目からは、朝と帰りの会を任せられました。2週目の半ばからは、教壇実習が始まりました。放課後は部活に参加し、教材研究は主に授業の空き時間と帰宅後に行いました。

実習前の準備

実習校からは地理、歴史、公民の中のどれを担当してもらうかわからないと言われていたので、実習前は苦手な分野・単元を克服することに力を入れました。実習2週間前に事前オリエンテーションがあり、担当する分野と単元がわかったので、図書館に通い、重点的にその部分を学びました。

教壇實習

教育実習は不安な事でいっぱいでしたが、教壇実習に関しては事前準備をやってきたので、少しはできるだろうという自信がありました。しかし、実際に教壇に立ってみて、生徒に教えることがいかに難しいことを思い知らされました。初めのうちは、授業を進めるので精一杯で、生徒の様子を見る余裕がありませんでした。ときには、生徒が板書をノートに写す前に黒板を消してしまい、やる気をなくした生徒が寝てしまうということもありました。授業がうまくいかず、焦りだけがつのっていきました。そんなとき、指導教諭から「計画どおり授業を進めるよりも、ゆっくりでも生徒がわかるように授業した方がよい」とアドバイスをいただき、気持ちが楽になりました。それから生徒にわかりやすい授業をするために、様々な工夫をするように意識しました。模造紙に絵を描いたり、言葉を書いたプレートを張りながら授業を進めたりと、工夫を凝らしました。教材づくりに時間が

かかるので大変でしたが、生徒が喜ぶ顔が見たくて頑張りました。努力のかいがあって少しずつ授業に活気が出てきました。生徒の立場に立った授業をすることの大切さを学びました。

生徒とのコミュニケーション

授業以外で生徒とコミュニケーションをとれる時間は、思いのほか少ないと感じました。生徒と仲良くなるには、休み時間や掃除の時間などに自分から積極的に生徒に話しかけることが大事だ、と感じました。生徒とのコミュニケーションで苦労したのが、無意識にしていると関わる生徒に偏りが出てしまうことです。ですの
で、なるべく多くの生徒と話をするように意識しました。また、生徒と仲良くなることで、授業もやりやすくなりました。その意味でも、生徒とのコミュニケーションはとても重要なことだと学ぶことができました。

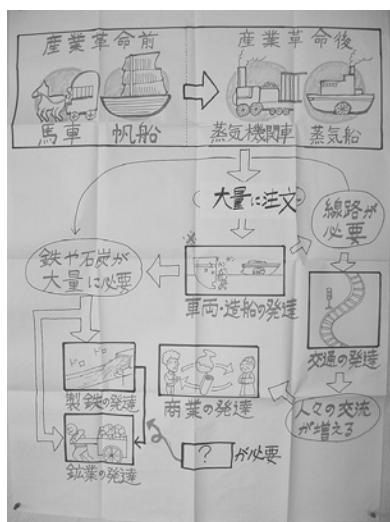
後輩へのメッセージ

教育実習は、実習が始まる前から始まっていると思います。特に教科指導は、生徒に教えること以上の知識がないとうまく授業をすることができません。実習中に指導技術をたくさん学ぶためにも、専門科目の知識は実習中にしっかり勉強しておくことが大切だと思います。

実習中はとにかく忙しくて、ときにはもうやめたいと思うこともあるかも知れません。しかし、最後までやりとおすことで得られる充実感、何ものにも代え難いものです。苦しいときは、生徒や周りの先生が存在がきっと支えになってくれるはずです。僕自身も生徒の明るさ、周りの先生の優しさに何度も助けられました。

教育実習で関わるすべての人に感謝の気持ちを忘れず、意識を高くもって努力を続けられれば、必ずたくさんのことが得られると思います。

みなさんが充実した実習ができることを心から期待しています。頑張ってください。



教育実習を終えて（商業）

山梨県甲府市立甲府商業高等学校 商学部マーケティング学科4年 望月 由里子

5月31日から6月14日までの2週間、母校である甲府市立甲府商業高等学校で教育実習をさせていただきました。実習前は、久しぶりに母校で学校生活を送ることができる楽しさと、お世話になった先生方に会える嬉しさや懐かしさなど実習に大きな期待を持っていました。その一方で、本当に自分が教壇に立って高校生に教えることができるのかという気持ちもあり、大学の講義で繰り返し模擬授業を行ないましたが不安でいっぱいでした。はじめは慣れることに精一杯で、自分の授業を行なうことにしか頭が回らず、精神的にも体力的にもとても辛かったのを覚えています。自分が生徒側として見ていた教師の仕事より実際の仕事量はとて多く、部活指導も加わると本当に休む暇がありませんでした。教師という仕事は本当に大変だと感じましたが、生徒と触れ合う中で生徒から元気をもらうことが多く、短い間でしたがやりがいを感じるが多かったです。

教壇実習では1年生の簿記を担当させていただきました。初めて教壇に立ったのは実習4日目でした。最初の授業ではとにかく緊張して計画していたことができず、自分の思うように進めることができませんでした。しかし、回数を重ねることで教壇に立つことに少しずつ慣れ、担当教諭の先生にご指導をいただきながら次の教壇実習に繋げていくことができました。

教壇実習では「わかりやすい授業」をすることが重要だと思いました。何が大切か、なぜこうなるのか、どうしてこれが重要なのかを明確にし、教科の意味を教える上で理解を深めるようにすることが非常に大切だということがわかりました。しかし、教科の意味や理論は難しく、理解しにくく興味を持ちにくいことを感じました。生徒に興味を持ってもらうためにも、生徒を授業に引き込むことが大切でした。教材を工夫し、発問を出すことで生徒が授業に参加しやすく楽しく受けることができる環境を作ることが大切だと思いま

した。また、教壇に立った時の立ち位置や、話し方を工夫すると生徒の理解が変わってくることわかりました。大切なことをしっかり伝えることや、生徒の気持ちになって考えて授業を組み立てることが生徒の理解に繋がると思いました。

生徒と触れ合う中で感じたことは、「褒めること」と「叱ること」の大切さです。できたことや頑張ったことに対して褒めることで、生徒のやる気や取り組みに影響が出てきます。次も頑張ろうという前向きな姿勢を感じることができました。また、駄目なことややってはいけないことはしっかり注意できないといけないと思いました。教師は勉強を教えることだけでなく、生徒を育てることも重要な仕事だと思います。叱ることは生徒を教育すると言う意味でとても大切なことだということがわかりました。

実際の現場に入り、生徒と触れ合えたことは本当にいい経験になりました。この教育実習を通して一緒に働く仲間の大切さも学ぶことができました。甲府商業での実習生は全部で7名いましたが、実習生の目線で指摘し合い、助け合うことでお互いに向上することができました。また、実習期間中は悩むことも多く、不安になってしまうこともありましたが、周りの先生方のサポートや心遣いに何度も助けられました。お忙しい中、担当の先生をはじめ、たくさんの先生方が実習生の指導に一生懸命になっていただいたことは、本当にありがたいことだと思いました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私はもともと教職という進路を選択していましたが、この2週間の教育実習を通して学校の先生になりたいという気持ちがさらに強くなりました。教職は「人を育てる」という大変な仕事ですが、自分に返ってくるものはとても多く、本当にやりがいのある仕事だと感じました。この教育実習で学んだことを今後の糧とし、これからも自分の目標に一步步近づけるように努力していきたいと思います。



教育実習を終えて（情報）

埼玉県立浦和北高等学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 車谷 祐希

母校の埼玉県立浦和北高等学校で5月31日から3週間、教育実習をさせていただきました。私は、素晴らしい浦和北高校の先生、生徒、実習生に恵まれ、ここには書ききれないくらい多くの貴重な体験をしました。そのほんの1部分を紹介したいと思います。

●教壇実習を通して指導されたこと、感じたこと

まず私が一番感じていたのは「教える側が失敗しても生徒は授業を受けなければならぬ」ということでした。ある授業で生徒をうまく授業に引き込むことができず、けじめのない授業をしてしまいました。しかし授業をやり直すことは絶対にできません。大学での模擬授業とは訳が違うということを改めて実感しました。指導教諭の先生から「実際に「教える」側として教壇に立っているから、責任を持って授業を行わなければいけない。そして、どんなに失敗した授業でも生徒は50分間授業を受けなければいけないんだよ。」と言われ、改めて気を引き締めました。

次に「生徒全員を見捨てない授業を心掛け、使えるもの（教具）はすべて使ってよい授業を作る」ということです。指導教諭に一番指導されたことで一番難しかったことです。「情報」のように実技がメインになってくる科目は「講義形式」の授業とは異なり、結果や成果がその場で現れる授業は教師にとってつらいもの。どんな指導をしても、40人全員に完全に理解させることは困難。理解に差があることを前提にした授業を組み立てていくように心がけるべき。」という指導教諭の話より、たくさんの器具がある情報教室をフル活用し、使えるものは可能な限り生徒のためにすべて使い、授業を進行していきました。それでもついてこれない生徒が多ければその場で時間配分を変更し、もう一度説明を行うということも何度かありました。

また、指導教諭以外の先生の授業も頂いて教壇実習をさせていただいたこともあり、指導する先生によってクラスの雰囲気、態度が変わってくるということを実感しました。たとえ同じ内容の授業を行うのであってもクラスによって発問を含め、授業の進行を生徒観に合わせて変更するということが必要でした。

その度に指導案を書き直し、授業の展開を考えることが実習で苦労した点の一つです。

●教壇実習以外の時間の使い方

空き時間に積極的に他の先生や実習生の授業を見させていただきました。現役の先生の技や、実習生ならではの授業の工夫をたくさん見ることができて勉強になりました。板書、発問、授業の展開など、自分に足りない部分を探すのにも役に立ち、文系理系の枠を超えた、いろいろな科目の授業を見学することで、意識という部分でレベルアップ出来たのではないかと感じています。また、実習生同士で授業を見学し合い、アドバイスを交換することで自分に足りないところに気付くことができ、次の授業に活かすことができました。

●生徒とのコミュニケーション

「指導する者」「指導される者」の区別にとっても神経を使いました。生徒達は、年齢も近いということで、友達感覚で話し掛けてくることが多々ありました。しかし、友達になってはおかしいので、親しくしすぎず、距離を置かず、といったように接するように心がけていました。初めは、生徒に話しかけられるのがうれしくて、ついつい友達感覚になりがちだったのですが、途中から「先生」「生徒」ということを意識できたと思っています。

●最後に

楽しいことも、つらいこともたくさん詰まった教育実習でしたが、私の人生の中で一番充実した時間であったことは間違いありません。そして、教師の卵として一步成長出来た場だと思っています。これから実習に行かれる皆さんも意識を高く持って、きちんと準備をして、良い実習ができるように頑張ってください。



教育実習を終えて（数学）

埼玉県白岡町立白岡中学校 ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 齋藤 光雪

1. はじめに

私は母校である埼玉の白岡町立白岡中学校で実習を行いました。期間は、5月24日～6月11日までの3週間でした。家から中学校までは、自転車で10分程度です。

母校ということもあり、他の実習生3人も教科は違ったのですが、元同級生で仲良く過ごすことができました。実習期間中には教壇実習の内容や、生徒や先生との関係についてなど、色々と悩むことも多かったのですが、相談相手がいる、とても恵まれた環境で実習ができました。

2. 一日の流れ

だいたい7:00に家を出て、8:10の先生方の会議に参加、その後に教室へと向かい、朝の会と10分間読書、清掃を行った後に1時限が開始します。4時限後に給食を挟み、午後の授業。5時限の日と6時限の日があり、時間割も数週間での変動制でした。21:00くらいまで指導案作成や雑務をこなす、という生活を送っていました。

雑務としては、生徒の生活記録ノートのチェックをして一言書くことと、受け持った授業の生徒の自己評価カードのチェック、また、授業開始後10分間で行われる「スピード80」という小テストのチェックなどをしていました。帰りの会が終わった後には、技術コンピュータ部に顔を出したりもしました。

3. 生徒の様子

私は1年生を担当することになり、とても元気な1年1組の生徒と共に生活を送ることとなりました。

私はまず、「給食は残さず食べる。もし残すのなら他の人にあげよう」というルールに驚きました。そのルールを生徒がきちんと守っていたため、1年1組は本当に残し物がありませんでした。私も残さないで給食を完食することができましたが、あまり時間がなかったため、生徒と会話をしながら食べるというのは意外と大変でした。また、給食中は生徒とコミ

ュニケーションを取ることのできる数少ないチャンスだったため、兄妹の話や最近流行っているものなど、積極的に会話を行いました。

4. 教壇実習

教壇実習を行う上で一番重要なのは、名前をきちんと覚えることだと思います。最初のうちは、何度か別の人と呼び間違えたり、漢字を読み間違えたりしてしまいました。名前を覚えていないということは、授業でも指名するときに非常に困るし、生徒からの不信感にも繋がります。最終的に、だいたい覚えることが出来ましたが、やはり、授業中騒がしい生徒や、よく手を上げてくれる生徒の名前を早く覚える傾向にあり、内向的な生徒に対しても自分から話しかけて仲良くなっていく必要があるように思います。

数学は、出来る子と出来ない子がはっきりしていて、問題を出してから解けるまでの時間が違うので、どちらにも対応しなければいけないのが難しいです。今回、教壇実習に慣れてきてから、早く終わった生徒に対してはプリントを配って解いてもらいました。しかし、プリントを配布した場合も、提出させるのか、どの問題を解かせるのかなど、考えなければいけないことも多かったです。

5. 最後に

3週間の教育実習を終えて、生徒や先生との交流や教壇での実習を通して、人前に立つ度胸がついたように思います。また、実習をやってみると、生徒の態度や発言から、私の説明が伝わったのかが分かり、改善するべき点を知ることができて、非常にためになりました。やはり、体験することこそ、新しい発見や反省を生み出すためには必要なことだと思います。また、先生が最初に「とにかくい

ばい教壇実習を行いましょう」と言ってくださった理由が実感できました。

最後に、これから実習を迎える方々へ。実習は本当に大変だと思いますが、1日1日を大切に、精一杯頑張ってきてください。



教育実習を終えて (小学校)

横浜市立上矢部小学校 経済学部経済学科4年 高橋 辰樹

私は10月12日から11月5日までの四週間、小学校で教育実習を行なった。教育実習の間には宿泊学習や、PTA主催のイベント・地域と学校で開催しているイベントがあった。

まずは、四週間の流れをざっと紹介する。

一週目は、指導教諭の授業を中心に様々な先生の授業を見学させていただいた。他にも、校長、副校長の講話、養護教諭の保健指導、栄養士の給食指導があった。二週目には一度授業をさせてもらったほか、授業見学を行なった。週の最後には、宿泊学習に帯同した。三週目、四週目には授業を1日に3時間前後行なった。

全期間を通じて放課後は、教材研究や行事の準備の手伝いをして過ごした。また、研修会があるときは参加させていただいた。

この実習では多くのことを学ばせていただいた。ここからは学んだことを幾つか列挙していく。

まず授業についてだが、なんといっても教材研究が大切だということを学んだ。1日に5時間、様々な科目を教える小学校の教師が教材研究するのは凄く大変であると感じた。中学・高校と違って、専門的な知識を教えるわけではないので手を抜いても、既存の知識で教えることが出来てしまうこともある。しかし、子ども達の発想や疑問は時に本質を鋭くとらえるので、教材研究していないと答えられないことが多々あった。そういう時のために教材研究していく必要が在ると感じた。

他にも、児童の活動から引き出していくこと大切に授業を展開していくことの大切さと難しさを学んだ。授業を作っている段階で、児童の反応を予想し展開していこうとすることでさえ難しかった。実際に授業をすると予想通りに反応が返ってこないため、より難しいと感じた。しかし、上手にいくと教師の働きかけなくても児童同士で学びあう授業が展開出来た。

次に学級経営の大切さがわかった。小学校では1日児童とともにする。授業もほとんど担任が指導し、担任と学級の児童との関係が非常に大切である。それを良好にするためにも

学級経営が大切なのである。ただの仲良しというだけでなく、メリハリのある学級を作ることが大切だと感じた。経営はすぐにできるわけではなく、日々の積み重ねで出来るもので、しっかりとした方針をもって経営していくことが必要だと教わった。また、厳しい指導した後は、その後に必ずフォローし児童に嫌な気分をずっと持たせないようにすること、最後にはみんな笑顔で迎えられるように経営していくことを目標にしていけば結果は付いてくるという言葉も頂いた。

他にも、教師間の協力が重要だということも学んだ。毎日のように授業を行い、行事など授業以外の仕事も多く、一人でやるには大変である。同じ学校の教師と協力して行なうことが大切であった。授業作りも他の先生と相談すれば、早く、そして良い授業が作ることが出来た、また、行事の運営なども一人ではとてもできるようなものではないと感じた。既に経験のある先生の話の聞いたり、管理職から意見を求めたりして考えていくことが大切だと思った。児童のトラブルでも同様に、相談して解決を図っていくことが大切なのだと言われた。

以上が実習期間で学んだことである。最後に全体を通じて考えていたこと、感じたことを述べる。

それは教壇実習では、毎回自分なりの考え、テーマを持ってやることが重要で、試行錯誤すべきということである。実際に指導の経験のない実習生はミスしても大丈夫だと思っていろんなことに挑戦していくべきだと思う。色々なことを試して、評価を受けることで指導の幅が広がるからだ。一つのスタイルにこだわらず、見学で学んだことをたくさん試し、自分にあってる、学級にあってる、そういったことを確認していき、研究授業で一番あったものをするのが出来ればいいと思う。実習期間は、教材研究なども大変で辛い部分もあったが、それ以上に児童と実際に触れ合えることが楽しいと感じることが出来る。頑張っていて楽しくて有意義な実習にして下さい。



介護等の体験を終えて

文学部日本語日本文学科日本語学専攻3年 和知 奈緒佳

1 特別支援学校

私は神奈川県立中原養護学校の小学校4年生のクラスで、2日間の体験をしました。この学級には肢体不自由の障害のある児童が4人通っています。少人数ですが、一人ひとり違う症状を抱えており、それぞれに合った接し方をすることが求められていました。

このクラスの中で私が一番長く見させていたいた児童は、話すことも、気持ちを表現することも上手に出来ませんでした。私たちが普段しているようなコミュニケーションは通用せず、ゆっくりと表情の変化を見守らなければなりません。表情から気持ちを読み取る作業は素人の私には大変でしたが、接しているうちに、少しずつ気持ちが読み取れるようになりました。嬉しいときには、口角が上がったり、声にならない声を発したり、一生懸命に喜びを表現してくれます。普段せかせか動いている私たちでは見逃してしまうような小さなサインですが、このサインを読み取れた時は、涙が出そうになるほど感動しました。こういう子ほど、ほとんどの行動を誰かと共にしなければならない分、きっと私たちよりも言葉にはならない気持ちや意志がたくさんあるのだらうと思いました。

また、この学校にはチャイムがありません。ここでは、行動の全てが勉強だということから、チャイムを鳴らさないのだそうです。最初は少し違和感がありましたが、子どもたちが、学校に来るだけでも大変なのに、何をするにも全力で頑張る姿を見て納得しました。

これらの体験を通して私が強く感じたのは、こころにゆとりを持ってじっくり見守ること、そこから少しずつ一緒に取り組んでいくことの大切さです。ここでは子どもも大人も、障害の有無も関係なく、何事にも時間をかけてでもじっくり取り組んでいました。当たり前になりましたが、チャイムが鳴る、時間に区切られた生活をしていただいた私たちになかなかできない大切なことだと思えます。

もっともっと気持ちを読み取れるようになりたい、一緒に楽しみたい、そう思いながらあっという間に過ぎた2日間でした。

2 社会福祉施設

社会福祉施設では、柿生アルナ園で5日間の実習をしました。この施設は、入居ほかに、ショートステイ、デイサービス、地域包括の事業などがあり、来ている方が日によって違います。

実習前までの想像とは違い、とても活気のある環境でした。

実習中、デイサービスのお手伝いをさせていただいたのですが、デイサービスにいらっしゃるお年寄りは要介護度が低く、様々なお話をさせていただきました。茶道教室にも参加させていただきました。初心者の方にも親切に教えていただきました。お話の中でも「辛いことがあるからこそ人生は楽しい」などと話していただき、やはり人生の先輩だなと実感しました。

また、死と隣り合わせの空間であるという現実も、体感させていただきました。特に印象に残ったのは、入居者の95歳の女性が「もう死にたい。こんなところにいるのはつまらない。」とおっしゃったことです。認知症のため、繰り返し同じことを話していた女性の突然のしかりとした一言に私は驚き、戸惑いました。「そんなことおっしゃらないでください。」と言うことしか私にはできませんでしたが、死と隣り合わせの恐怖や、やりたいことが思うようにできないつらさや苦しさは、人の心を蝕んでしまうのかもしれない。

このような体験をして思ったことは、人は誰しも歳をとるのに、イメージがなかなか湧かず、その現状について日常ではあまり考える機会がないということです。今後教育に携わることができたら、施設の現状や様子を子どもたちに伝えるときにも、お年寄りにもプラスになる交流を図ることができたらと思います。

3 実習全てを終えて

今回の実習を通して、助け合って生きていくことの大切さ、命の尊さを学びました。インクルーシブ教育や生涯学習の重要性が叫ばれている昨今、私も今回学んだことを教育に生かせるようになりたいと強く思い、教員志望の意志がさらに高まりました。



先輩教師から「未来の教育者」に対するメッセージ

商学部 兼任講師（専修大学松戸高等学校 教諭） 泉 貴久

1. 授業づくりに必要な視点

教師の役割とは「生徒たちが学びを通して社会とコミットしていくためのきっかけづくりをすること」と筆者は考えている。そのことを踏まえ「生徒自らが学習活動を通じ社会で起こる様々な問題と自身とのつながりについて気づくとともに、そこから自分の価値観や生き方を確立し、市民として社会参加のきっかけをつかむ」ことを念頭に日々の授業に臨んでいる。

社会科教育の本質ともいえる「市民性」「社会参加」を視野に入れて授業づくりをするのであれば、生徒たちの主体的な学習活動を促すための何かしらの仕掛けづくりを考えていかなければならない。すなわち、知識習得型授業から問題解決型・政策提言型授業への転換である。

そのためには、学習指導要領によって規定されている教科・科目の理念を踏まえつつも、目の前にいる生徒たちの興味・関心、社会の現状を考慮に入れながら彼ら彼女らの思考・判断・表現のプロセスに沿った形で学習内容を組織化していかなければならない。場合によっては、教科書で扱われている学習内容を組み換えていく作業も必要となる。

いわば、生徒たちの主体的な学習活動を実現するためには、生徒の科学的な思考・判断プロセスと的確な表現力の育成を重視する探究型の学習過程が重視されなければならないのである。すなわち、「何を教えるか」(What) よりも「いかに学ぶか」(How) が授業づくりにあたっての重要な視点と考える。

そうした点を踏まえ、次にどのような教材を開発するのかを考えていかなければならない。その際、社会や人間に対するあくなき好奇心を持つことが前提となる。それとともに、自分の身の回りの世界全てが「教材の宝庫」であるという認識に立ち、積極的なフィールドワークを通じて身のまわりのあらゆる情報を収集し、分析・解釈する能力が必要となる。

その上で、どのような学習方法を導入するのかを考えていかなければなら

ない。それと同時に、生徒たちへの社会参加を視野に入れた授業を展開するには学びの雰囲気づくりへの配慮も欠かせない。

言うまでもなく、現実社会は異なる価値観を持った人々の集合体である。そこでは話し合いを通じて、互いの違いを共有し、意見調整をしながら、より良い方向に物事を運んでいくことが不可欠といえる。そのためにはグループ作業やディベート、ディスカッションなどの参加型・体験型の手法を学習活動の中に組み込んでいく必要がある。私自身も普段の授業においてそのような場をできるだけ多く設定しているが、その理由は、授業で獲得した知識・技能・態度は現実社会で活用してこそ初めて意味を持つものと考えているからである。

現実社会は「人々の協働の問題解決の場」である。ならば、学習の内容・方法・形態を現実空間にできるだけ近づけていかなければならない。現代社会の矛盾をとらえ、それへの解決を目指し、より良い社会を築いていく。市民としての資質はまさにここにある。そして、これこそが教科としての社会科（地理・歴史・公民）の存在意義といえるのである。

2. 教育実習での失敗をバネに

筆者が教員を志した理由は単純である。中学・高校の教員になることができれば、得意科目の地理を学ぶことができ、学んだことを生徒たちに何かしら還元できるだろうと単純に考えていたからである。地理に接すること



「イギリス・グラスゴーでの国際地理学連合大会にて（左から二番目が筆者）」

のできる職業として教員は最適な仕事と思っていたのである。

地理に興味を持ったのは、幼少期のイギリスでの生活体験で異文化に対する寛容な態度を身につけたこと。それと同時期に、乗り物好きが高じて鉄道好きになったこと。小学生の時に、列車の車窓から見える地域的な景観の違いのおもしろさに気づき、その理由についてさらに深く知ろうと思ったこと。中学生になって、地図と時刻表を片手に、自分のいる場所と行きたい場所との位置関係を確認し、そこまでたどり着くルートを考え、所要時間を算出しながら旅行計画を立案していったこと。高校生の時に、計画通りに旅行を実行し、自身の空間的な視野を広げていったことなど全ての体験がきっかけとなっている。高校で地理を履修するとともに、大学進学に際し地理学科を志し、そこへ入学したことは必然的だったのだ。

しかしながら、ただ単に地理が好きだから教員になれるというものではない。そのことを大学4年時の母校（公立中学校）での教育実習で痛感した。地理を生徒たちに教えるための術を持っておらず、授業が成立全くしなかったのである。しかも、学校や生徒の実態を考慮することなく、教科書通りに授業を進めようとした。中学生なら簡単に扱えると思っていたが、そこは思春期の子どもたち。実習生には簡単にはなついてくれない。結果的には生徒に相手にされず、満足なコミュニケーションがとれないまま実習を終えてしまった

ことは今でも悔いが残っている。

そこで、教員になる前にそれに相応しい資質を身に付けることの必要性を痛感し、大学院の門をたたくことになった。具体的には、教科教育の理論とそれに裏打ちされた実践研究を臨床的に行うために教育学系大学院への進学を志したのである。

大学院修士課程進学後は社会科教育学専攻に所属し、主に地理教育の理論研究とともに、附属学校における仮説検証のための実験授業を行うことで、現場での実践へ向けての力量を養っていった。それとともに科学的な探究方法で教材開発や授業プランを作成するスキルを習得していったのである。

3. 教員を取り巻く厳しい状況

それから約20年。現在は高校の社会科教諭として主に地理を担当し、その間、多くの卒業生を送り出し、数多くの実践を積み上げてきた。これも学部時代に培った地理学的思考と院生時代に培った教科教育学的観点がバックボーンとして身につけているおかげである。

以上、先輩教師として学生諸君へとりとめないメッセージを発してきた。最後に教員を取り巻く厳しい現状と今後の対応策について言及することで本稿のむすびとしたい。

近年、子どもたちの学習意欲の低下、受験準備に偏る学習体制、多忙化する校務とそれに伴う研修の確保の難しさに代表されるように、教員を取り巻く課題は山積みである。それゆえに、「未来の教育者」たる学生諸君には教育の本質

を見失うことなく、自身の教育観を確立して行ってほしいと切に願っている。それとともに、一市民として社会と向き合い、自分と異なる見解を持っている様々な立場の人たちとの対話を通じて多様なものの見方を養ってほしいと考える。そのことは教師になった時に必ずや生きてくるはずである。幅の広い考え方を持てる人こそ教師になってほしい。そのことが次世代へ向けてより視野の広い人間を育てていくことにつながっていくからである。



「国際地理オリンピック台湾大会にてロシア代表生徒とともに（後列右側が筆者）」

教科研修生体験レポート

ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科4年 山田 恭弘

私は、神奈川県立港北高校で、2009年9月から2010年3月までの間、教科研修生として情報科の授業に関わりました。

私が、教科研修生を申し込もうと思った理由は3つあります。1つ目は、実際に学校教育現場へ飛び込むことで、大学では学べないことが学べると思ったから。2つ目は、教科研修生を経験した先輩の実体験を聴き、魅力を感じたから。3つ目は、教員採用試験の際のアピールポイントになると思ったからです。

私は、教科研修が決まったときから、学校教育現場の中で学べる、という絶好の機会を無駄にしないように、一つでも多くのことを吸収し、自分のものにしようと思っていました。また、見学者ではなく研修生である、という気持ちを常に持ち、現場の先生方の胸を借りるつもりで、積極的に授業に参加し、教える立場に立って生徒と関わろうと思っていました。

実際に研修が始まると、教室には私の他に、先生が3人、外部講師の方が1人いらっしゃったため、教える側の人数が想像以上に多く、戸惑いました。新しい環境に飛び込むということで、とても緊張と不安でいっぱいになりましたが、積極的に関わろうという気持ちがあったので、すぐに慣れました。

教科研修生として私が行ったことは、授業補助でした。情報科の授業は、コンピュータ室で行われ、授業のほとんどが実習です。私の役目は、実習中に操作や手順が分からなくなってしまった生徒の補助をすることでした。私が生徒の間を歩いていると、生徒が「先生」と言って手を挙げるので、すかさずその生徒のところへ行き、教えるということの繰り返しでした。

教師でもなく、生徒でもない、教科研修生という立場で見る授業というものは、とても新鮮です。生徒側の視点からは、先生の授業

展開や発問、生徒との接し方を学ぶことができ、先生側の視点からは、真剣に話を聴いている生徒、寝てしまった生徒、隣の友達と話してしまっている生徒などがいるということ、生徒はどこに興味を持つのか、どこでつまづいてしまうのか、ということを経験することができました。私は、両方の視点から見つつ、もし自分が授業をするならば、どのように授業をするのかを常に考えていました。

研修を行って感じたことは、大学での学びがそのまま高校の授業に役立てられるわけではない、ということでした。そのため、高校の授業を考えるためには、新たに知識を増やすことが必要だということを痛感しました。

また、一番良かったと思うことは、生徒たちの活動を長期間見ることができたことです。長い期間で生徒を見ることで、生徒の成長や変化に気づくことができます。教育実習では学べない教科研修生の特色だと思います。

反省点としては、生徒が手を挙げたり、困っていたりするときは積極的に動けたと思いますが、それ以外のときにも、生徒と積極的に関われば良かったということです。

私にとって、教科研修での経験は、とても貴重なものになりました。港北高校の先生方や生徒たちからは、とても多くのことを学ばせて頂きました。特に、授業の雰囲気や流れ、生徒たちの学習活動というのは、現場でしか学べないと思います。そのため、教科研修生での経験が、大学での学びをより充実したものにしてくれます。教科研修での学びが大学での学習に結びつき、大学での学びが現場での学習に結びつくと思います。将来、教師になることを目指している人は、是非この教科研修生という素晴らしい機会が用意されているので、積極的に参加してもらいたいと思います。

多摩区・3大学連携事業「学校教育ボランティア」体験レポート

文学部人文学科環境地理学専攻4年 畑野 なつみ

はじめに

「畑野先生」「なつみ先生」「ちっちゃい先生」小学校の門をくぐれば、私は様々な呼び名で呼ばれます。教室に入れば「来た!」と、週一回来る私を待ちわびていたかのように子どもたちが近寄り声をかけてくれます。今日は何時間目にこのクラスに来るのか、朝なのに給食は何班で食べるか、昼休みは何をするか、生徒達は一斉に私に質問してきます。「早くこの小学校で先生になってね!」と、嬉しい言葉もくれます。一度挫折しかけた小学校教諭になる夢を、ボランティアで携わった子どもたちがもう一度目指す気持ちにさせてくれました。これから私が行った教育ボランティアについて紹介したいと思います。

教育ボランティアのきっかけと内容

私が学生ボランティアを行ったきっかけは、大学で募っていた貼紙を見たことでした。ボランティアを始めるまでは、ボランティアは自分とは距離があると感じていましたが、いざ始めるととても楽しくて今ではとても身近なことになりました。始めた当初は、学校の授業の合間にボランティアに行く程度の僅かな時間で行っていましたが、今では2つの小学校でボランティアを行うまでになりました。

ボランティア内容は、担任の先生のアシスタントとしてクラスをサポートします。授業についていけない子や集中できない子への個別指導。また、特定の子だけではなく、今やるべき事ではない事をやっている子に注意を促し、先生の方に目を向けさせることも大事な役割です。朝の会から参加をして、授業の他に給食を一緒に食べたり、昼休みも一緒に遊びます。時には学外の授業に同行させてもらったり、フィスティバルの準備も一緒にしたりしました。放課後は、先生方と子どもたち1人1人の話をし、その日に見つけた小さな発見なども先生に報告します。

ボランティアから学んだこと

クラスに入る前に、1人の子にずっと付ききりにならないでくださいと、注意を受けました。他の子と違う事をする子は、「違う事をやると先生が来てくれる」という誤った認識をしてしまうからだと言われました。そして、他の生徒も同じ事をやり始めてしまうという悪循環になるとのことでした。また、個別に対応するけれど、つきっきりになってしまったらその子自身のためにならなくなってしま

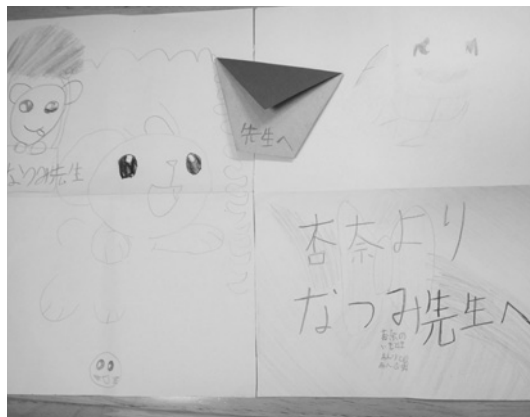
うので、適度な距離を作っていくことが大変でした。

また、改めて気付かされたことは生徒と先生の認識のギャップです。算数の時間、私達が当たり前前に使用している九九を「なぜ覚えなくてはならないの?数えた方が早いよ」と、言われました。生徒にとっては初めての九九。「小学校は教える内容は簡単」と、言われますがその逆だと思いました。どのように教えればいいのか、生徒の視点に合わせて授業を作り、普段の行いも生徒の視点を考えなくてはならないと改めて考えさせられました。

ボランティアを通してここでは書ききれない多くのことを学ばせてもらいましたが、やはり“個の理解”が一番大事なのだと思います。一人一人全く違った個性を持つ生徒を、集団で教えなくてはならない先生の大変さ、その集団をまとめるのも個を理解することが大事であると思います。

おわりに

上記も述べましたが、私は今までボランティアをやったことがありませんでしたが、小さなきっかけひとつに大きな学びを得ることができました。みなさんは“ボランティア”と、いう響きだけで少し挑戦しづらいかもかもしれませんが、少し積極的になることで大きな学びを得ることができるので是非挑戦してみてください。その学びは教師になった際にもとても役に立つことだと思いますし、なにより教員採用試験でも役に立ちます。さらに自分の子どもができた時に、子どもの視点に立って考えることができるようになると思います。私は、ボランティアを通じて学んだ知識や、出会った子どもたちや先生方に感謝を忘れずにこれからも教育に携わっていきたいと思います。



専修大学附属高等学校から

「教師への道を進もうとしているみなさんへ」

専修大学附属高等学校 教諭 太齋 潔

教員の道に一步を刻んだみなさん、ようこそ、教育界に！これから、みなさんの前に揚々たる未来が待っているのと思います、とにかく、すべてのことをエンジョイしていきましょう。さて、みなさんに質問です。教員に最も必要とされる資質は何だと思いますか。私は、迷わず、「人間力」を挙げたいと思います。「人間力」とはどのようなものだと思いますか。人間力とは基礎学力を基盤とした「知的能力」、社会で生きていくために求められる「社会的能力」、そしてこれらを生かしていくための「セルフプロデュース能力」で構成されていると考えています。

一つ、例を挙げてみましょう。教育実習を前に事前指導を行います。その際に「授業を上手に展開しようとせず、誠意を持って授業に臨んでもらいたい」と話します。簡単に言えば、小手先の技術や知識だけで教壇に立ってもらいたくはない、ということです。さらに詳しくお話しすると、実習生が持っていて教員になくなりつつあるもの、それは「若さ」です。生徒とのコミュニケーションをとるには、生徒との「距離感」は実習生の方が教員よりもはるかに小さいはず。生徒たちにとっては教育実習の短い間ではあったにしても、みなさんは一生、生徒たちの記憶の中では先生として輝き続けるわけです。これは、一種の「社会的能力」ではないでしょうか。社会的能力として、コミュニケーションをとる能力や他人を思いやり尊重する対人関係を学ぶ能力などが上げられると思います。また、学問を正しく伝えるのであればコンピューターがあれば十分です。すなわち、実習生のみなさんが持っている知識をすべて伝えようとするのではなく、自分の経験に基づいて生徒に知識を伝えてもらいたい、ということです。そのためには、自分の生き様を演出する「セルフプロデュース能力」が求められるかと思っています。これが教員という職業において人間力が求められると考えた経緯です。決して「知的能力」を軽視しているわけではありません。当然のこととして、学校教育を通じて習得できる基礎学力については当然、身につけておくべきことであるのは言うまでもありません。ただ、私の立場として、勉強はいつでもできるものの、人間形成には若いうちにしかできないことがたくさんあるということを伝えたいのです。若いころに経験したころをベースに教員になってからの生徒への接し方が決まってくるように感じます。クラブ活動で流した涙や汗、友達と過ごした楽しく甘酸っぱい時間、日ごろの勉強で身につけた知識、

すべての行動から教員生活で役立つ「技」があるわけです。

教員になろうと考えているみなさんにここで助言をさせていただこうと思います。「経験値を上げてもらいたい」ということです。海外に留学するのもいいし、スポーツに興じてみるのも、アルバイトで汗水流してみるのも、趣味を通じて自分をしっかりと見つめ直すのもいいと思います。様々な経験を通じて数多くの人たちと触れ合い、他人の気持ちを理解しながら、自分自身について考えてみてください。それを通じて、コミュニケーション能力や人を思いやる心、未来を描く想像力や思考力、自分のことを成長させようという強い気持ちがあるみなさんの一人ひとりの心の中に生まれ、育ってくるはず。日本の将来を作り上げていくのは皆さんたちです。ぜひともカッコいい社会人になってください。ぜひとも、この文章を読んだ意見や感想をかいてもらいたいと思っています。

最後に、先日、私が授業で生徒たちに教えたマザーテレサの言葉を紹を介します。

Yesterday is gone. Tomorrow has not yet come. we have only today. Let us begin.

追記 過日、私はかけがえのない親友で同じ職場の同僚を失いました。彼は常に生徒に100%本気で接していました。学校の授業準備や校務、部活動の指導のみならず、自分の研究にも本気で携っていた人間でした。勤務開始もほぼ同じ時期、ということで20代からずっと親友でいた人を失ったわけです。しかし、失った親友はもう一人、中学・高校時代、まさに10代の頃からの親友もいます。私と違い、スポーツ万能で水球で数多くのすばらしい成績を収め、何事にも勇猛果敢にチャレンジする親友でした。この二人がいたからこそ、私は教員を続けることができたと思います。二人の親友に感謝しつつ、この文章を書かせていただいた機会をいただけたことを感謝します。







司書・司書教諭課程

専修大学司書・司書教諭課程55年の歩み

文学部 准教授 野口 武悟・文学部 教授 荻原 幸子

1. はじめに

本学の司書・司書教諭課程は、1954（昭和29）年の司書教諭課程設置（開講は1955年。また、司書課程の設置は1958年）¹⁾以来、55年の歴史を有する。司書教諭課程は、根拠となる「学校図書館司書教諭講習規程」（文部省令第21号）が1954（昭和29）年8月に施行されたのを受けて設置されたもので、同規程が施行されたその年にいち早く司書教諭課程を設置した私立大学は、本学の他には京都女子大学くらいであった。また、司書課程にあっても、本学で設置する以前から設置していた私立大学は、慶応義塾大学（図書館学校：1951年設置）、天理大学（1951年設置）、同志社大学（1952年設置）くらいであった²⁾。このように、本学の司書・司書教諭課程は、他大学に先駆けて設置されたものであった。本来であれば、50年の節目に歴史をまとめておくべきであったが、その機会を逃してしまったので、55年を迎えた今、簡単にではあるがまとめておきたいと思う。

なお、歴史をまとめるにあたっては、主に、歴代専任教員が本学司書・司書教諭課程について記した文献（なかでも、芦谷清「本学司書課程の変遷（覚書）」に拠るところが大きい）と、司書・司書教諭課程の歴史に関する座談会の内容を参考にした。座談会は、2010年8月12日に東京・府中市のルミエール府中（市立中央図書館）内において開催し、前任教員（芦谷清先生、後藤暢先生）と現任教員（荻原、

野口）が参加した（写真1）（以下、人名の敬称略）。

2. 司書・司書教諭課程55年の歩み

2.1 カリキュラム

1954（昭和29）年に施行された「学校図書館司書教諭講習規程」では、司書教諭の養成科目として、「学校図書館通論」（1単位）、「学校図書館の管理と運用」（1単位）、「図書の選択」（1単位）、「図書の整理」（2単位）、「図書以外の資料の整理と利用」（1単位）、「学校図書館の利用指導」（1単位）、「児童生徒の読書活動」（1単位）の7科目8単位が定められ、本学司書教諭課程においてもこれら科目が開設された。なお、司書教諭の資格を得るためには、基礎資格として教育職員免許状の取得が必要であり、そのため、司書教諭課程の履修には、あわせて教職課程の履修も必要であった（現在においても同様）。当時、本学の教職課程（1950年設置）は二部のみに置かれていた³⁾関係で、司書教諭課程も二部のみに設置された。しかし、一部の学生も受講することは可能であった。

1958（昭和33）年に司書課程が設置されたが、同様に二部のみに置かれた。司書・司書教諭課程が一部にも置かれるようになったのは1960年代半ばごろのようである⁴⁾が、明確な時期は詳らかでない。課程設置当初のカリキュラムは表1の通りである。「図書館法施行規則」（1950年文部省令第27号）に定める司



（写真1）

表1 司書課程設置当初のカリキュラム

1958年のカリキュラム			1960年ごろ改訂のカリキュラム		
区分	学 科 目	単位	区分	学 科 目	単位
図書館学Ⅰ	通 論	1	図書館学Ⅰ	図書館学概論	1
	学校教育並びに社会教育	1		歴 史	1
	歴 史	1		社 会 学	4
	教 育	1		社 会 教 育	1
	マスコミュニケーション論	2		マスコミュニケーション論	2
Ⅱ	選 択 法	1		学校図書館通論	1
	特殊資料	1		学校教育と公共図書館	1
			Ⅱ	選 択 法	1
				特殊資料	1
				経済学資料解題	1
Ⅲ	資料目録法第1部	1		商業学資料解題	1
	資料目録法第2部	1		法律学資料解題	1
	資料分類法	1	Ⅲ	資料目録法第1部	1
Ⅳ	管 理	1		資料目録法第2部	1
	運 用	1		資料分類法	1
Ⅴ	参考業務	1		機械検索	1
	対外活動	1	Ⅳ	管 理	1
	各種奉仕	1		運 営	1
	社 会 学	4	Ⅴ	参考業務	1
		20		対外活動	1
				各種奉仕	1
				教 育	1
備考	「教育」は、司書教諭課程科目「学校図書館の利用指導」と合併		備考	・「学校図書館通論」は司書教諭課程の同名科目と合併 ・「教育」は司書教諭課程科目「学校図書館の利用指導」と合併	26

書資格取得に必要な単位数は15であったが、本学ではそれを上回る20単位を設定していた。その後、程なくして（1960年ごろ）カリキュラムが改訂されている。科目、単位数とも増加し、科目では、当時の本学の構成学部に対応させて「経済学資料解題」「商業学資料解題」「法律学資料解題」を新設、また、「機械検索」も新設された。いずれも、「図書館法施行規則」に定める省令科目にはない本学独自の科目であり、とりわけ、「機械検索」は、今後、コンピュータ検索が普及するであろうことを予想しての科目新設であり、きわめて先見性に富

んでいたと言えよう。単位数では、従前よりも6単位多い、26単位となった。

1960年代の半ば（おそらく、1966年～1967年ごろか）には、再び、カリキュラムが改訂されている。これは、1968（昭和43）年の「図書館法施行規則」に定める省令科目改正を先取りする形で改訂されたもので、表1の1960年ごろ改訂のカリキュラムとは科目名も単位数も大きく異なっている（表2）。また、1968（昭和43）年にも、省令科目改正にあわせて、カリキュラムが一部改訂されている。1968年の改訂では、単位数も41単位（選択を

表2 1960年代半ば～1980年代前半の司書課程カリキュラム

1960年代半ば改訂のカリキュラム			1968年改訂のカリキュラム		
区分	学 科 目	単位	区分	学 科 目	単位
甲群 (必修)	図書館学概論	2	甲群 (必修)	図書館通論	2
	資料選択法	2		図書館資料論	2
	レファレンス・ワーク	2		参考業務	2
				参考業務演習	1
	資料組織論A	1		資料目録法Ⅰ部	2
	資料組織論A演習	1		資料目録法Ⅰ部演習	1
	資料組織論B	1		資料目録法Ⅱ部	2
	資料組織論B演習	1		資料目録法Ⅱ部演習	1
	資料組織論C	1		資料分類法	2
	資料組織論C演習	1		資料分類法演習	1
乙群	公共図書館	4	乙群	図書館活動	4
	資料及び図書館史	2		図書及び図書館史	2
	情報処理機械概説	2		情報管理	2
丙群	資料検索論	2	丙群	社会教育	2
	社会教育	2		人文科学の書誌解題	1
	人文科学資料	1		社会科学の書誌解題	1
	社会科学資料	1		自然科学技術の書誌解題	1
	科学技術資料	1		視聴覚教育	2
	視聴覚資料	2		マス・コミュニケーション	4
指定	コミュニケーション論	2	指定	学校図書館	2
	学校図書館	2		社会学	4
備考	社会学	4	備考	「学校図書館」は司書教諭課程と合併	
		37			41

含む)にまで増加している。このときの「図書館法施行規則」では19単位を履修すればよいとされていた。しかし、本学では「図書館が司書有資格者に幅広い専門的な知識・技能を期待する向きも多く、これに対応するには省令に掲げられた程度の単位取得では到底不可能だと考えた」⁵⁾ため41単位としていたのであった。1978(昭和53)年には、1968年改訂のカリキュラムに「読書心理」という科目がさらに追加新設された。

1983(昭和58)年には、さらにカリキュラムの改訂が行われた(表3)。このときの改正の要点として、森崎は「a.コンピュータの利用に関する科目を増設 b.図書館経営論及び児童図書館論の科目を設け、必修とする c.図書館

資料論を通年科目(4単位)として内容を充実する」⁶⁾などを挙げている。

1997(平成9)年には、「図書館法施行規則」に定める省令科目の改正にあわせて、カリキュラムが改訂され、必修科目18科目(36単位)、選択必修科目8科目となった(表3)。必修選択科目については、A群(表の(A))から2科目以上、B群(表の(B))から2科目以上の、合計4科目以上を修得するものとした。「資料目録法Ⅰ部」と「同Ⅱ部」を「資料組織概説Ⅰ」とし、「資料目録法Ⅰ部演習」と「同Ⅱ部演習」を「資料組織演習Ⅰ」と統合した以外は、旧科目のほとんどが新カリキュラムに組み入れられた。また、「生涯学習概論」と「情報機器論」については学芸員課程との合併科目とし

表3 1983年度～2000年度の司書課程カリキュラム

1983年改訂のカリキュラム			1997年改訂のカリキュラム		
区分	学 科 目	単位	区分	学 科 目	単位
必修	図書館学通論＊	2	必修	図書館概論	2
	図書館資料論＊	4		図書及び図書館史	2
	参考業務	2		生涯学習概論	2
	参考業務演習	1		資料組織概説Ⅰ＊	2
	資料目録法Ⅰ部＊	2		資料組織概説Ⅱ＊	2
	資料目録法Ⅰ部演習＊	1		資料組織演習Ⅰ	1
	資料目録法Ⅱ部	2		資料組織演習Ⅱ	1
	資料目録法Ⅱ部演習	1		児童サービス論＊	4
	資料分類法＊	2		情報検索	2
	資料分類法演習＊	1		情報検索演習	1
	図書館活動＊	4		図書館資料論＊	4
	図書及び図書館史	2		情報サービス概説	2
	青少年のための図書館活動—	2		レファレンスサービス演習	1
	児童図書館論			図書館サービス論＊	2
	図書館施設・設備と経営—図	2		コミュニケーション論	2
	書館経営論			図書館経営論＊	2
選択	社会教育（A）	2	選択必修	社会学（A）	4
	社会学（A）	4		情報機器論（A）	2
	マス・コミュニケーション（A）	4		学校図書館（A）＊	2
	視聴覚教育（A）	2		マスコミュニケーション（A）	4
	情報管理（B）	2		読書心理（B）	2
	コンピュータ概論（B）	4		コンピュータ概論（B）	4
	コンピュータ実習（B）	2		コンピュータ実習（B）	2
	情報検索（B）	2		資料特論（B）	2
	読書心理（B）	2			
	学校図書館＊	2			
備考	＊印の科目は司書教諭課程の必修科目 選択科目は（A）、（B）からそれぞれ2科目以上履修		備考	＊印の科目は司書教諭課程の必修科目 選択必修科目は（A）、（B）からそれぞれ2科目（4単位）以上履修	

た。この年の改訂では、2年生以上の在学生等が1996年度までに取得した旧科目の単位を、新科目の単位として読み替える措置が取られた。新旧科目の読み替えに関する詳細は、別途、「学習ガイドブック」等に掲載された「読み替え一覧表」を参照されたい。

1999年度には、「学校図書館司書教諭講習

規程」の改正による司書教諭課程カリキュラムの改訂があり、司書教諭課程に新たに「学校経営と学校図書館」「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」の計5科目（10単位）が置かれ、この5科目すべてが司書教諭課程の必修科目とされた。これに

表4 2001年度～現在の司書課程カリキュラム

2001年改訂のカリキュラム			2006年改訂のカリキュラム		
区分	学 科 目	単位	区分	学 科 目	単位
必修	生涯学習概論	2	必修	生涯学習概論	2
	図書館概論	2		図書館概論	2
	図書館経営論	2		図書館経営論	2
	図書館サービス論	2		図書館サービス論	2
	情報サービス概説	2		情報サービス概説	2
	レファレンスサービス演習	1		レファレンスサービス演習	1
	情報検索	2		情報検索	2
	情報検索演習	1		情報検索演習	1
	図書館資料論	4		図書館資料論	2
	専門資料論	2		専門資料論	2
	資料組織概説	2		資料組織概説	2
	資料組織演習	2		資料組織演習	2
	児童サービス論	4		児童サービス論	2
選択必修	図書及び図書館史	2	選択必修	図書及び図書館史	2
	資料特論	2		資料特論	2
	コミュニケーション論	2		コミュニケーション論	2
	情報機器論	2		情報機器論	2
	図書館特論	2		図書館特論	2
	読書心理	2			
選択	学校経営と学校図書館	2	選択	学校経営と学校図書館	2
	学習指導と学校図書館	2		学習指導と学校図書館	2
	マス コミュニケーション	4			
備考	選択必修科目は3科目（6単位）以上履修		備考	選択必修科目は2科目（4単位）以上履修	

よって、司書課程の選択必修科目であった「学校図書館」は、司書教諭課程科目の「学校経営と学校図書館」と「学習指導と学校図書館」に置き換えられた。従来、司書教諭課程は司書課程科目のうち7科目を必修科目（表3の＊印の科目）とし、その他を選択科目として設定されていたのが、この年より、司書課程と司書教諭課程は独立した2つの課程という位置づけとなった。そこで司書課程では、司書教諭課程科目である上記2科目を選択必修科目とし、逆に司書教諭課程は、必修科目である前述の5科目のほかに、司書課程科目の一部を選択科目として開講した。このような両課程の相互乗り入れのカリキュラムは、本学の特色の一つとして現在まで継続している。なお、このとき以来、現在に至るまで司書教諭

課程についてはカリキュラムの改訂は行われていない。

2001年度からは、司書課程は必修科目が13科目（28単位）、選択必修科目6科目、選択科目3科目のカリキュラムとなった（表4）。選択必修科目は3科目（6単位）以上を修得するものとし、選択科目については、履修を奨励する一方で、最終的には学生の判断に委ねるものとした。全般的に、文部科学省令に沿った必修科目と必修選択科目を設定し、さらに「コンピュータ概論」「コンピュータ実習」「社会学」等の科目が廃止された。2003年度には、法学部、経済学部、商学部、文学部では、「生涯学習概論」と「情報機器論」を除く司書課程及び司書教諭課程科目が「自由選択修得要件単位」に算入できるという形で、卒業要件

表5 本学司書・司書教諭課程の歴代専任教員

氏名	所属	在職期間	専門分野
竹内 愼	文学部	1969年4月～1981年3月	公共図書館
芦谷 清	経営学部	1979年4月～1996年3月	学校図書館
森崎震二	文学部	1981年4月～1994年3月	公共図書館
後藤 暢	文学部	1994年4月～2004年3月	公共図書館
荻原幸子	経営学部 → 文学部	1996年4月～現在に至る	公共図書館 生涯学習政策論
野口武悟	文学部	2006年4月～現在に至る	学校図書館 教育メディア論

単位として認められるようになった。

そして、2006年度には、必修科目の「情報検索」、選択必修科目の「読書心理」「マス コミュニケーション」の廃止、及び、「図書館資料論」「児童サービス論」を2単位とする改訂が行われた（表4）。ここにおいて本学のカリキュラムは、省令科目通りの必修12科目、選択必修5科目（うち2科目以上修得）となり、今日に至っている。

なお、2009（平成21）年の「図書館法施行規則」の改正により、司書資格取得に必要な文部科学省令科目が改められ、本学でも、2012（平成24）年度よりカリキュラム改訂を予定している。現在は、新カリキュラムの検討作業を行っているところである。

2.2 担当教員

本学司書・司書教諭課程に初めて専任教員が着任したのは、1969（昭和44）年のことであり、公共図書館を専門とする竹内愼であった⁷⁾。1954（昭和29）年に司書教諭課程が設置されてから15年後のことである。

この間、上述した授業科目は、兼任講師と校内各学部や教職課程の専任教員の兼担で担われていた。1955（昭和30）年に開講した司書教諭課程担当の兼任講師は、阪本一郎、杉山康彦、鈴木英二、深川恒喜、横山孝次郎、若林元典の5氏であり、いずれも当時の学校教育、学校図書館分野の第一線で活躍していた研究者、実践者たちであった。その後、司書課程の増設にあわせて、椎名六郎、藤川正信、清水正三ら、やはり図書館学分野の第一線で活躍していた研究者、実践者が兼任講師とし

て加わった⁸⁾。なかでも、椎名は、前述した1960年ごろのカリキュラム改訂において大きな役割を果たしたとされる⁹⁾。

初代専任教員の竹内は、「早くから講義を進めるために、『NDC』『NCR』『図書館ハンドブック』『日本の参考図書』などのtoolや参考図書は、学生一人一人に貸与できるように研究室に備えなければならないと考え、購入の予算要求を行」¹⁰⁾うなど、本学司書・司書教諭課程の教育・研究環境の基礎が整えられていった。また、竹内は、司書・司書教諭課程の教育・研究の充実のためには専任教員の増員が必要と考え、大学当局に「司書課程担当教員の増員について」という要望書を提出する（1977年12月）などの働きかけを続けた。こうして、1979（昭和54）年、学校図書館を専門とする芦谷清を専任教員として迎えることとなった。すなわち、竹内（公共図書館）、芦谷（学校図書館）という2人体制が確立したのである。この専任教員体制は、荻原（公共図書館）、野口（学校図書館）の現在に引き継がれている。

1981（昭和56）年、竹内が図書館情報大学（現、筑波大学）に転出し、後任に森崎震二が着任した。森崎は1994（平成6）年に定年を迎え、後任には後藤暢が着任した（なお、後藤は1978（昭和53）年より兼任講師を務めていた）。また、1996（平成8）年には芦谷が定年を迎え、後任には荻原幸子が着任した。さらに、2004（平成16）年には後藤が定年を迎え、後任として2006（平成18）年に野口武悟が着任している（表5）。歴代専任教員のうち、森崎は、2006（平成18）年に逝去された。

なお、現在においても、司書・司書教諭課程の教育は、多くの兼任講師の先生方に支えられていることは言うまでもない。1970年代より毎年神田キャンパスで行っている専任教員と兼任教員の懇談会（打合せ会）は、教員相互の貴重な情報交換の場となっている。2010年度現在、司書・司書教諭課程科目の約55%（一部・二部合計）が兼任講師によって担われている。司書・司書教諭課程の教育・研究さらなる充実を考えると、長期的には、増員を含む専任教員体制のあり方の検討も必要であろう。

2.3 学生との関わり

(1) 受講学生数

近年、司書・司書教諭課程の受講学生数が大幅に増加している。特に、司書課程の受講学生の増加が著しい。ここ3年の推移を見ても、2008年度542人、2009年度593人、2010年度650人（いずれも、一部・二部の合計）という具合で、3年間で100人以上も増えている。就職難を反映して、履歴書に書ける資格のひとつとして司書、司書教諭を取得したいという意識の学生が増えているのかもしれない。森崎によると、1984年度の司書課程の履修者数は118人であった¹¹⁾ というから、2010年度の受講学生数は1984年度の実に5.5倍ということになる。大学全体の学生数の増加を考慮しても、この増加率は目をみはるものがある。

(2) 授業での指導

初代専任教員の竹内は、「学生に主体的に学習させることを重視し、課題やレポートをつぎつぎに提出させつつ、授業を展開した」と芦谷は述べている¹²⁾。また、「専修大学司書課程の特徴」（1993年）にも、「個々の学生個人を教育対象とするのは竹内時代からの学風であり、森崎の受けたアメリカ流の慶応図書館学校の学風の延長でもあった」と述べられている。そして、「授業においては、教師からの個々の学生に対する問いかけが重視され、また、教科によっては教室内のグループ討議が組織される」¹³⁾。この学風は、現在においても、1科目あたりの受講学生が30人前後の二

部の授業では確実に受け継がれている。一方で、前述のとおり、年々、受講学生が増加し、1科目あたり150～200人程度の一部の授業においては、ついつい一方的な講義に陥りがちである。当初の学風に鑑み、絶えず授業方法の改善を試みているところである。

(3) 図書館実習

図書館実習は、大学によっては科目化して必修化しているところもあるが、本学では、一貫して科目としてではなく、夏季休暇期間中（8月～9月）などを利用して希望者のみの実施となっている（学生の指導は「図書館特論」内で実施。また、専任教員が実習先を訪問し、実習館との意見交換を行っている）。なお、1985年からは、学生の就職活動に考慮して春季休暇期間中（3月）に図書館実習の時期を変更した¹⁴⁾ が、近年は、図書館側の受け入れ体制等の問題もあり、再び、夏季休暇期間中の実施が多くなっている。

(4) 就職懇談会の開催

1974（昭和49）年ごろより毎年実施している行事の1つに、司書課程就職懇談会がある。これも竹内が始めたもので、1990年代までは、毎年4月～5月ごろに実施していた。現在は、毎年11月～12月ごろに神田キャンパスで実施している。内容としては、「卒業生で図書館あるいはこれに関係深い企業に就職した数人を招き」、「職場のようす、就職試験に対する心がまえ、司書課程への要望などを話してもら」¹⁵⁾ っている。小松孝則は、1998年に「専修大学司書課程における就職指導—就職懇談会を中心に—」と題する論稿を『図書館雑誌』に寄せている¹⁶⁾ が、それによると、当時は1回の就職懇談会に3～5人の卒業生を招いて開催していたようである。現在は、1人の卒業生からじっくり話を聞くスタイルになっている。近年、図書館における正規職員の採用は著しく少ない状況であり、就職は厳しい。こうした状況にあつて、就職懇談会への学生のニーズも高く、ニーズに応えられる就職懇談会を今後も企画していきたい。なお、先の小松の論稿によると、1970年代から課程を履修する4年生に対して一

人30分ほどかけて司書・司書教諭課程の専任教員が進路希望を聞き、指導を行う個別の「面接」も就職懇談会とは別に行われていたとあるが、現在は行われていない。

(5) 図書館見学会等の開催

その他、司書課程では、伝統的に図書館見学会を実施してきた。現在も、年1回、見学会を開催している。また、1990年代までは、製本講習を後期授業開始日前日に行っていた¹⁷⁾。これは、業者の協力を得て手がかり製本を1日かけて習得するもので、「図書館資料論」（通年科目）の授業と連動しての行事であった（後述するライブラリークラブとも共催）が、同科目の半期化等もあり、現在は行っていない。

(6) ライブラリークラブへの助言

1970年代に司書課程卒業生と履修学生のコミュニケーションを図る意味で、手作り雑誌『芸窗』（うんそう）が創刊された¹⁸⁾（写真2）。1980（昭和55）年以降は、同誌の発行は、ライブラリークラブという大学公認のサークルに引き継がれ¹⁹⁾（専任教員が顧問を務めている）、現在も年に1回発行されている。同クラブでは、このほか、長期休暇期間中の合宿（メンバーの研究報告などを行う）、図書館見学などを行っており、これらには卒業生や専任教員が参加することもある。

2.4 その他

本学司書・司書教諭課程では、課程の教育と研究の成果を発表する場として、また、他大学との情報の交流を図る場として、1984（昭和59）年に『専修大学図書館学・司書課程年報』（ISSN0912-8719）を創刊した（写真3）。各号が筆者（野口）の手元に残っているが、各号とも専任、兼任教員の意欲的な研究論文等が多数掲載されている。また、当時の司書・司書教諭課程の教育の一端を知る貴重な資料ともなっている。しかし、残念なことに、1995（平成7）年の第6号を最後に休刊状態となっている。ただし、その後、1998（平成10）年からは本誌（『パッソ ア パッソ』）が毎年刊行されており、『専修大学図書館学・司書課程年報』は間接的にはその前身のひとつと言ってもよいだろう。

3. おわりに

以上、本学司書・司書教諭課程の55年の歩みを整理してきた。設置当初からのカリキュラムはもとより、図書館実習や就職懇談会などの各種の行事に表される、かつての諸先生方の熱意や工夫、先見性等には、ひたすら頭の下がる思いである。こうした歴史的な経緯のもとに、現在の恵まれた状況があるということに改めて実感し、感謝するとともに、身を引き締めて引き継いでいかなければと自戒している。また、今日までの司書・司書教諭



（写真2）

課程の活動においては、歴代の教務課職員の方々による、極め細やかな支援があつてのことであり、このことも特に改めて記しておきたいと思う。こうした様々な感慨の念を持つことができたということも含めて、節目の年に、必ずしも詳細な内容というわけではないが、このような形で記録にとどめておくことの意義は大きいと考えている。

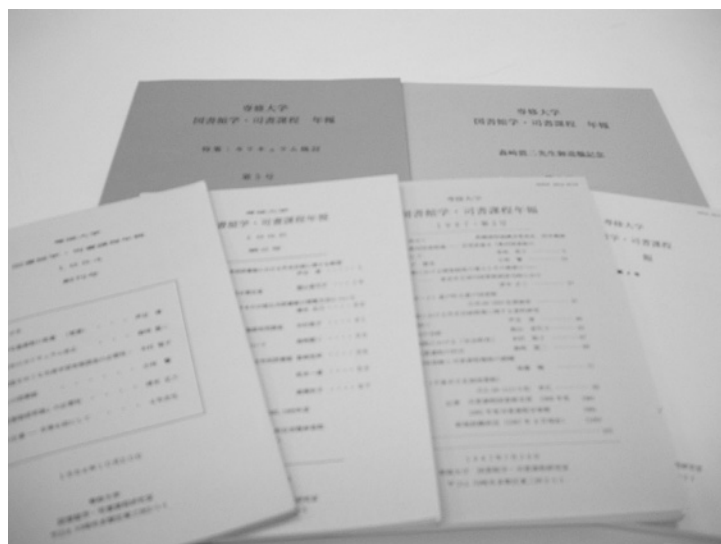
なお、史料的な問題もあり、現時点で年代が確定できない事柄や詳らかでない事柄も少なかつた。本稿で取り上げた内容について、あるいは司書・司書教諭課程全般に関わる史料等をお持ちの方、ご存知の方がいましたら、筆者までご一報いただけると幸いである。

謝辞

本稿をまとめるに当たり、芦谷清先生、後藤暢先生には、貴重なご助言、ご示唆をいただきました。ここに記して感謝申し上げます。

註・文献

- 1) 芦谷清「本学司書課程の変遷（覚書）」『専修大学図書館学・司書課程年報』創刊号，1984年，p.1-2. / 「専修大学の歴史」編集委員会編『専修大学の歴史』平凡社，2009年，p.241.
- 2) 芦谷清「本学司書課程の変遷（覚書）」『専修大学図書館学・司書課程年報』創刊号，1984年，p.2.
- 3) 「専修大学の歴史」編集委員会編『専修大学の歴史』平凡社，2009年，p.241.
- 4) 前掲2)，p.9.
- 5) 芦谷清「司書・司書教諭課程の過去・現在・未来」『パッソ ア パッソ』第10号，2008年，p.30.
- 6) 森崎震二「1983年のカリキュラム改正—専修大学司書課程の試み—」『専修大学図書館学・司書課程年報』創刊号，1984年，p.18-19.
- 7) 前掲2)，p.9.
- 8) 前掲2)，p.2-4.
- 9) 前掲2)，p.6.
- 10) 前掲2)，p.10.
- 11) 前掲6)，p.13.
- 12) 前掲2)，p.9-10.
- 13) 専修大学図書館学・司書課程研究室「専修大学司書課程の特徴」『専修大学図書館学・司書課程年報』第5号，1993年，p.2.
- 14) 前掲13)，p.1-2.
- 15) 前掲5)，p.30.
- 16) 小松孝則「専修大学司書課程における就職指導—就職懇談会を中心に—」『図書館雑誌』第92巻第7号，1998年，p.551.
- 17) 森崎震二「図書館資料論（4単位）」『専修大学図書館学・司書課程年報』第5号，1993年，p.15.
- 18) 前掲2)，p.10.
- 19) 前掲13)，p.2.



(写真3)

図書館実習を終えて

公益財団法人 東京子ども図書館 科目等履修生 山口 晶子

東京子ども図書館での実習では、普段の授業だけではわからない貴重な体験をさせていただきました。東京子ども図書館のことは2年程前に同じ職場の方を通じて知りました。小さい頃から何度も読んだピーターラビットの絵本を訳された石井桃子さんのかつら文庫や東京子ども図書館のことを知った時は嬉しく、文庫の見学や大人のためのお話会にもお邪魔しました。そんなこともあり、今回の実習を受け入れていただけたことは私にとって本当に幸運でした。

東京子ども図書館は東京にある4つの文庫（石井桃子さんのかつら文庫、土屋滋子さんの2つ土屋児童文庫、館長の松岡享子さんの松の実文庫）が集まって発足した私立図書館です。児童の直接サービスの他に大人のための資料室の運営を行っています。資料室には日本全国の昔話や世界の昔話が揃えられていました。そのほかに機関誌や子どもと本やお話に関する本の発行・講演・講座の開催、人材育成などさまざまな活動を行っています。

4日間の実習では編集や資料室の各担当の方からお話を伺い、児童室での実習や本の会（選書会議）、わらべうた講座、勉強会にも参加させていただきました。児童室の実習では最初に自分の名前を平仮名で書いた名札を作りました。児童室はカードでの貸出を行い、貸出時は字が書ける子どもにはカードに自分で名前と年齢を記入してもらいます。貸出は3歳からで、初めて本を借りる前に図書館の決まりを守ることを約束してから署名をすることになっていました。子どもと職員の方がお互いに顔が見える形でしっかりと結びついているように感じました。いよいよ子どもが児童室にやってきました。ほとんど身近で子どもに接する機会がなかったため、緊張しました。この図書館ではいつでも子どもが読みたい時に職員の方が読み聞かせをしているのです。職員の方が私を子どもに紹介してくれたおかげで、子どもからおもしろい本を教えてくださいました。それは動物が絵の中に隠れている絵本で職員の方が教えてくれた本だそうです。絵本の読み聞かせも2人の女の子にする機会がありました。ちゃんと読めているのか、読むスピードは速すぎないかと不安でしたが、私と一緒に読んだ本を借りてくれたときは嬉しかったです。その後、年齢別のお話会を見

学させてもらいました。職員の方のお話もおもしろく、真剣にお話を聞いている子どもたちの姿も印象的でした。

また、本の会（選書会議）も見学させていただきました。児童室の蔵書にするかどうかは職員の方が書店で購入したり、寄贈されたりした本をこの会で検討し、決めます。1冊の資料を3名以上の職員の方が読み、評価します。3名以上の職員の方が賛成しなければ児童室に排架されないのだと伺いました。本の会での職員の方の評価や感想を聞き、表記の仕方や言葉のリズム、絵と文字のバランス、物語のつながり等、非常に細かく図書が選ばれていることに驚きました。シリーズ物の図書でも1冊ずつ丁寧に選書されていました。また歴史や事実関係がきちんと描かれているかも検討され、改めて幅広い知識が必要なのだと感じました。

そのほかに、読書キャンペーンという児童室の催し物の写真を見せていただきました。この催し物は本を読んでもらうことを目的としたもので、1年に1回開かれます。毎回テーマがおもしろく、写真から楽しさが伝わっていました。今回の実習の中で職員の方が子どもにより本に出会ってほしいという思いでさまざまな活動をなさっていることがわかりました。また、図書館員は子どものこと、本のことをよく知らなければいけないことを学びました。子ども時代に好きな本に出会えたことは私にとって本当にかげがえのないものです。そして、その本と私を結び付けてくれる人や図書館があったから出会えたのだと思います。本と人を結びつける図書館員はやはり素晴らしく重要な仕事なのだとことをとても感じさせてくれる実習でした。



卒業生から —私が司書になった理由—

専修大学図書館生田本館・分館勤務 生駒 光太（平成20年度法学部法律学科卒業）

『なんとなく』から『仕事にしたい』へ

私は大学に入学する前まで、司書はおろか、図書館にすらそれほど興味を抱いたことはありませんでした。司書資格を取得しようと思った経緯も、親しい先輩からの「何か資格を勉強したほうが良い」という助言からで、教職より取得単位数の少ない司書を“なんとなく”選んだのがきっかけです。

最初のうちは司書の授業を学んでいても、それほど熱意を持てなかった私ですが、法学部で法律を学ぶ傍ら、司書の授業が良い頭の気分転換になっていきました。また、楽しくも非常に為になる授業を展開してくださった素晴らしい先生方のおかげもあり、2年次の中頃には、図書館という空間、その在り方に好奇心を抱くようになり、そしてそこで働く司書という職業に強い憧れを持つようになりました。

『憧れ』と『現実』

その憧れが仕事に就きたいという志望に変わるのはすぐでした。ただ、そこには厳しい現実がありました。正規の司書採用は非常に狭き門です。私は就職試験に向け勉強を続ける中で、不安を抱くようになりました。就職自体に対してもそうですが、それ以上に自分の目指しているものに対しての不信感です。私は大学に入学してからの教養だけでしか、図書館を知りませんでした。これから私が進む現実とはとても漠然としていて、未来がぼやけてみえました。

そんな風に思っていたある日、司書課程の授業のあと、先生から専修大学図書館で学生アルバイトを募集しているので誰か働いてみないかと話がありました。先走ってしまった……と少し思ったのですが、そう思う頃には自分の手は挙がっていました。

『経験』と『観察』

実務を経験し、観察することで図書館業務全般の流れを把握し、現実の図書館を知ろうと思い行動した結果、私は専修大学図書館生田分館で働くことになりました。



ここでの経験は本当に自分の視野を広げてくれました。図書館の業務といっても様々な分野に及ぶこと、資料の電子化、業務委託・指定管理者制度等の運営形態の変化、異なる図書館間での相互協力など、図書館の現実を考える上でのテーマは尽きることはありませんでした。何よりも現場で働いている司書、職員の方々との触れ合いが一番の刺激になり、働いていて充実感を感じました。

4年次に神奈川県立図書館に実習に行った事も含め、こうした現場での経験が漠然としていた現実を、厳しくも鮮明なものにしてくれました。

『現在の私』

現在の私は、縁もあり専修大学図書館生田本館・分館にて閲覧業務を担当しています。業務内容としては、カウンターでの貸出・返却などの利用者対応や書架での配架作業といった基本的な事が主です。開館・閉館作業や、図書館内の施設巡回も我々の大事な仕事の一つです。それ以外にも展示係や統計係など、閲覧スタッフそれぞれに役割が課せられているので、それらを通常業務の合間にこなしたりしています。

司書の資格を取得しようとする動機は人により様々だと思いますが、私はなんとなく取得しようとしたことで人生が変わりました。それに、司書課程を通じて知り合った仲間のコミュニティは現在でも私の宝物です。もし、漠然と司書に志望を抱いている人がいるなら、一度この世界に飛び込んでみることを私は勧めたいです。司書課程で学んでいることが、より現実味を増してよく理解できるようになります。

私がこの先、ずっと図書館と関わる仕事を続けていけるかは私自身の意志と頑張り次第ですが、少なくとも今は司書という仕事、それを取り巻く環境が好きです。司書として働くため、その仕事を通して人間として成長するために、努力を続けていくつもりです。





學藝員課程

博物館のある風景

文学部 講師 高島 裕之

2010年4月より、「博物館実習」の科目を担当しています。専修大学の学芸員課程は、少人数の実習が特色であり、これまで全国に優秀な学芸員を輩出してきております。自らの力は微力ではありますが、課程を支えてくださる教職の先生方、職員の方々にご協力いただき、学ぶ学生の情熱を合わせて、よりいっそうの発展の力となれますよう、努力をしてみたいです。どうぞよろしくお願い致します。

— 1 —

2010年3月まで私は大学の附属博物館で勤務していました。博物館の活動には、資料収集、保管、展示、教育活動などがありますが、日本の大学の博物館では、各々のスクールカラーを活かしながら、様々な取り組みを行っています。私は前の職場で、幸運にもまず博物館を立ち上げ、その活動を軌道に乗せていくという貴重な経験をさせていただきました。世の中の「仕事」すべてにいえませんが、博物館を運営するのにも常に周囲の理解が必要です。私自身は、人と環境に恵まれ、人生の中でかけがえのない学芸員生活を送ることができました。

実際の仕事としては、大学の情報発信の一環として、研究資料の情報を整理し資料化すること、その成果を広く一般に公開することに努めてきました。大学では多様な立場で数々の研究が行なわれており、それを「展示」という形で公開するためには、ある部分においてトータルコーディネートしていく必要があります。その中で、常に大学の中での博物館の望ましい形を求め、「博物館の存在意義」の命題に取り組んできました。大学内にある博物館の風景をどのように描けばいいのかと。

— 2 —

私は専門として、江戸時代の陶磁器、特に「伊万里焼」の歴史について考古学的な視点から勉強してきました。17世紀の初め、佐賀県の有田町において日本で初めて焼成された磁器、それが「伊万里焼」であり、この「伊万里焼」がどのように生産されてきたのか、窯跡の発掘調査資料から考察を加えてきました。「伊万里焼」は、17世紀後半には世界に輸出された世界商品でした。東南アジアへ、そしてヨーロッパへ向けて、また太平洋を越えてガレオン船に乗ってメキシコへも運ばれています。現在多くの研究者によってその概要が明らかにされています。

私もその交易の実像を追って、2010年9月にベトナム中部のホイアンに行きました。ホ

イアンの町は、1999年にユネスコの世界遺産に登録されていて、旧市街の町並は、建築史学のうえでも貴重な文化財となっています。トゥボン川沿いに開けたこの町は、17世紀の朱印船貿易の時代に作られた日本町のあった場所としても名高く、チャンフー通りの西には、日本人が作ったという伝承の残る「日本橋」があります。

ここをフィールドとして菊池誠一教授を代表とする昭和女子大学のチームが町並の保存活動に協力し、発掘調査も行なってきました。現在2006年に発掘した資料の実測調査が行なわれており、今回はそのメンバーに加えていただきました。

ホイアンでは、交易の中で受容された17世紀から19世紀までの中国・日本の陶磁器が出土しています。陶磁器は土の中でくさらず、時代を映す鏡として、遺跡の中で重要な資料となります。発掘調査では出土した地点を記録し、遺物を取り上げていますが、時代を追って資料を分析していくと、アジアの中でどのようにモノが動いているのか、その手がかりをつかむことができます。実際に17世紀の陶磁器の様相をみると、16世紀末から17世紀前半には中国製品が中心ですが、17世紀後半の一時期、日本製品に変化するということが解っています。

実測調査では、出土した陶磁器の成形や施文などを実際に測りながら、細かく観察していきます。白い素地に青色顔料で文様を描く青花磁器は、筆で絵を描く製品ですから、その動きを忠実に辿ることができるように、すみずみまで観察します。目を凝らしてみると、碗の底部には当時使用した時にできた無数の擦り傷が確認できたりします。このような1点1点の陶磁器の観察から、傾向を読み取ることで、陶磁器の生産地、その当時の流行など様々なことが復元できるのです。今回の実測調査の成果は、昭和女子大学のチームでまとめている報告書に掲載される予定です。

しかし、ホイアン市と昭和女子大学のチームの調査成果は、報告書の出版のみではなく、ホイアン旧市街の貿易陶磁博物館の中で、市民や観光客に展示として紹介されています。

貿易陶磁博物館は、20世紀前半に建てられた住宅を利用しています。入口には帆船の模型が置かれ、この港を介して広く大洋を通じて世界と繋がっているイメージが膨れ上がります。ここは建物の修築保存の際に、日本とホイアン市との協力体制でできた博物館で、その構造は、町の気候に合わせた木造です。トゥボン川の洪水の時には水没してしまうた

め、1階から2階へ素早く荷物を運ぶ出し入れ口が、現在も残っています。

ホイアンの街には、他にも同じように民家を利用した民俗博物館や寺院の建物を利用した歴史文化博物館があります。ホイアンの街の博物館は、その歴史の舞台を最大限に活かし、展示がその環境に溶け込んでいる点、目の前の空間全てが展示として成りたっていることに特徴があるといえます。

— 3 —

実はこのホイアンの博物館の事例が、大学の博物館の望ましい姿ではないでしょうか。博物館が看板を大きく掲げ、「どうだ」とばかりに自己主張しているのではなく、環境に溶け込み必然的に文化活動を行なっているという理想一。

日本の大学博物館は、ここ数十年の中で増加した傾向がありますが、欧米の大学では、大学博物館が1つの研究機関として大きな役割を持ち、その大学の地位を高める役割も果たしています。日本では大学設置基準の中に図書館は施設として必ず置くことになっていますが（「大学設置基準第36条」）、博物館はその条件にはなっていません。そうしたことが大学の附属博物館の形が様々であるという要因であり、その活動は運営に直接携わっている方々のたゆまぬ努力につけるといえる、現状を生み出しているように思います。

専修大学には現在、博物館という施設がありません。しかし図書館やサテライトキャン

パスなどで、研究発表や資料の展示が催されています。また、大学所蔵資料を活用した地域の博物館との連携も行なわれています。つまり大学に「博物館」が生まれる基礎は、十分にあるといえるでしょう。本学の場合、神田キャンパス、生田キャンパスと性格の異なる学びの環境があり、各々の環境に調和した博物館のゾーニングも可能でしょう。

学生の皆さんには、大学の博物館も含め様々な博物館を見学し、ぜひその風景にも目を向けてほしいと思います。展示資料や解説だけでなく、博物館のある風景、目の前全てが展示に見えた時、その博物館はそこでの存在意義を高らかに表現しているといえるのかもしれない。そして、もし専修大学にも博物館があったらと、理想の博物館像を頭の中で描いてもらいたいと思います。さらに大学に博物館があることの意義を考えてもらえたらと思います。大学でせっかく博物館について、学んでいるのですから。あなたがまず博物館の良き理解者になること。そんな積み重ねによって大学を支える学生、教職員、卒業生、地域の人々の間で理解者が増加すれば、環境に溶け込んだ博物館の姿も「現実」になると思います。いつの日か専修大学に博物館のある風景を一。

これがホイアンの町の風景に溶け込んだ歴史の展示を見学し、ふと空を見上げて思ったことの1つです。まず、はじめられることから始めてみませんか。



ベトナム・ホイアン旧市街の街並



ベトナム・ホイアン市貿易陶磁博物館



貿易陶磁博物館の帆船模型



ホイアン出土陶磁器実測調査風景

博物館実習を終えて

高崎市歴史民俗資料館 文学部人文学科哲学人間学専攻3年 落合 瞳

今回私は、群馬県の高崎市歴史民俗資料館で実習をさせていただきました。少しか館の説明をさせていただきます。ここは昭和53年に村役場の建物をそのまま資料館へと造り変えたという、特殊な歴史を持った館でもあります。展示内容は主に昔の生活用品であり、かまどやいろり、ちゃぶ台などが置かれた複数の部屋に分かれています。また駄菓子屋や昔の学校を模した空間もあります。“記憶の部屋”と題された、戦時中のことが学べる空間もあります。私はここで、県内のもう一人の大学生の方と一緒に実習をさせていただきました。

博物館実習の内容、期間、服装等は館によって異なるそうです。服装は動きやすい私服でした。

期間は8月4日から13日で、月曜日が休館日のため9日が休みで、計9日間でした。1日目から最終日まで学芸員の方が組んでくださったプログラムに沿って行われました。1日目、2日目はバックヤードを含む館の見学や農具の洗浄をさせていただきました。館のすべての部屋と展示物の説明を聞き、来客の際の対応に備えました。見学者として館を利用するとき絶対に足を踏み入れないのがバックヤードですが、想像以上にたくさんのものがありました。保存されている展示物が所狭しと積まれており、これを一人で掃除したり並べ替えたりする学芸員の方は大変だなあと心の底から思いました。

洗った農具は犁です。私の祖父母の家は農家で、農具には馴染みがあると思っていたのですが、実際に洗ったのは初めてで、当時の土が出てきたりもして、今でも感触が生々しく残っています。たわしと金だわしを使って、水で洗浄しました。

3日目、4日目は徒歩と、学芸員の方の運転で、館の近くにある古墳やお寺、用水の見学をさせていただきました。群馬県は大和政権時代、力を持っており、古墳の数が奈良に次いで全国2位と言うことを知り、とても驚きました。自分の住んでいる地域には実は数多くの歴史資料があることを知りました。また、

この2日間は日本史の講義を受けているようでしたが、講義と違うことは、自分の足で現地に向かったことにより、身に付き方と記憶の残り方に差ができたことだと思います。

5日目から最終日にかけては、館の企画展に合わせたミニ企画展を任せられ、実際に展示をさせていただきました。『高崎が沈んだ日～明治43年の大水害～』ということで、雨具のコーナーを担当させていただきました。館にあった雨下駄やこうもり傘などをお借りして、展示を作りました。今回の実習において私が一番不安だったのはこれでした。博物館の展示なんてしたことがなかったし、人に見せられるものが完成させられるのだろうか、実習が始まる前からそればかり考えていました。しかし、一緒に展示を行った、もう一人の実習生の方や、館のみなさんのおかげで、無事形にすることができました。これは8月31日～9月26日まで展示され、私が神奈川に戻ってから両親も見に行ってくれました。達成感も味わえ、今後活かせるよい経験と思い出になりました。

今回の実習において私が一番感じたことは、学ぶことは楽しいということです。館を訪れるのは、小学生が大半だそうです。子供たちは、今の自分たちと同じような身分や立場の庶民が昔実際に使っていたものを見学して、生き生きとしながら帰るそうです。昔の生活用品には、作った人々の工夫が見られます。それらはもちろん今私たちの生活に欠かせないものへと受け継がれています。また、歴史を学ぶ私たちの生活もまた、歴史になっていきます。それを楽しそうに話す学芸員の方の話を聞いているのはとても楽しかったです。館では機織体験も実施しており、専門の先生が週2回館に来て、体験をさせてくれるそうです。私も少し体験させていただきました。

高崎市歴史民俗資料館は、とてもアットホームなところですよ。働いている方みなさんが優しく、丁寧に接してくださり、たいへんのびのびと実習させていただくことができ、感謝しています。



博物館実習を終えて

米沢市上杉博物館 文学部人文学科歴史学専攻3年 中村 友紀

私は地元の米沢市上杉博物館で実習をさせていただきました。文学部の歴史学専攻所属のため、歴史関係の博物館で実習がしたいと思い、この博物館を希望しました。

米沢市上杉博物館は、上杉家に関する展示を主とした体験型の博物館です。カフェやショップの他に、上杉家に関する情報や地元の歴史を学ぶことができる情報ライブラリーがあります。また、子どもたちが地元の伝統的技術を体験できたり、季節に合わせてワークショップが開催される体験学習室も設けられており、誰でも気軽に遊びに来られる施設です。さらに、県立の多目的ホール置賜文化ホールも併設されており、コンサートや能を演じる際に利用されます。上杉神社に近いこともあり、博物館には地元の人々だけではなく観光客も多く訪れます。

私にとって博物館実習は、憧れていた学芸員の仕事を体験できるためとても楽しみでしたが、同時に大きな失敗をしたり、分からないことがあって恥を掻いたら嫌だなという不安も抱いていました。

実際に実習をしてみると、学芸員の方が丁寧に説明をしてくださったため、与えられた作業をきちんとこなすことができました。また、学芸員・博物館の仕事について新しい知識を沢山得ることができ、充実した実習になりました。

実習期間は8月23日から28日で、私を含め13名が参加しました。

実習内容は、毎朝職員の方々と同じく朝礼に参加することから始まります。その後の作業はその日ごとに変わり、様々な体験をしました。例えば、博物館に収蔵されている刀剣や掛け軸といった実物の資料の手入れや扱い方を学習しました。また、展示をする際の工夫や注意点についても説明していただきました。実習内容の中心は資料を扱うことや展示についてでしたが、一見学芸員の仕事とは関連しないような、図録の運搬やもぎり・チケット販売といったフロント業務も体験しました。

実習をしていて一番強く感じたことは、学芸員の仕事内容は実に多岐にわたるものであり、知らないことがたくさんあるということ

です。現場で求められる技術は、授業中に学習したことだけが全てではありません。実習をとおして、普段の授業の中だけでは学べないことを体験でき、とても充実していました。

特に資料の保存が想像以上に大変だということが実感出来ました。博物館＝展示と考えてしまいましたが、その裏ではこの世に2つと無い貴重な資料を、できるだけ完全な形で後世に残すための努力が日々なされていました。博物館に求められる展示と保存という全く相反することを実行するには何が必要とされているのか、理解できました。

もうひとつ印象に残っていることは、ガイドブックの作成とプレゼンです。小学校中学年から中学生を対象として、常設展示室の案内を作成するという課題でした。私は小学校中学年を中心に考え、漢字に読み仮名をふり、キャラクターを入れるなど子供でも興味をもてるデザインにしました。また、秋から常設展示室内で国宝洛中洛外図屏風の原本展示が始まるので、子供たちに屏風をじっくり見てもらうため解説を入れて作りました。他の実習生はガイドブックを巻物型にしたり、クイズを取り入れ展示室全体を見て回るようにするといった工夫をしていました。他の実習生のプレゼンを聞くことで、自分のガイドブックに足りないことや、着目していなかったことについて改めて考え直すことができ、とても勉強になりました。

学芸員資格を取得しようとしている皆さんにとって、この体験は絶対無駄になりません。実習先を探すことから始まり大変だと思いますが、積極的な姿勢で実習に臨み、素晴らしい経験ができるように是非頑張ってください。



博物館実習を終えて

財団法人家具の博物館 文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻3年 柳浦 紋佳

私は家具の博物館で実習を行いました。こちらの博物館はフランスベッド社の工場の一角にあり、非常に小さい博物館です。しかしその博物館の静かな雰囲気が高く、また普段からインテリアを見る事が好きだったので、家具の博物館で実習をしたいと思い、実習館とさせていただきました。

始めにこの博物館は工場の中の空いているスペースに作ったので、施設としてはきちんとした倉庫もなく不十分である事と、“雑芸員”と呼ばれていた頃の仕事をしてみようという説明がありました。そして実際に行ってみると、雑用とも思われることを行いました。まず毎朝家具の掃除から始まります。椅子や筆筒を硬く絞った雑巾で水拭きとから拭きをします。しかし同じ掃除でも家具にはそれぞれ個性があるため、それに見合った拭き方をしなくてはなりません。例えば桐筆筒は水拭きをしてしまうと水を吸い込んでしまいカビになってしまうので、から拭きで拭かなくてはならないのです。こうして初日の初仕事から展示物に直接触らせていただくという、貴重な体験をさせていただきました。どの展示物においても共通して言えると思いますが、見ているのと実際に触ってみるのでは全く違うという事を掃除を通して実感しました。どこが壊れそうになっているのか、どのように動かせばよいか、この家具はどのようにして使われていたのかといったことが、実際に自分の手で触れてその展示物と向き合う事で分かるのだという事を学びました。

掃除が終わると、倉庫にしまう家具を保存しておくために梱包する作業を行いました。これは倉庫の設備が整っていないから行うそうです。まず家具の寸法を測り、その長さに約+10cmして家具の胴周りに巻く段ボールを作成します。完成すると実際にその段ボールを巻いてみてか

ら再び測定し、上下につける蓋の長さを算出してそれに合わせて蓋を作成します。そして全く家具が動かない事を確認してから、蓋が動かないように紐を巻き、作品番号を貼って完成となります。始めは学芸員の方と一緒に行いましたが、徐々にもう一人の実習生と2人で作成するようになりました。最終日には時間もなかったことから、2人で話し合って作業の効率化を図るために、蓋がこれくらいの大きさになるだろうからと図面上で長さを算出して、蓋の部分と胴周りに巻く部分の段ボールを同時進行で作成しました。しかし段ボールの厚みを考えていなかったため、蓋のサイズが合わず、ぎゅうぎゅうになってしまいました。いくら時間がなくて作業時間を短縮したいからと言っても、やはり一つ一つきちんとこなしていかなければならないことを身にしみて実感しました。

その他にも日本全国から送られてくる博物館の図録やリーフレットを棚に入れて整理する作業や、家具の博物館で使われる冊子の製本作業を行いました。

中には学芸員はやらない仕事も行ったそうですが、掃除は作品をよりよく知る事ができ、梱包作業においては、もし博物館の倉庫の設備が不十分であつたらどうすれば良いのかという対処方法を学ぶことができました。また図書整理ではしていくうちに全国の博物館がどこにあるかを覚え、知ることができ、製本作りでは冊子の内容が頭に入ってくるなどと、それぞれに学芸員になる為に重要な肥やしとなる事を実習し、学ばせていただきました。このように一見雑用と取られがちなことでも、それは必ず学芸員になるために必要な要素が含まれており、自分にとってもプラスとなる何かしらが含まれていて、どのようなことでもそれぞれに意味があることなのだと実習を通して学ぶことができました。



データ編



平成22年度 資格課程履修者数

	学 部	年 次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
			1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教 育	経 済	経 済 学 科	25	4	48	16	33	13	22	7	128	40	168
		国 際 経 済 学 科	5	—	16	—	9	—	7	—	37	—	37
	法	法 律 学 科	29	8	28	13	26	12	19	10	102	43	145
		政 治 学 科	15	—	11	—	16	—	8	—	50	—	50
	営 業	経 営 学 科	33	—	49	—	27	—	15	—	124	—	124
		商 業 学 科	—	—	—	—	—	—	4	—	4	—	4
	商	マーケティング学科	36	3	34	10	30	15	28	6	128	34	162
		会 計 学 科	2	—	5	—	9	—	8	—	24	—	24
	文 学	日本語日文学科	—	—	57	—	42	—	42	—	141	—	141
		日 本 語 学 科	22	—	—	—	—	—	—	—	22	—	22
		日本文学文化学科	27	—	—	—	—	—	—	—	27	—	27
		英語英米文学科	32	—	37	—	22	—	32	—	123	—	123
		人 文 学 科	—	—	64	—	39	—	52	—	155	—	155
		哲 学 学 科	9	—	—	—	—	—	—	—	9	—	9
		歴 史 学 科	44	—	—	—	—	—	—	—	44	—	44
		環 境 地 理 学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
		人文・ジャーナリズム学科	7	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7
		心 理 学 科	—	—	3	—	3	—	5	—	11	—	11
職 能	ネットワーク情報	ネットワーク情報	15	—	26	—	38	—	27	—	106	—	106
		学 科	7	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7
	人 間 科 学 部	心 理 学 科	23	—	—	—	—	—	—	—	23	—	23
		学 科	9	—	—	—	—	—	—	—	9	—	9
	大 目 等	履 修 生	—	34	—	—	—	—	—	—	—	34	34
		計	344	49	378	39	294	40	269	23	1,285	151	1,436
	小 合	計	393	—	417	—	334	—	292	—	1,436	—	1,436
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大 目 等	履 修 生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	学 部	年 次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
			1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 法	経 済	経 済 学 科	2	2	8	8	3	3	6	13	19	26	45
		国 際 経 済 学 科	4	—	3	—	—	—	2	—	9	—	9
	法	法 律 学 科	10	5	8	9	7	4	5	6	30	24	54
		政 治 学 科	1	—	2	—	7	—	—	—	10	—	10
	営 業	経 営 学 科	1	—	8	—	—	—	1	—	10	—	10
		商 業 学 科	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2
	商	マーケティング学科	3	1	4	4	10	—	4	2	21	7	28
		会 計 学 科	—	—	—	—	—	—	2	—	2	—	2
	文 学	日本語日文学科	—	—	56	—	54	—	53	—	163	—	163
		日 本 語 学 科	10	—	—	—	—	—	—	—	10	—	10
		日本文学文化学科	34	—	—	—	—	—	—	—	34	—	34
		英語英米文学科	11	—	10	—	7	—	4	—	32	—	32
		人 文 学 科	—	—	48	—	56	—	29	—	133	—	133
		哲 学 学 科	14	—	—	—	—	—	—	—	14	—	14
		歴 史 学 科	35	—	—	—	—	—	—	—	35	—	35
		環 境 地 理 学 科	6	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6
		人文・ジャーナリズム学科	5	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5
		心 理 学 科	—	—	1	—	3	—	8	—	12	—	12
書 教	ネットワーク情報	ネットワーク情報	8	—	6	—	7	—	4	—	25	—	25
		学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
	人 間 科 学 部	心 理 学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
		学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
	大 目 等	履 修 生	—	9	—	—	—	—	—	—	—	9	9
		計	156	17	154	21	154	7	120	21	584	66	650
	小 合	計	173	—	175	—	161	—	141	—	650	—	650
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大 目 等	履 修 生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	学 部	年 次 学 科	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
			1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司 法	経 済	経 済 学 科	—	—	1	1	—	—	—	1	1	2	3
		国 際 経 済 学 科	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
	法	法 律 学 科	1	—	2	—	—	1	1	1	4	2	6
		政 治 学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	営 業	経 営 学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		商 業 学 科	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	商	マーケティング学科	1	—	2	—	2	—	1	—	4	2	6
		会 計 学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	文 学	日本語日文学科	—	—	12	—	5	—	4	—	21	—	21
		日 本 語 学 科	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
		日本文学文化学科	5	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5
		英語英米文学科	3	—	—	—	2	—	—	—	5	—	5
		人 文 学 科	—	—	3	—	2	—	3	—	8	—	8
		哲 学 学 科	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
		歴 史 学 科	3	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3
		環 境 地 理 学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		人文・ジャーナリズム学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		心 理 学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
書 教	ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	—	—	—	1	—	3	—	6	—	6
		学 科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	人 間 科 学 部	心 理 学 科	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
		学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
	大 目 等	履 修 生	—	1	—	—	—	—	—	—	—	1	1
		計	26	1	18	3	12	1	13	2	69	7	76
	小 合	計	27	—	21	—	13	—	15	—	76	—	76
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大 目 等	履 修 生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

	学 部	年 次	1 年		2 年		3 年		4 年		小 計		合計
		学 科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学 芸 員	経 済	経 済 学 科	3	1	2	2	2	—	1	1	8	4	12
		国 際 経 済 学 科	1	—	1	—	—	—	2	—	4	—	4
	法	法 律 学 科	1	2	2	2	2	—	—	1	5	5	10
		政 治 学 科	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1
	営 業	経 営 学 科	1	—	5	—	—	—	—	—	6	—	6
		商 業 学 科	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	商	マーケティング学科	—	1	1	—	4	—	6	—	11	1	12
		会 計 学 科	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1
	文 学	日本語日文学科	—	—	2	—	20	—	6	—	28	—	28
		日 本 語 学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
		日本文学文化学科	6	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6
		英語英米文学科	3	—	1	—	3	—	—	—	7	—	7
		人 文 学 科	—	—	12	—	41	—	9	—	62	—	62
		哲 学 学 科	11	—	—	—	—	—	—	—	11	—	11
		歴 史 学 科	34	—	—	—	—	—	—	—	34	—	34
		環 境 地 理 学 科	4	—	—	—	—	—	—	—	4	—	4
		人文・ジャーナリズム学科	6	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6
		心 理 学 科	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1
ネットワーク情報	ネットワーク情報	2	—	1	—	3	—	—	—	6	—	6	
人 間 科 学 部	学 科	1	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	
	心 理 学 科	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
大 学	学 院	2	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2	
科 目 等	履 修	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小 計	計	82	4	27	4	76	76	26	2	211	10	221	

平成22年度 教員免許状取得状況一覧

データ編

Pana a Pana

	免 許 種 類	中 学 一 種					高 校 一 種					中 学 専 修					高 校 専 修					合 計					
		社 会	国 語	英 語	数 学	小 計	地 理 歴 史	公 民	情 報	商 業	国 語	書 道	英 語	数 学	小 計	社 会	国 語	英 語	地 理 歴 史	公 民	商 業		国 語	英 語	情 報	小 計	
生 田	経 済 学 科	11				11	11	12							23											34	
	授 与 件 数	7				7	9	7							16											23	
	国 際 経 済 学 科						1	2	3						5											6	
	授 与 件 数	0				0	0	2							2											2	
	経 営 学 科	3				3		2		2					4											7	
	授 与 件 数	0				0	0	0		2					2											2	
	商 業 学 科																									0	
	授 与 件 数																									0	
	会 計 学 科										6																6
	授 与 件 数									5																	5
	マ ー ケ テ ィ ン グ 学 科	7				7	9	7	3	15					34												41
	授 与 件 数	6				6	8	3	2	14					27												33
	人 文 学 科	37				37	43	36							79												116
	授 与 件 数	31				31	34	30							64												95
	心 理 学 科	2				2		5							5												7
	授 与 件 数	2				2		4							4												6
日 本 語 日 本 文 学 科		29			29						42	4		46												75	
授 与 件 数		27			27						37	3		40												67	
英 語 英 米 文 学 科			22		22								26													44	
授 与 件 数		20			20								24													29	
英 語 英 米 文 学 科			9		9				9				11	20												20	
授 与 件 数			5		5				8				7	15												0	
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数															0										0		
授 与 件 数																											

平成22年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	白樺学園高等学校	情報	経営	経営	
	北海道	帯広市立帯広第八中学校	英語	文	英語英米文	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	公民	経済	国際経済	
	岩手県	専修大学北上高等学校	英語	文	英語英米文	
	岩手県	岩手県立不来方高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	岩手県	専修大学北上高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	岩手県	専修大学北上高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	秋田県	秋田県立大館鳳鳴高等学校	英語	文	英語英米文	
	秋田県	秋田県立湯沢高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	宮城県	宮城県仙台南高等学校	公民(政治経済)	文	心理	
	福島県	学校法人松嶺学園福島高等学校	公民	経済	経済	
	福島県	福島県立郡山高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	福島県	福島県立会津高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	福島県	福島県立郡山東高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	福島県	福島県立郡山東高等学校	英語	文	英語英米文	
関東	茨城県	茨城県立鉾田第一高等学校	公民	商	マーケティング	
	茨城県	茨城県立鬼怒商業高等学校	商業	商	会計	
	茨城県	茨城県立土浦第三高等学校	商業	商	会計	
	茨城県	清真学園高等学校・中学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	茨城県立鹿島高等学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	茨城県立水海道第一高等学校	英語	文	英語英米文	
	茨城県	常陸大宮市立大宮中学校	社会	文	人文	環境地理学
	茨城県	水戸市立内原中学校	社会	文	人文	環境地理学
	茨城県	龍ヶ崎市立愛宕中学校	社会	文	人文	環境地理学
	栃木県	宇都宮市立宮の原中学校	社会	経済	経済	
	栃木県	栃木県立宇都宮中央女子高等学校	地理歴史	経済	経済	
	栃木県	那須塩原市立東那須野中学校	社会	経済	経済	
	栃木県	栃木県立栃木商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	栃木県	栃木県立宇都宮商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	栃木県	栃木県立足利清風高等学校	商業	商	会計	
	栃木県	足利市立西中学校	社会	文	人文	歴史学
	栃木県	宇都宮市立陽南中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	群馬県立嬬恋高等学校	地理歴史	経済	経済	
	群馬県	群馬県立前橋女子高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	群馬県	前橋市立鎌倉中学校	英語	文	英語英米文	
東	群馬県	群馬県立桐生女子高等学校	地理歴史(地理)	文	人文	環境地理学
	埼玉県	春日部共栄高等学校	公民	商	マーケティング	
	埼玉県	上里町立上里中学校	社会	商	マーケティング	
	埼玉県	所沢市立東中学校	社会	商	マーケティング	

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	埼玉県	三芳町立藤久保中学校	英語	文	英語英米文	
	埼玉県	さいたま市立白幡中学校	社会	文	人文	歴史学
	埼玉県	久喜市立久喜中学校	社会	文	人文	社会学
	埼玉県	埼玉県立浦和北高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	鴻巣市立鴻巣西中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	白岡町立白岡中学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	柏市立富勢中学校	社会	経済	経済	
	千葉県	柏市立柏高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	千葉県	千葉県立国分高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	千葉県	千葉県立匝瑳高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	千葉県	香取市立山田中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	千葉県	千葉県立柏中央高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英語	文	英語英米文	
	千葉県	千葉敬愛高等学校	地理歴史(日本史)	文	人文	歴史学
	千葉県	敬愛学園高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	千葉県	君津市立八重原中学校	社会	文	人文	歴史学
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公民	文	心理	
	千葉県	千葉県立長狹高等学校	公民	文	心理	
	千葉県	千葉県立君津商業高等学校	情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
東京都	東京都	東亜学園高等学校	公民	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	東京都	京華商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	東京都立柏江高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語(現代文)	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	練馬区立南が丘中学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	日本大学第一高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	東京都立新宿高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	白梅学園高等学校	国語	文	日本語・日本文学文化	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	葛飾区立東金町中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	八王子高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立成瀬高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立三田高等学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	世田谷区立松原小学校	全科	文	英語英米文	
	東京都	狛江市立狛江第三中学校	英語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立上水高等学校	地理歴史(世界史)	文	人文	歴史学

平成22年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	大東文化大学第一高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	下北沢成徳高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立東大和南高等学校	地理歴史(世界)	文	人文	歴史学
	東京都	日本学園中学校・高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	青稜中学校・高等学校	社会	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	数 学	ネットワーク編	ネットワーク編	
	東京都	東京都立清瀬高等学校	情 報	ネットワーク編	ネットワーク編	
	東京都	東京成徳大学高等学校	情 報	ネットワーク編	ネットワーク編	
	東京都	東京都立府中高等学校	地理歴史	文学研究科		地理学
	神奈川県	神奈川県立舞岡高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立弥栄高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	公 民	経済	経済	
	神奈川県	相模原市立緑が丘中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立大正中学校	社会	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立上矢部小学校	全 科	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	公 民	経済	国際経済	
	神奈川県	厚木市立睦合東中学校	社会	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立向の岡工業高等学校	公 民	商	マーケティング	
	神奈川県	神奈川県立商工高等学校	商 業	商	マーケティング	
	神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校	商 業	商	会計	
	神奈川県	神奈川県立希望ヶ丘高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
東	神奈川県	小田原市立泉中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立大和西高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	葉山町立南郷中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	藤沢市立湘南台中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	秦野市立鶴巻中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	横浜市立桜丘高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立大船高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立相原高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立はるひ野中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立平塚江南高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立大原高等学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	横須賀市立衣笠中学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	川崎市立東高津中学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	鎌倉市立深沢中学校	英 語	文	英語英米文	
	神奈川県	神奈川県立深沢高等学校	地理歴史(世界)	文	人文	哲学生人学

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	神奈川県立座間高等学校	地理歴史(日本)	文	人文	歴史学
	神奈川県	小田原市立白鷗中学校	社 会	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	地理歴史(世界)	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市立高津高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立松陽高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	神奈川県	神奈川県立横浜栄高等学校	地理歴史(地理)	文	人文	環境地理学
	神奈川県	横浜市立永田中学校	社 会	文	人文	社会学
	神奈川県	横浜市立市ヶ尾中学校	社 会	文	心理	
東	神奈川県	横浜市立さつきが丘小学校	全 科	文	心理	
	神奈川県	横須賀市立公郷中学校	数 学	ネットワーク編	ネットワーク編	
	神奈川県	洗足学園高等学校	数 学	ネットワーク編	ネットワーク編	
	神奈川県	桐蔭学園高等学校	情 報	ネットワーク編	ネットワーク編	
	神奈川県	神奈川県立大和高等学校	英 語	文学研究科		英語英米文学
甲信越	新潟県	新潟市立新津第五中学校	社 会	経営	経営	
	新潟県	新潟市立宮浦中学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立新潟江南高等学校	英 語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立加茂高等学校	英 語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立柏崎高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟市立坂井輪中学校	社 会	文	人文	環境地理学
	新潟県	新潟県立柏崎高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	新潟県	新潟県立高田高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	新潟県	上越市立三和中学校	社 会	文	人文	社会学
	山梨県	富士吉田市立明見中学校	社 会	経済	経済	
	山梨県	北杜市立高根中学校	社 会	経済	経済	
	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	山梨県	上野原市立上野原中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	山梨県	中央市立玉穂中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	山梨県	山梨県立桂高等学校	英 語	文	英語英米文	
	山梨県	駿台甲府中学校・高等学校	社会地理史・公民	文	人文	歴史学
	山梨県	山梨県立桂高等学校	地理歴史・公民	文	人文	
北海道	長野県	松商学園高等学校	公 民	経済	国際経済	
	長野県	長野県小諸商業高等学校	商 業	商	会計	
	長野県	上田市立塩田中学校	国 語	文	日本語日文	日本語学
	長野県	長野県諏訪二葉高等学校	公 民	文	人文	哲学生人学
	長野県	岡谷市立岡谷東部中学校	社 会	文	人文	哲学生人学
	長野県	長野県中野西高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
北陸	石川県	石川県立寺井高等学校	商 業	商	マーケティング	
	石川県	石川県立飯田高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
	福井県	福井県立三国高等学校	国 語	文	日本語日文	日本文学文化
東海	岐阜県	岐阜市立岐阜商業高等学校	商 業	商	マーケティング	
	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	情 報	ネットワーク編	ネットワーク編	

平成22年度 教育実習先一覧（生田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
東海	静岡県	日本大学三島高等学校	公民	経営	経営	
	静岡県	静岡県立静岡商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	静岡県	富士市立岳陽中学校	社会	文	人文	哲学人間学
	静岡県	静岡市立高等学校	地理歴史(日本史)	文	人文	歴史学
	愛知県	南山国際高等学校	国語	文	日本語・日本語	日本語学
	愛知県	名古屋市立守山東中学校	社会	文	人文	歴史学
近畿	兵庫県	報徳学園高等学校	地理歴史(日本史)	商	マーケティング	
中国	鳥取県	鳥取県立米子西高等学校	公民(倫理)	文	人文	哲学人間学
	岡山県	岡山県立岡山東商業高等学校	商業	商	マーケティング	
	島根県	島根県立松江商業高等学校	商業	商	会計	
	島根県	益田東高等学校	数学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	広島県	広島県立広島井口高等学校	地理歴史	文	人文	社会学

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
四国	高知県	越知町立越知中学校	社会	経営	経営	
九州・沖縄	福岡県	柳川高等学校	地理歴史	商	マーケティング	
	福岡県	築上町立椎田中学校	国語	文	日本語・日本語	日本文学文化
	熊本県	専修大学玉名高等学校	商業	商	マーケティング	
	鹿児島県	天城町立北中学校	社会	経済	経済	
	鹿児島県	鹿児島高等学校	地理歴史(日本史)	経済	経済	
	沖縄県	沖縄尚学高等学校	地理歴史	商	マーケティング	

平成22年度 教育実習先一覧（神田）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北 関 東	福島県	福島県立安積黎明高等学校	公民(現代社会)	法	政治
	神奈川県	相模原市立共和中学校	社会	法	法律
	神奈川県	茅ヶ崎市立松浪中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	栃木県	白鷗大学足利高等学校	公民(現代社会)	法	法律
	東京都	江戸川区立篠崎第二中学校	社会	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史・公民	法	法律
	神奈川県	横浜国立大学付属高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	神奈川県立住吉高等学校	公民	法	法律
	神奈川県	茅ヶ崎市立浜須賀中学校	社会	法	法律
	神奈川県	藤沢学園藤沢高等学校	日本史	法	法律

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関 東 甲 信 越 東 海 四 国 赤 松	千葉県	千葉市立蘇我中学校	社会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	政治
	茨城県	日立市立十王中学校	社会	法	政治
	埼玉県	狭山市立堀兼中学校	社会	法	政治
	埼玉県	埼玉県立松山女子高等学校	地理歴史	法	政治
	東京都	日本学園高等学校	世界史	法	政治
	山梨県	日本航空高等学校	社会	法	法律
	山梨県	笛吹市立一宮中学校	社会	法	政治
	静岡県	裾野市立西中学校	社会	法	法律
	愛媛県	宇和島市立吉田中学校	社会	法	法律
	熊本県	九州学院高等学校	公民	法	法律

平成22年度 教育実習先一覧（二部）

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北 関 東	宮城県	仙台育英学園高等学校	地理歴史	科目等履修生	
	福島県	いわき市立豊間中学校	社会	科目等履修生	
	茨城県	筑西市立 下館中学校	社会	法学部	法律学科
	埼玉県	浦和学院高等学校	公民	法学部	法律学科
	埼玉県	埼玉県立 熊谷高等学校 定時制	公民	法学部	法律学科
	埼玉県	埼玉県立 福岡高等学校	地理歴史(公民)	法学部	法律学科
	埼玉県	川口市立 芝西中学校	社会	法学部	法律学科
	千葉県	流山市立 北部中学校	社会	科目等履修生	
	千葉県	我孫子市立 我孫子中学校	国語	科目等履修生	
	千葉県	船橋市立 海神中学校	社会	科目等履修生	
	東京都	東京都立 竹台高等学校	地理歴史(世界史)	経済学部	経済学科
	東京都	共栄学園中学高等学校	地理歴史	法学部	法律学科

	所在地	実習校名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関 東 甲 信 越 東 海 四 国	東京都	品川区立 浜川中学校	社会	法学部	法律学科
	東京都	東京都立 第五商業高等学校	商業	商学部	マーケティング学科
	東京都	明星高等学校	英語	科目等履修生	
	東京都	あきる野市立 御堂中学校	英語	科目等履修生	
	神奈川県	横浜市立 大鳥中学校	社会	経済学部	経済学科
	新潟県	新潟産業大学付属高等学校	公民	科目等履修生	
	長野県	長野市立 柳町中学校	社会	経済学部	経済学科
	徳島県	徳島県立 徳島商業高等学校	公民(現代社会)	商学部	マーケティング学科

平成22年度 図書館実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	帯広市図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	西東京市図書館	経済	経済	
	東京都	専修大学図書館神田分館	法	法律	
	東京都	専修大学図書館神田分館	法	法律	
	東京都	三鷹市立三鷹図書館	文	日本語日文	日本語学
	東京都	練馬区立光が丘図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	府中市立中央図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	東京都立中央図書館	文	人文	哲学生人間学
	東京都	青梅市中央図書館	文	人文	歴史学
	東京都	八王子市立中央図書館	文	人文	歴史学
	東京都	東京子ども図書館	科目等履修生		

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	専修大学図書館	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	川崎市立麻生図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立中原図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	専修大学図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	川崎図書館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立多摩図書館	文	人文	哲学生人間学
	神奈川県	藤沢市総合市民図書館	文	人文	社会学
	神奈川県	横浜市中心図書館	文	心理	
	神奈川県	専修大学図書館	文	心理	
	神奈川県	専修大学図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	山梨県	山梨県立図書館	法	法律	

平成22年度 博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海道立北方民族博物館	文	人文	哲学生人間学
	青森県	八戸市博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	岩手県	えさし郷土文化館	文	日本語日文	日本文学文化
	岩手県	盛岡市先人記念館	文	人文	歴史学
	岩手県	北上市立博物館	文	人文	環境地理学
	山形県	米沢市上杉博物館	文	人文	歴史学
	福島県	いわき市立美術館	文	日本語日文	日本語学
	福島県	福島県立博物館	文	人文	歴史学
関東	茨城県	茨城県立歴史館	文	人文	哲学生人間学
	茨城県	古河歴史博物館	文	人文	歴史学
	茨城県	日立市郷土博物館	文	人文	歴史学
	栃木県	さくら市ミュージアム荒井寛方記念館	文	日本語日文	日本文学文化
	栃木県	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	文	人文	歴史学
	栃木県	佐野市郷土博物館	文	人文	社会学
	群馬県	群馬県立自然史博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	群馬県	高崎市歴史民俗資料館	文	人文	哲学生人間学
	群馬県	太田市立新田荘歴史資料館	文	人文	歴史学
	埼玉県	埼玉県立歴史と民俗の博物館	文	人文	哲学生人間学
	埼玉県	埼玉県子ども動物自然公園	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市青少年宇宙科学館	文	人文	環境地理学
	千葉県	市川市動植物園	文	日本語日文	日本語学
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	東京都夢の島熱帯植物館	商	マーケティング	
	東京都	目黒寄生虫館	商	会計	
	東京都	(財) 進化生物学研究所	文	日本語日文	日本語学
	東京都	弥生美術館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	日本郵政(株) 郵政資料館(通信総合博物館)	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	家具の博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	東京都	福生市郷土資料室	文	英語英米文	
	東京都	民音音楽博物館	文	英語英米文	
	東京都	村内美術館	文	人文	哲学生人間学
	東京都	明治大学博物館	文	人文	歴史学
	東京都	八王子市郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	日野市郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	古代オリエント博物館	文	人文	歴史学
	東京都	中近東文化センター付属博物館	文	人文	環境地理学

	所在地	実習館名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	東京都	科学技術館	文	人文	社会学
	東京都	板橋区立熱帯環境植物館	文	人文	社会学
	東京都	東京都恩賜上野動物園	文	心理	
	東京都	多摩動物公園	文学研究科		歴史学
	神奈川県	電車とバスの博物館	文	日本語日文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立神奈川近代文学館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	はまぎんこども宇宙科学館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	シルク博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	三溪園	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	日本語日文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文	人文	哲学生人間学
	神奈川県	横浜市歴史博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	つる舞の里歴史資料館	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市立金沢動物園	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	文	人文	歴史学
	神奈川県	相模原市立博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	伊勢原市子ども科学館	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム	文	人文	歴史学
	神奈川県	シルク博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	文	人文	歴史学
	神奈川県	横浜市三股考古館	文	人文	歴史学
甲信越	神奈川県	遊行寺宝物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	人文	社会学
	新潟県	新潟県立歴史博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	新潟県	新潟市歴史博物館	文	日本語日文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立植物園	文	人文	哲学生人間学
	新潟県	新潟県立万代島美術館	文	人文	歴史学
	長野県	北野美術館	文	日本語日文	日本文学文化
	長野県	下諏訪町立諏訪湖博物館・赤彦記念館	文	人文	歴史学
	長野県	松本市立博物館	文	人文	歴史学
北陸	富山県	富山市民俗民芸村	文	日本語日文	日本語学
	富山県	黒部市美術館	文	人文	歴史学
	静岡県	焼津市歴史民俗資料館	文	日本語日文	日本文学文化
	愛媛県	松山市立子規記念博物館	文	日本語日文	日本文学文化

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 18 年 度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	専 任	全 科
	平17 経済・経済	藤沢市立第一中学校	期 限 付	社 会
	平17 経済・国際経済	銚子市立西中学校	専 任	社 会
	平 9 法 ・ 法律	千代田区立麹町小学校	専 任	全 科
	平11 法 ・ 法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張高等学校）	非 常 勤	社会・公民
	平14 法 ・ 法律	小学校（川崎市）	専 任	全 科
	平14 法 ・ 法律	三田市立藍中学校	専 任	社 会
	平16 法 ・ 法律	足立区立千住本町小学校	専 任	全 科
	平17 法 ・ 法律	葛飾区立綾南小学校	専 任	全 科
	平16 経営・経営	専修大学付属高等学校	専 任	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非 常 勤	情 報
	平18 経営・経営	学校法人加計学園（岡山理科大学附属高等学校）	非 常 勤	情 報
	平15 商 ・ 商業	甲斐市立玉幡小学校	専 任	全 科
	平17 商 ・ 商業	香川県立中部養護学校高等部	期 限 付	特殊（養護）
	平17 商 ・ 商業	YMCA高等学院	非 常 勤	商 業
	平18 商 ・ 商業	浦安市立美浜中学校	非 常 勤	社 会
	平18 商 ・ 商業	学校法人日本放送学園（NHK学園）	非 常 勤	商 業
	平14 文 ・ 英米文	川崎市立御幸中学校	専 任	英 語
	平14 文 ・ 英米文	多摩市立東愛宕中学校	専 任	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	学校法人秀明学園（秀明英光高等学校）	非 常 勤	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	渋谷区立中学校	非 常 勤	英 語
	平18 文 ・ 英語英米文	平田村立小平中学校	常 勤	英 語
	平14 文 ・ 人文	四街道市立中央小学校	専 任	全 科
	平14 文 ・ 人文	八王子市立山田小学校	専 任	全 科
	平17 文 ・ 人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学校・高等学校）	非 常 勤	社会・地理歴史
	平17 文 ・ 人文	学校法人誠恵学院（誠恵高等学校）	常 勤	地 理 歴 史
	平18 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立庄和高等学校	非 常 勤	情 報
	平15 院文・修士	渋谷区立常盤松小学校	専 任	全 科
	平16 院文・修士	東京都立町田養護学校	専 任	
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	非 常 勤	英 語
平成 19 年 度	平18 経済・経済	大田区立糀谷中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	常総市立中学校	常 勤	社 会
	平19 経済・経済	学校法人昭和第一学園（昭和第一学園高等学校）	常 勤	公 民
	平19 経済・経済	学校法人国士館（国士館中学・高等学校 全日制）	非 常 勤	社 会
	平 3 法・法律	さいたま市立安行小学校	専 任	全 科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）	常 勤	公 民
	平16 法・法律	東京都立足立養護学校	専 任	数 学
	平17 法・法律	葛飾区立東水元小学校	専 任	全 科
	平18 法・法律	笛吹市立春日居中学校	専 任	社 会
	平19 法・法律	学校法人堀越学園（堀越高等学校）	非 常 勤	地歴（世界史）
	平19 法・法律	学校法人箕面自由学園（箕面自由学園）	非 常 勤	
	平19 法・法律	栃木県教育委員会（高校社会）	非 常 勤	
	平17 経営・経営	横浜市立奈良小学校	専 任	全 科
	平19 経営・経営	学校法人青森山田学園（青森山田高等学校）	専 任	商 業
	平16 商・商業	鳩ヶ谷市立里中学校	常 勤	社 会
	平18 商・商業	川崎市立真福寺小学校	専 任	全 科
	平19 商・商業	伊勢原市立中沢中学校	臨時的任用	社 会
	平19 商・商業	静岡県立磐田南高等学校	非 常 勤	商 業
	平11 文・人文	神奈川県立三崎水産高等学校	非 常 勤	地 歴
	平16 文・人文	千葉県教育委員会	専 任	中・高社会
	平16 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	中 学 社 会
	平16 文・人文	学校法人明星学園（浦和学院高等学校）	非 常 勤	地 歴
	平16 文・人文	浜松市立泉小学校	常 勤	全 科
	平17 文・人文	広島県立西条農業高等学校	非 常 勤	地 歴
	平19 文・人文	群馬県立前橋女子高等学校	非 常 勤	国 語
	平16 文・国文	立川市立立川第七中学校	専 任	国 語
	平19 文・日本語日本文	大田原市立大田原小学校	非 常 勤	全 科
	平19 文・日本語日本文	浜松市立入野中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人大乗淑徳学園（淑徳巣鴨中学高等学校）	常 勤	国 語

主な教員就職先一覧

就職 年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成 19 年 度	平19 文・日本語日本文	水戸市立見川中学校	非 常 勤	国 語
	平19 文・日本語日本文	学校法人東京農業大学（東京農業大学第一高等学校） （東京農業大学第一高等学校中学部）	非 常 勤	国 語
	平17 文・英語英米文	学校法人日田佐藤学園（藤蔭高等学校）	専 任	英 語
	平19 文・英語英米文	学校法人大森学園（大森学園高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人日通学園（流通経済大学付属柏高等学校）	非 常 勤	情 報
	平19 院経営・修士	東京都立新宿山吹高等学校 東京都立大泉高等学校 神奈川県立ひばりが丘高等学校	非 常 勤	情 報
	平16 院文・博士	相模原市立相模台小学校	非 常 勤	全 科
	平19 院文・修士	学校法人東京家政学院（東京家政学院中学校・高等学校）	非 常 勤	英 語
	平19 院文・修士	東京都立小川高等学校	非 常 勤	地 歴
平 成 20 年 度	平13 経済・経済	茨城県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平13 経済・経済	川崎市教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平20 経済・経済	埼玉県立和光国際高等学校	期 限 付	情 報
	平18 経済・国際経済	相模原市立大沢中学校	非 常 勤	社 会
	平18 経済・国際経済	名古屋教育委員会（小学校）	非 常 勤	全 科
	平13 法・法律	足立区教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 法・法律	豊科町立豊科北中学校	非 常 勤	社 会
	平19 法・法律	国分寺市立第7小学校	専 任	全 科
	平19 法・法律	東京都教育委員会（小学校）	期 限 付	全 科
	平20 法・法律	富山県立富山商業高等学校	非 常 勤	公 民
	平17 経営・経営	埼玉県立小鹿野高等学校	専 任	情 報
	平20 経営・経営	学校法人美学学園（岡山県作陽高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人常総学院（常総学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 商・商業	倉敷市立真備陵南高等学校	常 勤	情報・商業
	平18 商・商業	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学高等学校）	非 常 勤	公 民
	平20 商・会計	学校法人鎌形学園（東京学館船橋高等学校）	非 常 勤	商 業
	平10 文・人文	東京都教育委員会（中学・高校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	専修大学附属高等学校	専 任	地 理 歴 史
	平18 文・人文	学校法人大妻学院（大妻女子大学附属中・高等学校）	専 任	地 理 歴 史
	平20 文・人文	市原市立八幡小学校	非 常 勤	小 学 校
	平17 文・日本語日本文	守山市立小津小学校	専 任	全 科
	平20 文・日本語日本文	八戸市立下長中学校	常 勤	中 学 校
	平20 文・日本語日本文	広島市立中広中学校	非 常 勤	国 語
	平18 文・英語英米文	東京都教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平18 文・英語英米文	新発田市立第一中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	山武市立蓮沼中学校	専 任	英 語
	平18 文・英語英米文	東京都立練馬工業高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	豊橋市立東陽中学校	常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	神奈川県立白山高等学校	非 常 勤	英 語
	平20 文・英語英米文	山武市立北小学校	非 常 勤	英 語
	平20 ネットワーク情報・ネットワーク情報	学校法人 明星学園（浦和学院高等学校）	常 勤	情 報
	平20 院経営・修士	学校法人帝京学園（帝京中学・高等学校）	非 常 勤	情 報
	平20 院商・修士	学校法人藤嶺学園（藤沢翔陵高等学校）	専 任	情報・商業
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	専 任	英 語
	平20 院文・修士	専修大学附属高等学校	非 常 勤	公 民
	平20 院文・修士	学校法人東京女子学園（東京女子学園中学・高等学校）	常 勤	国 語
	平20 院文・修士	学校法人相模女子大学 相模女子大学中学部・高等部（高等部配属）	専 任	国 語
	平20 院文・修士	南足柄市立南足柄中学校	非 常 勤	特 別 支 援
平成 21 年 度	平21 経済・経済	柏市立豊四季中学校	専 任	社 会
	平21 経済・経済	神奈川県厚木市立第二小学校	常 勤	全 科
	平18 経済・国際経済	名古屋教育委員会（小学校）	専 任	全 科
	平21 経済・国際経済	日高市立高根小学校	専 任	全 科
	平13 法・法律	東京都教育委員会（中学校・高校）	専 任	社 会
	平21 法・法律	笛吹市立浅川中学校	非 常 勤	社 会
	平21 商・会計	学校法人中央学院大学（中央学院大学中央高等学校）	非 常 勤	商 業
	平18 文・英語英米文	東京都立上水高等学校	専 任	英 語
	平20 文・英語英米文	埼玉県教育委員会（中学校）	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	草加市立花栗中学校	期 限 付	英 語
	平21 文・英語英米文	朝霞市立第一中学校	専 任	英 語
	平21 文・英語英米文	砺波市立庄川中学校	専 任	英 語

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就 職 先	職 名	教 科
平成21年度	平 9 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平16 文・人文	神奈川県教育委員会（中学校）	専 任	社 会
	平17 文・人文	神奈川県海老名市立柏ヶ谷中学校	専 任	社 会
	平19 文・人文	仙台市立田子中学校	常 勤	社 会
	平19 文・人文	横浜市立獅子ヶ谷小学校	専 任	全 科
	平20 文・人文	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	臨時的任用	地 理 歴 史
	平21 文・人文	鳥取市立宮ノ下小学校	常 勤	全 科
	平21 文・人文	横浜市立嶮山小学校	専 任	全 科
	平18 文・日本語日本文	都立王子特別支援学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	学校法人東京文理学院高等部	常 勤	国 語
	平21 文・日本語日本文	渋谷区立広尾中学校	専 任	国 語
	平21 文・日本語日本文	福島県立塙工業高等学校	月手当講師	国 語
	平21 文・心理	川島町立小見野小学校、川島町立ハッポ小学校、川島町立三保谷小学校、川島町立出丸小学校	非 常 勤	
	平19 院文・修士	相模原市立大野南中学校	専 任	英 語
	平21 院文・修士	座間市立相模中学校	専 任	英 語
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校 和光高等学校	非 常 勤	情 報
	平20 経営・経営	学校法人聖徳学園（聖徳学園中学・高等学校）	非 常 勤	数 学
平成22年度	平15 法・法律	栃木県小山市立間々田小学校	専 任	全 科
	平22 法・政治	学校法人中央学院 中央学院大学中央高等学校	非 常 勤	
	平20 経営・経営	埼玉県立伊奈学園総合高等学校	非 常 勤	数 学 情 報
	平22 経営・経営	専修大学松戸高等学校	非 常 勤	情 報
	平17 商・商業	神奈川県立相原高等学校	常 勤	商 業
	平22 商・マーケティング	横浜市立富士見中学校	非 常 勤	社 会
	平22 商・会計	岐阜県立岐阜商業高等学校	常 勤	商 業
	平14 文・国文	学校法人明星学園 浦和学院高等学校	常 勤	英 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立厚木北高等学校	常勤期限付	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人麴町学園 麴町学園女子中学・高等学校	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	専修大学玉名高等学校	常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人明星学園 明星中学高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	学校法人翔英学園 米子北高等学校	非 常 勤	国 語
	平22 文・日本語日本文	神奈川県立高等学校	常勤臨時的任用	国 語
	平22 文・英語英米文	岐阜県立益田清風高等学校	常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	相模原市立二本松小学校	非 常 勤	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人明德学園 相洋中学校・相洋高等学校	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	横浜市立大曾根小学校	専 任	全 科
	平22 文・英語英米文	学校法人国本学園 国本女子高等学校	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	山梨県立都留高等学校	非 常 勤	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人松韻学園 松栄高等学校	専 任	英 語
	平22 文・英語英米文	学校法人明星学園 浦和学院高等学校	常 勤	英 語
	平19 文・人文	白井市立南山中学校	専 任	社 会
	平21 文・人文	米子市立住吉小学校	専 任	全 科
	平22 文・人文	秋田県立横手清陵学院高等学校	常 勤	地 理 歴 史
	平22 ネットワーク情報・ネットワーク情報	埼玉県立三郷北高等学校	常勤期限付	数 学
	平21 ネットワーク情報・ネットワーク情報	柏崎市立柏崎小学校	産休代理	全 科
	平22 院文・修士	海老名市立大谷中学校	専 任	英 語
	平22 院経営・修士	学校法人北鎌倉女子学園 北鎌倉女子学園中学校・高等学校	非 常 勤	情 報
	平22 院商・修士	東京都立浅草高等学校、東京都立大崎高等学校 東京都立八王子桑志高等学校、東京都立山吹高等学校 東京都立葛飾ろう学校、東京都立篠崎高等学校 埼玉県立富士見高等学校	非 常 勤	商 業
	平22 院文・修士	学校法人川村学園 川村中学校・川村高等学校	期 限 付	国 語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤 務 先	
千葉県明德短期大学図書館	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
市川市東国分中学校	長岡市立中央図書館（新潟県）
瀬高町立図書館準備室（福岡県）	（株）雄松堂書店
東京大学法学部図書館	青山学院女子短期大学図書館
日外アソシエーツ（株）	国土館大学鶴川図書館
見附市立図書館（新潟県）	実践女子大学図書館
（株）有隣堂	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
女子栄養大学図書館	相模原市立相模大野図書館（神奈川県）
下妻市立図書館準備室	神奈川県立川崎高等学校
東京医科大学図書館	東京福祉商経専門学校図書室
杉並区中央図書館	横須賀市立中央図書館
葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）	三省堂書店
種村立図書館（茨城県）	神奈川県立図書館
専修大学図書館	江東区立亀戸図書館
八街市立図書館（千葉県）	横浜総合リハビリテーションセンター図書館
藤沢市立中央図書館	典昭堂
鷺湖書房	

学芸員課程主な就職先一覧

勤 務 先	
宮城県栗原市役所	通信総合博物館
行田市郷土博物館	（財）山武郡市文化財センター
下妻市ふるさと博物館	（株）乃村工藝社
さいたま市浦和くらしの博物館民家園	調布市郷土博物館
行方市玉造公民館（資料館）	日本民藝館
野田市郷土博物館	東京国際美術館
東京都埋蔵文化財センター	町田市フォトサロン
すみだ郷土文化資料館	栃木県立博物館
群馬県埋蔵文化財調査センター	山梨県立考古博物館
町立湯河原美術館	福井県立歴史博物館
高山市立郷土館	新発田市教育委員会
国際航業株式会社	入間市郷土博物館
鳥羽水族館	静岡市立登呂博物館
秋田県埋蔵文化財センター	松戸市立博物館
埼玉県埋蔵文化財センター	箱根美術館
栃木県埋蔵文化財センター	大牟田市三池カルタ・歴史資料館
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	東京都教育委員会
富岡市立美術博物館 福沢一郎記念美術館	青森県教育委員会
（東京）電力館	高知県教育委員会
MOA美術館	愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター
九州国立博物館	八街市郷土資料館
高松市歴史資料館	鳥取県教育委員会
臼杵市教育委員会	

平成22年度 資格課程年間行事表

課程		教 職 課 程		司 書 課 程		司 書 教 諭 課 程		学 芸 員 課 程	
月		行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次	行 事	対 象 年 次
4 月	上 旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年）							
	中 旬	履 修 科 目 登 録 お よ び 履 修 修 正（全学年）							
	下 旬	介護等の体験事前オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3・4 3						
5 月	上 旬	教育実習事前ガイダンス 教育実習 （5月～10月）	4						
	下 旬	介護等の体験開始 （5月下旬～3月中旬）						博物館実習事前ガイダンス	3・4
6 月	上 旬	教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出	3 3	博物館実習事前 ガイダンス	4			博物館見学実習	3・4
	下 旬	教員免許状一括申請ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス（3年次 までに司書教諭の単位 をすべて修得した者）	4		
7 月	上 旬							博物館実習（館務実習） （7月～9月）	3・4
	下 旬	前 期 試 験（全 学 年）							
8 月		夏 期 休 暇（8月上旬～9月上旬）							
		前 期 追 試 験（全 学 年）							
				図書館実習	4				
夏 期 休 暇									
9 月	下 旬	教員免許状授与と申請 書確認ガイダンス	4			司書教諭修了証書 申請ガイダンス （4年次で司書教諭の科目を履修した者）	4		
10 月	上 旬	教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
	中 旬								
11 月	上 旬							学芸員資格取得証明書交付 申請手続き	4
	下 旬	教育学会	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
12 月	中 旬			司書課程就職 （進路）相談会	1～4			実習希望博物館との内諾交渉	2・3
1 月	中 旬	後 期 試 験（全 学 年）							
2 月	下 旬	後 期 追 試 験（全 学 年）							
								博物館実習承諾書の提出	2・3
3 月	2 2 日	教員免許状の交付	4					学芸員資格取得証明書の交付	4

平成22年度 教職公開講座開催結果

1. 開催日 平成22年10月2日(土)
2. 時 間 13:30～17:10 (17:30-19:00反省・情報交換会)
3. 場 所 生田校舎 8号館(反省・情報交換会会場：キャビン(9号館5階))
4. 参加者数 114名
5. 内容

(1) 現職教員(専大OB)からの提言

(教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在)

講 師 (卒業年・学部・学科)	勤 務 先	科 目
井上 亜衣子 先生 (平成20年3月文学研究科日本語日本文学専攻修了)	専修大学附属高等学校	国 語
横瀬 喬哉 先生 (平成17年3月文学部英語英米文学科卒業)	東京都立世田谷泉高等学校	英 語
(平成18年3月商学部商業学科卒業)	中学校	社 会
小泉 実穂 先生 (平成21年3月文学部人文学科環境地理学専攻卒業)	東京農業大学第三高等学校	地 理 歴 史
林 潔明 先生 (平成17年3月商学部商業学科卒業)	神奈川県立相原高等学校	商 業
栗原 香菜子 先生 (平成18年3月ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科卒業)	埼玉県立所沢西高等学校	情 報
岡部 麻衣子 先生 (平成20年3月法学部法律学科卒業)	江戸川区立小岩小学校	小 学 校
佐藤 龍一 先生 (平成22年3月文学部英語英米文学科卒業)	横浜市立大曽根小学校	

(2) 採用者側からの助言

(教職員の望ましいあり方および現在の教育課程について)

講 師	小 林 幹 夫 先生	東京都多摩教育事務所指導課長
-----	------------	----------------

(3) タイムテーブル

時 間	内 容	場 所
13:30～13:40 (10分)	挨拶 教職課程協議会委員長 経営学 教授 内田 欽三	814教室
13:50～14:30 (40分)	現職教員からの提言① 国 語 井上 亜衣子 先生 社 会 商 業 林 潔明 先生 小 学 校 佐藤 龍一 先生	821教室 822教室 823教室 824教室
14:40～15:20 (40分)	現職教員からの提言② 英 語 横瀬 喬哉 先生 地理歴史 小泉 実穂 先生 情 報 栗原 香菜子 先生 小 学 校 岡部 麻衣子 先生	821教室 822教室 823教室 824教室
15:30～16:00 (30分)	現職教員とのディスカッション 英 語 横瀬 喬哉 先生 社 会 地理歴史 小泉 実穂 先生 商 業 林 潔明 先生・情 報 栗原 香菜子 先生 小 学 校 岡部 麻衣子 先生・佐藤 龍一 先生 国 語 井上 亜衣子 先生	821教室 822教室 823教室 824教室 812教室
16:10～17:10	採用者側からの助言 小林 幹夫 先生	814教室
17:30～19:00	終了後、反省・情報交換会	キャビン (9号館5階)

平成22年度 司書課程就職（進路）相談会開催結果

1. 日 時：平成22年12月11日（土）
2. 時 間：15：00～16：30
3. 場 所：神田校舎 205教室（1号館2階）
4. ゲ ス ト：小林 達矢さん（大新東ヒューマンサービス株式会社 営業企・支援部 / 本学卒業生）
5. 参加者数：23名
6. 内 容：地方自治体の様々な事業を受託している「大新東ヒューマンサービス」の正社員として、公共図書館業務を担当している小林氏から、ご自身の就職活動の経緯、及び、これまでに従事された業務の具体的な内容についてお話を伺った。参加した学生からは「図書館の現場では、どういう人材が求められているのか」「図書館関連の求人情報はどのように探すのか」等の質問が出され、担当教員の解説等を交えつつ、和やかに懇談が行われた。



平成22年度 資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経済学部	教 授	矢吹 芳洋	公民科教育論
経済学部	講 師	角田真紀子	発達・学習心理学
法学部	教 授	広瀬 裕子	教育行政学
法学部	准 教 授	鈴木 秀光	法律学
法学部	准 教 授	森田 司郎	道德教育論
経営学部	教 授	嶺井 正也	教育行政学
商学部	教 授	蔭山 雅博	地理歴史科教育論
商学部	教 授	中野 育男	商業科教育論
文学部	教 授	青山 高義	自然地理学概論 b
文学部	教 授	新井 勝紘	日本史 a・b
文学部	教 授	上原 秀明	地誌学
文学部	教 授	大庭 健	倫理学 a・b
文学部	教 授	上村 妙子	教育実習
文学部	教 授	鐘ヶ江晴彦	教育社会学
文学部	教 授	小峰 直史	特別活動論
文学部	教 授	高橋 龍夫	国語科教育論 I
文学部	教 授	田邊 祐司	英語科教育論 II
文学部	教 授	仲川 恭司	書道科教育論
文学部	教 授	貫 成人	哲学 a・b
文学部	教 授	廣瀬 玲子	中国文学講義 a・b
文学部	教 授	松尾 容孝	人文地理学概論 a
文学部	教 授	江崎 雄治	人文地理学概論 b
文学部	准 教 授	片桐 一彦	英語科教育論 I
文学部	准 教 授	苅谷 愛彦	地理学 a・b
ネットワーク 情報学部	教 授	砂原 由和	教育方法論
ネットワーク 情報学部	講 師	望月 俊男	情報科教育論
経済学部	兼任講師	斉藤 利彦	社会科教育論 I
経済学部	兼任講師	菅澤 康雄	社会科教育論 I
法学部	兼任講師	荒井 明夫	社会科教育論 I
法学部	兼任講師	飯塚 順子	教育方法論
法学部	兼任講師	日高 慎	日本史 a・b
法学部	兼任講師	宮崎 孝治	教育原論
法学部	兼任講師	森 美保子	スクールカウンセリング
法学部	兼任講師	奥田 喜道	法律学
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育原論
商学部	兼任講師	泉 貴久	地理学 a・b
商学部	兼任講師	市川 功	倫理学
商学部	兼任講師	岩田 公夫	教職入門
商学部	兼任講師	神山 安弘	総合演習
商学部	兼任講師	遠山 孝七	商業科教育論
商学部	兼任講師	前川 明彦	人文地理学概論 a・b
商学部	兼任講師	三浦 朋子	社会科教育論 I・II
商学部	兼任講師	谷 秀雄	倫理学 a・b

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文学部	兼任講師	石井 輝義	日本史 a・b
文学部	兼任講師	大熊 徹	教育実習
文学部	兼任講師	岡 秀一	地誌学
文学部	兼任講師	小野寺利行	外国史
文学部	兼任講師	角田 清美	地誌学
文学部	兼任講師	小林 克則	外国史
文学部	兼任講師	田口 博子	宗教学
文学部	兼任講師	山下 直	国語科教育論 I
文学部	兼任講師	山添 謙	地理学 a・b
文学部	兼任講師	服部あさこ	教育社会学
文学部	兼任講師	滝澤 武	英語科教育論 I
文学部	兼任講師	村松 弘一	外国史
ネットワーク 情報学部	兼任講師	高橋 聡	数学科教育論 I・II
ネットワーク 情報学部	兼任講師	御園 真史	総合演習
ネットワーク 情報学部	兼任講師	飯塚 久男	教育方法論
ネットワーク 情報学部	兼任講師	伊東 洋一	情報と職業

《司書・司書教諭》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
文学部	教 授	荻原 幸子	図書館概論
文学部	准 教 授	野口 武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生 純	生涯学習概論
法学部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報メディアの活用
法学部	兼任講師	田中 功	情報検索演習
法学部	兼任講師	水上 和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	中山美由紀	学習指導と学校図書館
経営学部	兼任講師	渡辺 暢恵	学習指導と学校図書館
文学部	兼任講師	松本 直樹	図書館サービス論
文学部	兼任講師	汐崎 順子	児童サービス論
文学部	兼任講師	須賀 千絵	図書館経営論
文学部	兼任講師	中島 玲子	情報サービス概説
文学部	兼任講師	長谷川昭子	図書館サービス論
文学部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職 名	氏 名	主要な担当科目
経営学部	教 授	内田 欽三	博物館学
文学部	講 師	高島 裕之	博物館実習

編集後記 ～資格課程年報編集委員より～

今回もたくさんの方々に力作を寄稿していただいた。編集委員として感謝の限りである。

本誌の発行10号記念の際に書かせていただいたのであるが、本誌は教員、司書教諭、司書、学芸員をめざす学生たちを応援するとともに、専修大学の資格課程の活動や取り組みを内外に発信するという役割を持つものとして発刊するようになったのである。発刊を提言したものとして、その役割が十分に果たしているかどうかは断言できないが、しかし、本誌が存在することの意義は少しは認知されつつあるのではないかな。

そう感じているのは他にもない。昨年、本学の教職課程は、文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会による実地視察を受けた。事前に提出する膨大な書類作成だけでなく、実地視察当日は学長、全学部の学部長、教職課程担当者がそろって対応したのである。実は、この時の書類作成においても実地視察当日においても、本学の資格課程の特色の一つとして本誌の役割を紹介することができたのである。その意味で、本誌の意義が改めて確認できた。

お陰で本学の教職課程については高評価を得ることができた。惜しむらくは、実際に教職につく現役学生および卒業生が多数出てくれることである。これは司書・司書教諭課程、学芸課程にも妥当する。それをもっと後押しできる年報になるよう、より一層の充実を図っていきたいものである。

編集委員長

嶺井 正也

編集委員

鐘ヶ江晴彦

広瀬 裕子

野口 武悟

高島 裕之

平成22年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日 平成23年4月1日

編 集 専修大学

生田校舎 教務課 資格課程係

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

TEL 044-911-1259 FAX 044-911-7163

神田校舎 教務課・二部事務課

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8

TEL 03-3265-5843・8359 FAX 03-3265-7084

U R L http://www.senshu-u.ac.jp/sc_grsc/shikaku/

印 刷 株式会社 芳文社

〒194-0033 東京都町田市木曽町2320

TEL 042-792-3100

